

日藝



日本大学芸術学部 2026

Nihon University
College of Art
2026





















今、人類に必要なものは 芸術です

日本大学芸術学部長

川上 央

Hiroshi Kawakami

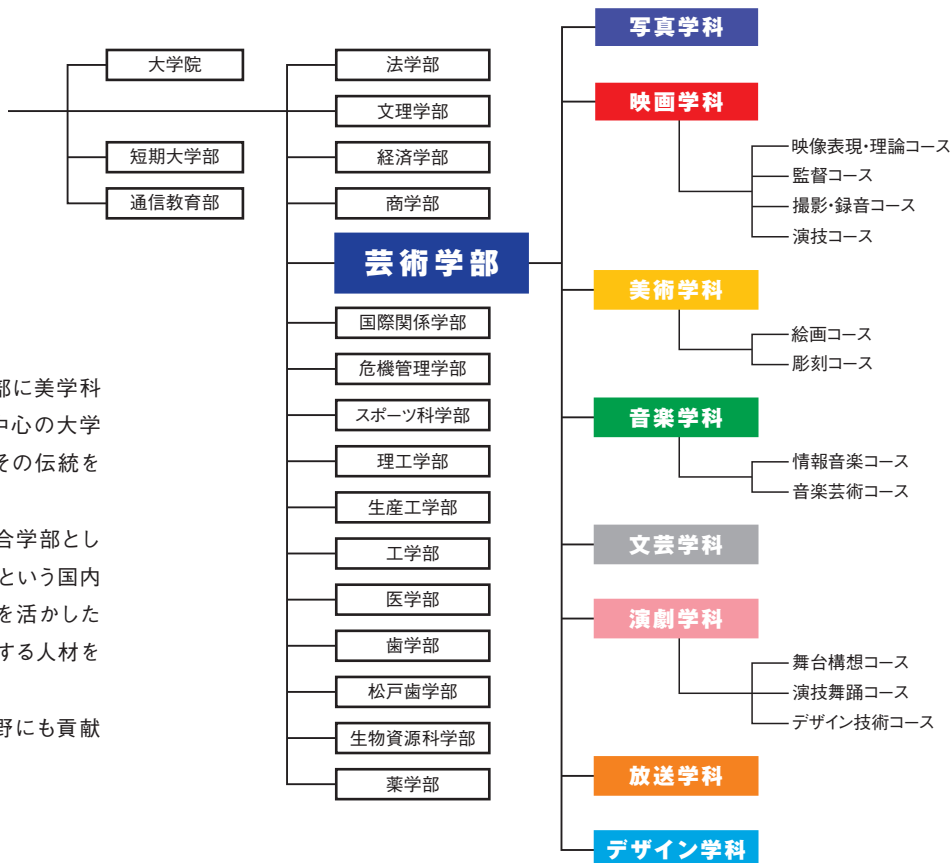
21世紀、人類は大きな変化の中にいます。インターネットによって、世界の人々が自由に繋がり、人種や性別、年齢や地位に関係なく、次々と新たなコミュニティが出現しています。これにより、20世紀までの価値観が崩壊し、地球規模で物事を考える時代になっています。これまでの社会構造では見えてこなかった、あるいは隠されていたような問題も露呈し、これまでの生活では得られなかったような情報を簡単にシェアできるようになっています。その結果、これまでの社会構造の中で長きにわたって作り出されてきた価値観が果たして正しいものであったのかという疑問を持たされています。疑問や不安が増え、社会や人に対する信頼自体が揺らいでいます。では、どうすれば良いのか、この現状を変えることができるのがアートやエンターテインメント、つまり、我々が追求する芸術なのです。

芸術と人間の繋がり歴史は古く、法学、科学、医学、経済学など、大学で学ぶどの分野よりもはるかに昔から存在しています。歌うこと、踊ること、描くこと、我々の専門分野は紀元前、ひょっとすると人類の誕生と共にあるのではないのでしょうか。つまり、芸術とは人間の営みそのものであり、芸術を追求することは人間を追求することなのです。ライブで感動したり、映画やドラマを見て泣いたり、舞台を見て笑ったり、戦場の写真を見て怒りを覚えたり、本を読んでうっとりしたり、人の心を動かすことが芸術学部の日々の学びです。社会とは人、人は心を持った生き物、その心を自在に動かせる芸術こそ、今の日本、そして世界に必要なものです。

総合大学という強み



日本大学



「日大」と「日藝」という 2つのアイデンティティ。

日藝の歴史は、1921年に日本大学法文学部に美学科が誕生したことに始まります。以来、実技中心の大学教育を行う国内初の芸術総合学部として、その伝統を築きあげてきました。

また、私たちは8つの学科を備えた芸術総合学部としてのアイデンティティを保ちつつ、日本大学という国内最大規模の総合大学としてのネットワークを活かした独自の教育システムで、芸術の発展に寄与する人材をこれまで輩出してきました。

これからも芸術分野、そしてそれ以外の分野にも貢献するための教育を続けていきます。

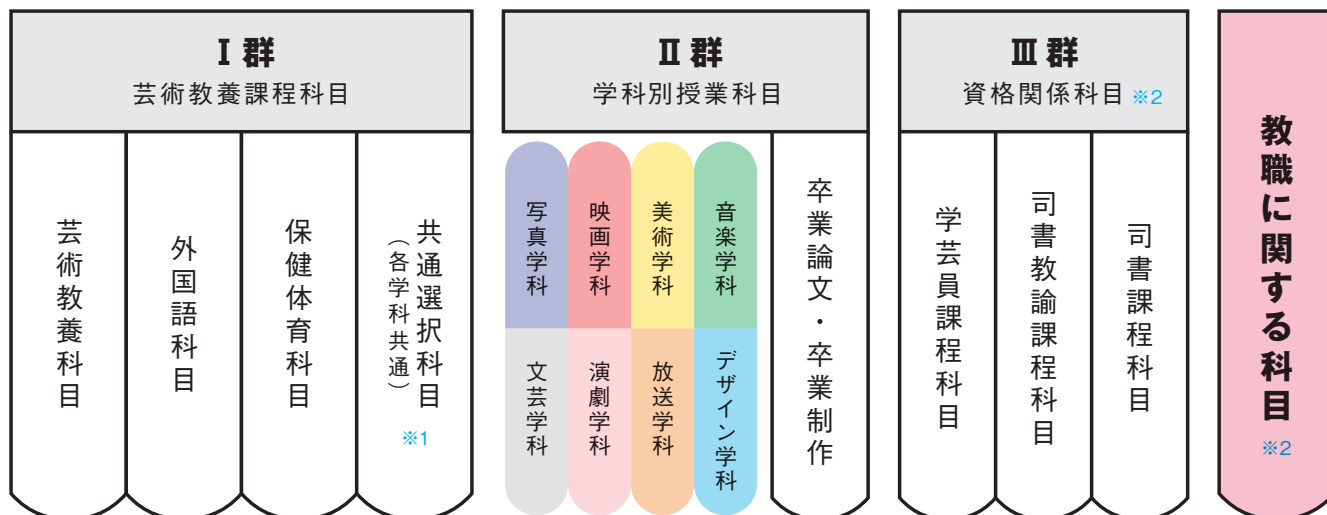
※学科・コースによっては専攻に分かれています。
詳細は各学科ページをご覧ください。



日藝のカリキュラム

4年間のカリキュラムは、学生全員を対象とした日本大学ならではの「全学共通教育科目」、芸術学部における「Ⅰ～Ⅲ群の学び」と「教職に関する科目」で構成されています。

「Ⅰ～Ⅲ群の学び」は、芸術・文化の基礎となる教養を身につけるⅠ群、学科ごとに専門性を高めるⅡ群、学芸員や司書教諭、司書といった資格取得のためのⅢ群からなります。



※1 芸術総合講座、連携型プロジェクト、海外語学研修など
※2 資格については89ページをご確認ください。

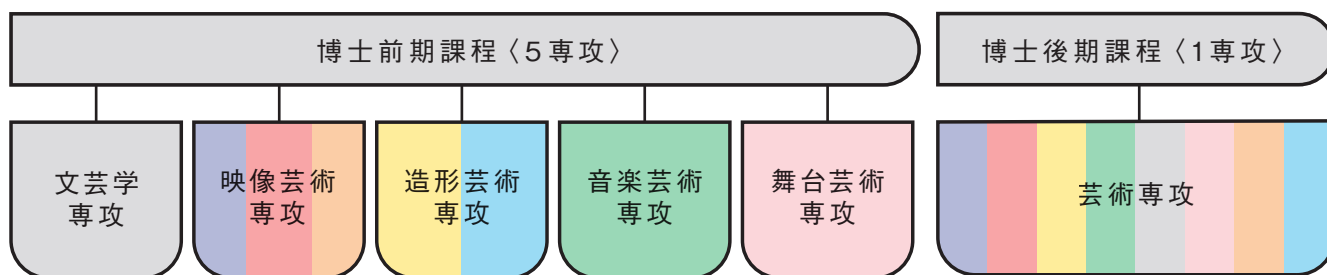
大学院

日本大学大学院芸術学研究科は70年以上の歴史を持つ芸術系総合大学院として、未来の芸術開拓者となる人材の育成を行っています。

博士前期課程では、専門性の高い5つの専攻で芸術の理論と歴史の研究を通して想像力と国際発信力を養い、併せて領域を超えた複合的な芸術の創作と研究を行うことで、高度な知識と経験を研鑽します。

1951年に文芸学専攻を設立して以降、1993年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻、1995年に博士後期課程芸術専攻を開設し、多くの研究者、表現者を輩出しています。

大学院芸術学研究科



MFA=修士(芸術)の学位が取得できるようになります!

令和8年度博士前期課程入学者から受講するカリキュラムおよび修了時に提出する学位(修士)論文又は制作・作品に応じて右の、どちらかの学位を取得できるようになります。

MFAはアートとビジネスの結びつきを考えるとともに自己プロデュース能力を養うことを目的とする学位です。

MFA: Master of Fine Arts = 修士(芸術)

⇒所定の科目・単位を修得し、修士制作・作品および副論文を提出し、試験に合格した者

MA: Master of Arts = 修士(芸術学)

⇒所定の科目・単位を修得し、修士論文を提出し、試験に合格した者

令和7年度以前入学者が取得できる学位はMA=修士(芸術学)のみ

博士後期課程で取得できる学位はDA=博士(芸術学)のみ

図書館

豊富な芸術専門資料を誇る日藝図書館。
写真集やアートブック、マンガなどの書籍や多数の映像作品を所蔵する
「8学科を有する日藝の多様さ、関心分野の広さが反映された図書館」
となっています。

詳しくはWEBを
ご覧ください



閲覧室



映像資料視聴ブース

貴重資料／展示

古くは15世紀から現代に至るまで、日藝にとって大変価値のある歴史的資料を所蔵しています。
年に数回、特定のテーマに着目した企画展示を行い、貴重資料の公開を積極的に行っています。



貴重資料展示：マリー・ローランサン



貴重資料展示：不思議の国のアリス展

ギャラリートーク・イベント

専門教員による解説を聞きながら、通常はガラスケースで展示する貴重資料を直接手に取って試みることができる知的好奇心を満たすイベントです。



ライブラリーカフェ

各界の著名人をゲストとして図書館にお招きして、くつろいだ雰囲気の中で
ゲストと共に楽しいひと時を過ごすイベントです。



ゲストは「タッチ」「銀河鉄道の夜」などで知られるアニメーション監督の杉井ギサブロー氏

8つの学科の枠を超えて学ぶ

芸術教養課程

芸術や文化の基礎知識、人間や社会、自然、異文化、
そして健康への理解を深める課程です。
芸術に関する基礎理論から大学院を視野に入れた演習まで、
様々な科目を選択することができます。

すべての
学科の学生が
履修可能です。

他分野の学生からの
刺激も受けながら
学べます。



① 芸術教養科目

文化芸術に関する幅広い教養や総合的視野を身につけるための科目。
知の多様性を満たし、基礎学力を強化します。



ピックアップ 授業

メディア・リテラシー

芸術や創作のフィールドとなる「メディア」について学び、メディア創造のための素地を養います。メディア芸術の読み解きから、最新のメディア産業の構造に至るまで、幅広い論点を扱います。



芸術と心理

「芸術療法」や「イメージと象徴」等をテーマに取り上げ、芸術と心理学の関係性を学びます。

古代の神話・昔話から現代のポップカルチャーまで、様々な作品に触れながら、人間の成長や再生の過程における表現の重要性について考察します。



【芸術教養科目】

櫻井寛 教授 高久暁 教授 山本守和 教授 吉野大輔 教授 加藤亮介 准教授 小堀裕子 専任講師

② 外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）の中から1年次ではひとつを専攻し、文法・会話を中心に基礎を固めます。
2年次では同じ言語をさらに磨くことも、新たな言語にチャレンジすることもできます。



英語gクラスでの会話授業

【外国語科目】

久保陽子 教授 ジュリアン マニング 教授 齋藤山人 専任講師
鈴木優 専任講師 松浦恵美 専任講師 山崎亮介 専任講師

③ 保健体育科目

ヒトの身体や健康、運動に関する知識を学ぶ講義科目と、実際に身体を動かして行う実技科目を開講。実技科目では、バドミントンや卓球、トレーニング系種目や、ゴルフ、スキー、スケートなどのシーズンスポーツも開講しています。



体育実技
「コンディショニング・トレーニング」の
授業の様子

【保健体育科目】

小沢徹 教授 畑瀬聡 准教授

芸術総合講座

社会に出てから必要になる知識を第一線で活躍する外部講師から学ぶことができる実践的な講座です。

プロデュース実務

映像やコンテンツビジネス、サービスデザイン、コ・クリエイションの現場など、幅広い領域を横断しながら「プロデュース」という創作活動を多角的に学びます。テレビ局のビジネスプロデューサー、大手出版社の編集者、アーティストを育成するレコード会社の担当者、イノベーションを創出するUXデザイナー、世界を飛び回る写真家などを講師として招聘し、クリエイティブと社会の接点や、クリエイターが活躍する機会・場づくりについて考察します。これにより、各学科での学びを拡張するとともに、プロデューサーレイヤーの視点を獲得することを目指します。

映像ビジネス

映画業界を中心に、現代の映像ビジネスの全体像を捉えます。邦画製作や外国映画の買い付け、宣伝、映画館興行、DVD、テレビ放映、映画祭などの分野で、メジャーからアート系まで様々な映像ビジネスの第一線で活躍する方々を招き、それぞれの現状と将来像について事例をもとにした講義をします。令和5年度以降は、日藝賞受賞者の藤井道人監督やその所属会社である株式会社BABEL LABELが本学部と共催で、業界第一線のクリエイター陣を招致の上、オムニバス形式で開講しています。



その他の実施講座(過年度の講座を含む)

- ・映像コンテンツプロデュース論
- ・アートと社会(展示系)



【サイバーエージェント冠講座】

コンテンツ・ビジネス実務

メディア・エンターテインメント分野の変化を捉えながら、将来にわたり活躍するための「最初のビジネス視点」を養う講座です。サイバーエージェントから講師を招き、映像、マンガ、アニメ、スポーツ等の最新動向を扱います。座学、実践的なワークショップを通じて、芸術学部生らしい「ビジネス視点」を育んでいきます。

著作権と文化・メディア契約

出版業界・メディア業界で必須の知識である著作権や作品の権利処理に関する実践的講義です。第一線で活躍するメディアビジネスの専門家や作家、マンガ家、エンターテインメントに携わる弁護士、映像・音楽・デザイン・ネットなどの実務担当者を招きます。

広告企画実務

多メディアにわたる広告表現教育と、企画力のある人材育成を目的にした講座。広告コミュニケーションの「いま」を理解した上で、広告の発想・企画から実際までを総合的・多角的に学びます。広告の企画や制作に関連する様々な現場で活躍する第一線の方々をリレー形式で招き、ケース・スタディーを行います。



広告企画実務

産官学連携プロジェクト

企業(産)×行政(官)×日藝(学)

のコラボレーション

8学科の学生が連携して学外へと飛び出し、

様々な立場の人たちと交流しながら、

日藝で得た学びがどのように社会や地域に関わりを

持つのか身をもって体験します。

学生のうちだからこそできる貴重な挑戦の機会となっています。



× 千葉県富里市

毎年6月に行われるスイカロードレースのメッセージボードや写真撮影用のパネルを制作し、富里市の魅力を発信しています。現地への取材を通して、富里市の新たな魅力を発見し続けていきます。

富里市の魅力をPR!



サステナブルって?

× 生活クラブ

生活クラブが生産者と共に実施している「国内自給」をテーマに学生たちが国内で食べ物をつくり食べ続けるための活動を体験しながら取材し、国内自給力アップのためにできることを考え、冊子やポスターの制作を行いました。今後も生活クラブの取り組みを取材し、学びを発信していきます。

× 日本電子計算株式会社 × 株式会社Urth

× 株式会社NRC一級建築事務所 × 株式会社クニエ

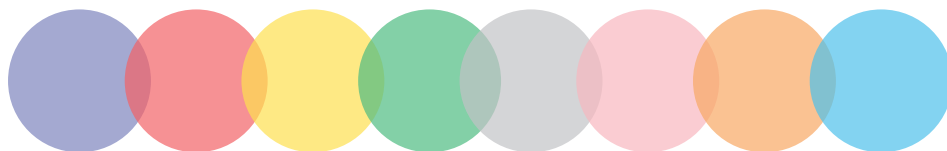
江古田メタバース・イノベーションプロジェクト

「江古田のまち」が持つ魅力を発信するべく、日藝生独自の視点でまちの魅力を発見・定義し、メタバース上にオリジナルの街を制作しました。

参画企業から、知見に基づいた助言を受けながらプロジェクトの全体企画・構想は学生が主体となり進めます。



江古田のまちが
メタバース空間に!?



× 西武不動産 × 秩父市

西武不動産、秩父市と連携し

秩父市の豊かな自然や歴史、文化を背景に

新たな才能の発掘と地域活性化を目指す「秩父文学祭」を実施予定。

「秩父短編文学賞」の設立も行い、新たな令和の文豪を見出します。

産官学が一体となって、地域の新たな魅力を発信していきます。



地域の新たな魅力発信！



江古田の魅力を発信

× 西武鉄道

「江古田キャンパスプロジェクト」は

西武鉄道と江古田駅周辺にある

3大学の学生を中心として、

江古田のまちの魅力を再発見し、

その想いを表現・発信していく取り組みです。

デザイン学科による江古田マスコットキャラクター制作や、

武蔵大学、武蔵野音楽大学と協力して

クリスマスイベントなどを行いました。



× N.U. Cosmic Campus

芸術学部と理工学部が連携し、

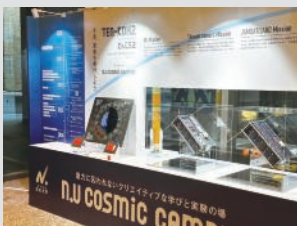
『未来の科学者・エンジニア』と

『未来のアーティスト・クリエイター』による

宇宙開発を実践するプロジェクトです。

「N.U. Cosmic Campus」というプロジェクト名のとおり、

宇宙をひとつのキャンパスとして捉え、様々なミッションに挑んでいきます。



アートの力を
宇宙へ...

他にも練馬区、板橋区、新潟県十日町市など、
様々な連携を行っています。
詳しくはこちらから！



HP



X (旧Twitter)



Instagram

令和8年度から一部学科で コース・専攻を変更します。

日本大学藝術学部では、芸術総合教育のより一層の充実と芸術・文化全般にわたる
広い視野を持った人材の養成を目的とし、学士課程全体を見据えたカリキュラム体系を教育目標に照らしながら
系統的に整備することにより、学生の学修満足度を高めることを目標として、
令和8年度以降の入学者を対象としたカリキュラム変更及び一部の学科においてコースの改編を行います。

音楽学科 2コースに再編、新たに音楽文化マネジメント専攻を新設

令和8年度の学則変更に伴い、「情報音楽コース」と「音楽芸術コース」
(作曲、理論、音楽文化マネジメント、声楽、ピアノ、弦楽器、木管楽器、金
管楽器、打楽器)の2コース9専攻にわかれます。

情報音楽コースはデジタル技術を身につけ、これまでにない新たな音楽
分野を開拓しています。

音楽芸術コースはバロックから現代まで、様々な時代の音楽芸術を系統
的に学習し、それぞれの専攻実技によって自己表現を追求します。作曲で
はピアノなどの小品からオーケストラのような大曲、声楽では歌曲やアリ
ア、器楽ではバロックから近現代の作品を個人レッスンにより学びます。
理論は音楽を言葉で論じる学習を行います。

新たに新設される音楽文化マネジメント専攻では、音楽と文化に関わるプ
ロジェクトを支援し、社会との橋渡しを担う人材の育成を目指します。
ルネッサンス以降、人類は数多くの素晴らしい音楽作品を受け継いでい
ます。その魅力を現代の手法によって、次の世代へと繋いでいくのが音楽
芸術コースのミッションです。

情報音楽コース

音楽芸術コース

新設

- 作曲専攻
- 理論専攻
- 音楽文化マネジメント専攻**
- 声楽専攻
- ピアノ専攻
- 弦楽器専攻
- 木管楽器専攻
- 金管楽器専攻
- 打楽器専攻

映画学科 映像表現・理論コースにアニメーション専攻を新設

映像表現・理論コースでは、2年次より専攻に分かれた授業設計となっ
ています。令和8年度の学則変更に伴い、これまでの理論・批評専攻、シナ
リオ専攻、映像専攻の3専攻に加えて、新たにアニメーション専攻を設
置することになりました。

アニメーション専攻は、手描きアニメーションからデジタル作画表現まで
多様な表現技法を学び、映像芸術としてのアニメーションを総合的に探
究し、基礎技術の習得から企画・制作・演出までを一貫して学ぶことで、動
きと映像表現を両立させたアニメ制作のスキルを身につけます。また、
キャラクター造形、動きの表現、空間演出、シナリオ作成に加え、アニメ
ーションの歴史や理論、世界各国の作品から多様なスタイルと技法を探索
します。

1年次

2年次以降

全専攻の
カリキュラム実施

映像表現・理論コース

- 理論・批評専攻
- シナリオ専攻
- 映像専攻
- アニメーション専攻**

新設

演劇学科 4コースから3コース10専攻に変更

演劇学科は、様々な表現方法の確立や社会構造の変化を見据え、高い専
門性と専攻横断的な学びが共存するコース再編を行いました。舞台構想
コース(劇作、演出、企画制作)、演技舞踊コース(演技、舞踊)、デザイン技
術コース(美術、照明、衣裳、音響、舞台監督)という3コース10専攻の中
で、学生自身が学びをレイアウトします。各専攻に特化した実習授業を積
み上げることが可能で、横断的な学びで構成することも可能です。
成果発表として授業内での小発表や劇場を利用した公演、地域社会との
連携企画等、学内施設を活用した幅広い成果発表に向き合い、現代社会
における舞台芸術の役割について、新しい可能性を拓く人材を養成しま
す。

舞台構想コース

- 劇作専攻
- 演出専攻
- 企画制作専攻

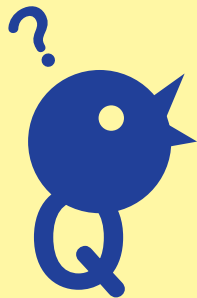
演技舞踊コース

- 演技専攻
- 舞踊専攻

デザイン技術コース

- 美術専攻
- 照明専攻
- 衣裳専攻**
- 音響専攻
- 舞台監督専攻

新設



日藝・よくある質問



Q. 日藝の授業は専門的なことばかり学ぶのでしょうか？

A. デッサンや楽器の演奏、舞踊など実技試験を課している学科・コースについては、1年次からその技術があることを前提としている授業もあります。一方、演技についてなどは、経験のない方でも十分対応することが可能な授業もあります。

Q. デザイン学科と演劇学科デザイン技術コースの違いは？

A. 演劇学科ではコース再編があり、新たにデザイン技術コースができました。ここでは、劇場空間での舞台芸術における美術・照明・衣裳・音響・舞台監督について専門的に学ぶことができます。デザイン学科では、ブランディングや広告といったビジュアルコミュニケーションデザイン分野、自動車や家電、家具や文具などのプロダクトデザイン分野、住宅、公共施設、商業空間のような建築デザインを学ぶことができます。

Q. 音響や照明を学びたい場合は？

A. 映画関係での技術者を目指す場合は映画学科、テレビ・ラジオ業界の場合は放送学科、舞台関係の場合は演劇学科といったように、音響や照明についても表現する媒体によって学びの内容が異なります。ご自身の興味のある業界から学科を調べることをお勧めします。

Q. 有名な声優さんが卒業しているが、どの学科で学べる？

A. どの学科においても声優のみを専門的に学ぶことはできません。声優の道に進んだ卒業生の多くは大学の学びとは別に声優養成所などでの経験を経て活躍なさっています。

Q. サークル活動やアルバイトをする時間はありますか？

A. 授業によって、制作にかかる時間や課題に取り組む時間が必要となります。このため課外活動の時間を拘束されるケースはあります。しかし、まったく自由な時間がないわけではありませんので、在学生のみなさんは自主制作・サークル・アルバイトなど自分のやりたいことにも積極的に取り組んでいます。

Q. 映画学科演技コースと演劇学科演技舞踊コース(演技専攻)はなにがちがうの？

A. 両学科とも演技をするということは基本的に一緒です。しかし、映画学科で求められる演技は「フレームの中」での演技で、性別や年齢など等身大の表現となることが多いです。一方、演劇学科では「劇場」空間での演技となり、声の出し方や身体表現、戯曲の読み方などが異なります。

Q. 服飾を学ぶことはできますか？

A. 服飾のみを専門的に学ぶカリキュラムはありません。ただし、演劇学科デザイン技術コースでは、衣裳を専攻することができるようになりましたので、舞台表現における衣裳を専門的に学ぶことは可能です。

Q. 4年間でかかる費用は？

A. 授業料等納入金は学科・コースによって異なり、1年間で152万円～172万円となります(詳細は募集要項及びQRコードから学部サイトをご覧ください)。このほか入学手続時には入学金26万円が必要となります。また、カメラなどの機材を必要とする学科・コースは、入学後に20～40万円程度のカメラ代などかかる場合があります。個人差はありますが他にもPC・ソフト・画材・材料費などの消耗品代がかかります。



Q. 芸術学部に入學して就職できますか？

A. フリーランスという選択肢を選ぶ人もいますが、就職希望者の就職率は例年90%以上あり、多くの卒業生はまず企業に就職しています。芸術学部ではサポートセンター(就職指導課)が設置されており、面談や就職活動に必要な情報提供、1年生から受講できる就職講座など支援しています。

Q. 入学後に学科を変えることはできますか？

A. 11月頃に転科試験を実施しており、合格すれば所属学科を変更することができます。しかし、学科専門科目は学び直しとなるので決して望ましいことではありません。

日藝賞

NICHIGEI AWARD FOR EXCELLENCE

各界に多彩な人材を輩出している日藝。特にメディアやクリエイティブの世界には出身者が多く、同級生や先輩・後輩と仕事を介して出会うケースも多いようです。

そこで、校友との繋がりをさらに深めるために創設されたのが『日藝賞』。かつて日藝に在籍していたことのあるすべての出身者を対象に、その年に最も活躍した人物を独自に表彰することで、出身者への敬意を表すとともに、在学生への励みとしています。在学生、教職員、校友会役員などによる投票をもとに決定します。

1987年生まれ、神奈川県出身。脚本家・小説家。主な執筆作品は、NHK2024年度前期連続テレビ小説「虎に翼」「花のち晴れ〜花男 Next Season」「Heaven?〜ご苦楽レストラン」「君の花になる」(TBS系)、アニメ「ぼっち・ざ・ろっく!」「前橋ウィッチーズ」映画「ヒロイン失格」、「センセイ君主」など。NHK「恋せぬふたり」で第40回向田邦子賞を受賞。



連続テレビ小説 虎に翼 完全版
Blu-ray/DVD BOX1〜3 発売中
発行・販売元: NHKエンタープライズ
©2024 NHK

小説版「恋せぬふたり」
(NHK出版)

第19回 日藝賞／日藝アンバサダー

吉田恵里香

脚本家・小説家
2010年 文芸学科卒

日藝賞が始まったのは私が大学に入学した年でした。

在学時、受賞された先輩方の講演を見ながら漠然と

「いつか自分もここに立ちたい、立つんだ」と思い、卒業してからも思い続けてきました。

ですので、念願の日藝賞をいただくことができて大変光栄ですし、身の引き締まる思いです。

在校生の皆さんにも「いつかこの賞がもらいたい」と思ってもらえるように

これからも創作活動に尽力していきます。

近年、芸術・エンターテインメントの役割がより大きくなっている気がしています。

娯楽であり、誰かの生きる糧であり、より良い社会と平和を訴える術でもあります。

何を背負い歩いていくかは創作者のそれぞれ自由ですが、

せめて時代を逆行せずに前を進み続けていきたいですね。



これまでに手がけたドラマの台本

詳しくはWEBを
ご覧ください



日藝賞歴代受賞者

第 1 回



三谷 幸喜
脚本家

佐藤 隆太
俳優

第 2 回



大石 芳野
ドキュメンタリー写真家

爆笑問題
太田光・田中裕二／
タレント

第 3 回



宮藤 官九郎
脚本家

真田 広之
俳優

第 4 回



市川 團十郎
歌舞伎俳優

宮嶋 茂樹
報道カメラマン

第 5 回



林 真理子
作家

青山 剛昌
漫画家

第 6 回



松井 龍哉
ロボットデザイナー

船越 英一郎
俳優

第 7 回



よしもと ばなな
作家

森田 公一
作曲家

第 8 回



松崎 しげる
歌手

坂田 栄一郎
写真家

第 9 回



荒井 良二
絵本作家

中園 ミホ
脚本家

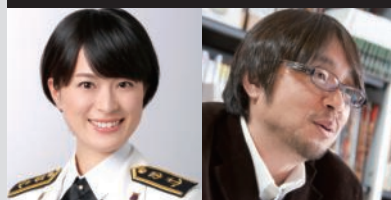
第 10 回



中村 獅童
俳優

池松 壮亮
俳優

第 11 回



三宅 由佳莉
海上自衛隊ボーカリスト

小山 薫堂
放送作家

第 12 回



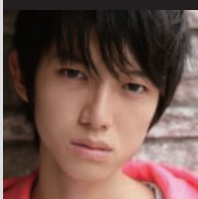
片渕 須直
映画監督

第 13 回



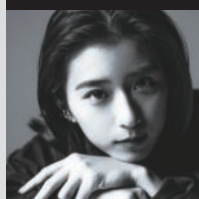
小野 大輔
声優

第 14 回



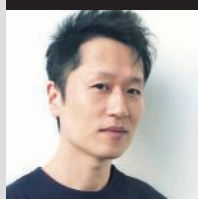
本郷 奏多
俳優

第 15 回



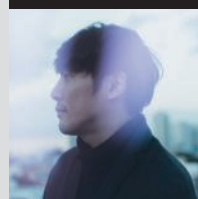
黒島 結菜
俳優

第 16 回



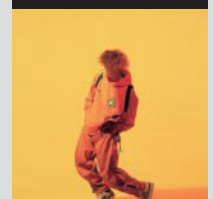
中村 至男
グラフィックデザイナー

第 17 回



藤井 道人
映画監督・脚本家

第 18 回



Vaundy
マルチアーティスト





写真学科

Photography

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

写真学科 HPへ



専任教員

秋元貴美子 教授
佐藤英裕 教授
田中里実 教授

西垣仁美 教授
服部一人 教授
穴吹有希 准教授

GOTO AKI 准教授
鈴木麻弓 准教授
鳥海早喜 准教授

八木元春 専任講師
小池雄之 助教



幅広い芸術的教養と 高度な写真技術を身につけた プロフェSSIONナルを目指す

時の流れの中で起こる出来事を記録する。
心や頭の中にあるイメージを
被写体という実体を借りて発信する。
多様化するデジタルコンテンツの分野でも重要な役割を
担う写真家やマルチクリエイターを目指し、
時代のニーズに対応した教育を行います。



学びのポイント

1 写真を学ぶ3本の柱

- 表現技術を学ぶ実習
- 制作のための技術理論
- 表現や研究を行うための表現理論

という3本のカリキュラムを柱として
構成しています。

様々な角度から写真と向き合い、
技術のみならず、その本質を追求します。
伝統に基づきながら、最新の状況・情報に
目を配り、現代の写真の可能性を
見据えます。

2 多彩な授業

写真界のフロントで活躍している様々な
分野の写真家や研究者などを講師として
招き、多彩な授業を展開しています。

**最先端のデジタル技術から、銀塩、
古典技法まで幅広く学ぶことができます。**

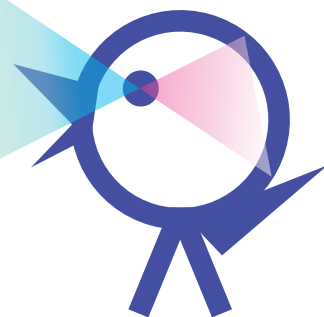
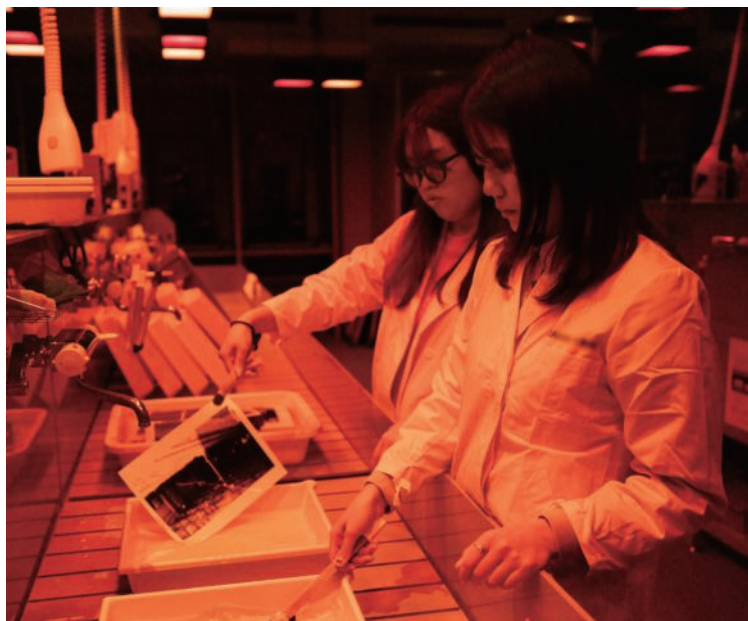
また、他学科公開科目や連携授業など
写真を活用するための幅広い知識・技術も
身につけられます。

3 作品収集と公開

**約10万点に及ぶ卒業制作をはじめ、
歴史的に貴重な資料や写真作品などを、
積極的に収集しています。**

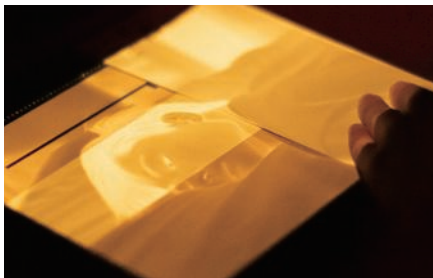
収集作品は、教育・研究に活用すると同時
に、学内での展覧会を通して一般の方々にも
広く公開しています。

また、**学生選拔者による学外ギャラリー
での作品展**を毎年実施しています。



4年間の流れ

	実 習	理 論
1年	●写真基礎Ⅰ・Ⅱ 光の認識、写真表現の仕組み、カメラの操作から撮影、デジタルのプリントシステムから仕上げ方法まで、写真のあらゆる基礎知識に関する講義・実習を行います。  ●写真拡張技術Ⅰ 黒白フィルムによる撮影・現像・プリントシステムを使った作品を制作し、銀塩写真の基礎を身につけます。 	●写真史Ⅰ 写真技法と写真表現の変遷をたどり、写真先進国・欧米の写真の歴史についての基礎的な知識を修得します。 ●写真史Ⅱ 幕末・明治から現代に至る日本の写真史をひも解き、日本独特の写真のあり方について理解を深めます。 ●イメージングプロセス論Ⅰ・Ⅱ 銀塩及びデジタル写真における作画プロセスの基本的な理論を学びます。 ●写真光学 光の性質やレンズの特性など、写真撮影に必要な写真光学の基礎を身につけます。 ●写真色彩学概論 写真制作に必要な色彩知識、色の組み合わせ方やその特性を把握します。 選択科目 「特別写真講座Ⅰ」「写真基礎研究Ⅰ」などを選択できます。
2年	●写真基礎Ⅲ・Ⅳ 小型・大型カメラの基礎技術やスタジオライティングなどを学び、それぞれの特徴を生かした作品を制作します。  選択科目 「ポートレート」「ファインプリント」「画像処理」を選択できます。	●写真作家作品研究Ⅰ～Ⅵ 写真誕生から現代までに生み出された名作と、その時代に活躍した写真家について見識を深めます。 選択科目 「プレゼンテーション」「カメラメカニズム」「写真表現文化論」「写真伝達情報論」などを選択できます。
3年	●プレゼミナールⅠ・Ⅱ 表現方法への理解を深め、技術を発展させながら制作・実験・研究に取り組み、その発表を通して各自の方向性を探ります。  選択科目 「広告写真」「報道写真」「建築写真」「古典技法」「サイエンスフォト」「動画撮影」「動画編集」など、幅広い写真制作の授業を、各自の興味と将来を見据えて選択できます。	●写真芸術学Ⅰ・Ⅱ 先人の写真論や写真芸術論を通し、「写真とは何か」という写真芸術の本質的な問題について考えます。  選択科目 「広告写真」「報道写真」「現代写真」「文化財写真」「アートマネージメント」「特別写真講座Ⅱ」などの理論、写真の編集の仕方などを学ぶ科目があります。
4年	●ゼミナールⅠ・Ⅱ 一人ひとりの将来を見据えた個人指導を中心に、専門的かつ実践的な理論・制作の演習を行い、「卒業制作」や「卒業論文」にまとめていきます。  	



写真技術

カリキュラムのメインはデジタルの写真技術ですが、写真学科では必ず全学生が銀塩写真の技術と表現を修得します。鶏卵紙や塩化銀紙、サイアノタイプなど19世紀に活用された古典技法を扱った科目もあり、デジタル写真だけではなく多様な写真表現を学ぶことができます。



特別写真講座

毎週異なる分野のプロフェッショナルによる講義を行います。スポーツや鉄道、水中写真といった各分野の写真家はもちろん、キュレーターや編集者の方を招き、写真に関わる様々な現場の話を聞くことで、自分の将来を考えるヒントにすることができます。

こんな
授業が
あります



将来につながる大学生生活が
送れるよう、
本気で写真に向き合うための
環境を整えています。



動画撮影・編集

デジタル一眼レフを使用した動画撮影・編集を身につけます。卒業後、写真だけでなく動画の撮影や編集を求められることも多い現状を踏まえ、写真学科に所属しながら映像分野の表現にも習熟することができます。



広告写真／ポートレート

大スタジオと5つの小スタジオを使い、静物写真のライティング技術や表現方法、ポートレート撮影をする際の技術やコミュニケーションについて実践的に学びます。プロ仕様の機材を使った実習です。



インターンシップ

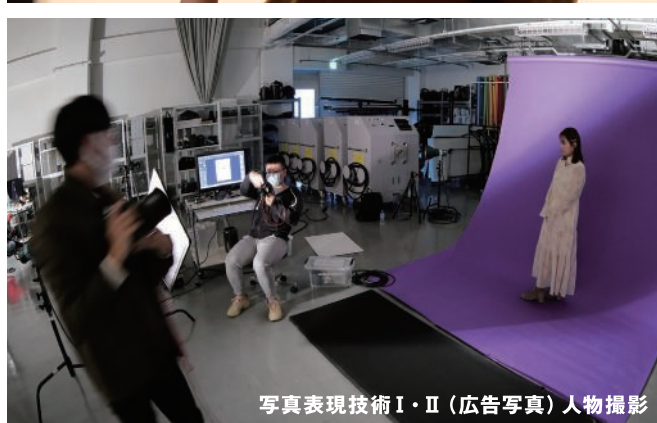
制作会社・美術館・ギャラリー・写真家事務所・ブライダル・テーマパークなど、写真に関わる職場へ出向き、夏期休暇中に実務体験をします。現場でしか得られない体験が大きな成長につながります。

サイエンスフォト（ミルククラウン撮影）



写真表現技術Ⅴ（建築写真）

写真拡張技術Ⅱ（大型フィルムカメラ）



写真表現技術Ⅰ・Ⅱ（広告写真）人物撮影

施設

プロ仕様の機材・設備が充実しており、授業や各自の作品制作に利用することができます。

大スタジオでは、プロが実際にスタジオで使用する中判デジタルカメラで実習を行っています。



大スタジオ



写真ギャラリー



デジタルフォトラボ



機材センター

学科の活動

日芸祭などの学内イベントはもちろん、学外での企画展など、日頃の学びや作品制作の成果を発表する機会が多く用意されています。



写真表現技術Ⅳ（報道写真）



卒展 芸術資料館



大暗室



日芸祭 グループ展示

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントとは？

3年

やまうち みく

山内 美空さん



- ① 高校で写真部に所属し、写真について本格的に学びを求め、写真の基礎から学べるだけでなく、異業種の講師や多彩な表現をする学生たちが在籍している日藝に進学を決めました。
- ② 写真技術Ⅲ・写真技術Ⅳ・写真表現Ⅰでは、新たな技術や知識を学び、大いに勉強になりました。作品にも積極的に取り入れ、制作の幅を広げています。
- ③ サークルには入っていませんが、写真学科芸祭実行委員として、日芸祭ではフォトパッチの制作に携わっています。
- ④ 一緒に写真を撮影し、展覧会巡りを楽しんでいます。最近では同級生10人でのグループ展を開催し、新たな経験にとっても刺激を受けました。
- ⑤ デザイン学科の友人とは専門知識や技術を共有し、彼女からイラストレーションやデザインの方法を学び、逆に私は成人式前撮りなどで協力するなど、得意分野を活かした交流をしています。
- ⑥ デザインに興味があり、駅の広告やWebなどを観察しながらインスピレーションを得ています。将来的にはCGと写真を融合させた作品を制作したいと思っています。
- ⑦ 1・2年生は飲食店のアルバイトをしていました。最近はフォトコンテストのお手伝いや広告会社のアシスタントのアルバイトに転向しています。
- ⑧ 母親です。芯の強さを見習い、母のように自己を確立した大人になりたいです。謙虚でありながらも自己を持ち、内面の強さを持っている母親を心から尊敬しています。
- ⑨ 広告の授業を通じて、レタッチャーという職業に強く惹かれています。自身のスキルを活かしながら、仕事として他者の作品を支えつつ、自分の作品も制作していきたいと思っています。
- ⑩ 写真に関する知識がなくても、丁寧に教えてもらえます。また、多様な人々が集まり、交流するだけで刺激を得られます。一人ひとりの作品も異なるため、見るだけでも勉強になります。



1年

おおの こうしろう

大野 晃士朗さん



- ① 撮った写真をいかに構成して発表するか、勉強したいと思ったからです。
- ② 写真基礎演習と写真技術です。デジタル写真と暗室で作業するアナログの銀塩写真を同時に習うことに意味があります。共通して根底にある写真の基礎の部分がわかり、勉強になります。
- ③ 公認サークルの珈琲研究会に入っています。コーヒー談議はもちろんのこと、趣味の合う先輩方と国内外の旅行やジャズの話で盛り上がります。一緒に飲みに行ったりして楽しい毎日です。
- ④ よく写真展を拝見します。都内のギャラリーを巡って勉強しています。仲間の写真展に集まるのも楽しいです。私の個展にも沢山の同級生・先輩がお越し下さり、本当に嬉しかったです。
- ⑤ 外国語の授業はもちろんのこと、教職や学芸員課程の授業で沢山の他学科の仲間たちと繋がれます。演劇学科の同級生たちの劇団の公演でポスターや舞台の写真を撮影して手伝っています。
- ⑥ 写真展の文化に注目しています。私は写真展巡りを日課にしていますが、写真展では、作者の方本人とお話をできることが魅力です。ご本人からお話を伺える貴重な機会が勉強になります。
- ⑦ 都心にある外資系ホテルのレストランでウェ이터をしています。また、最近は広告や雑誌の撮影でフォトグラファーのアシスタントをさせていただいて、様々な現場で学んでいます。
- ⑧ 先輩方です。写真業界には数多くの著名な写真家の方々がいらっしゃり、実際に身の回りでも大先輩とお会いすることが度々あります。私が日々お世話になっている教授もその一人です。
- ⑨ 写真を撮り、バックパックを背に旅に出て、休みの日には喫茶店に出掛け、ジャズをはじめとした聴き、安らぎのひとつを過ごす。大好きなこの日常を過ごせるように頑張ります。
- ⑩ 自分の好きなこと、大切にしたいこと、やりたいことが明確な沢山の仲間がいます。ジャンルは違えど、意識の高い仲間たちから常に刺激を受けられる環境で勉強できることが魅力です。



○卒業後の進路

新聞社や雑誌社、広告代理店、写真スタジオ、写真事務所などを中心に、撮影制作を通して培ったコミュニケーション能力や表現力を活かした職業に就く学生もいます。

【過去5年間の実績】

AOI TYO Holdings／朝日新聞社／朝日新聞出版／アフロ／アマナ／荒川区／イノ・メディアプロ／一般社団法人家の光協会／イケア・ジャパン／有限会社ギアハウス スタジオギア／キタムラ／キヤノンマーケティングジャパン／クッポグラフィ／京王エージェンシー／警視庁職員信用組合／KPSホールディングス／講談社ビジネスパートナーズ／光潮社／株式会社コジマ／株式会社佐藤写真／サンエックス株式会社／産業経済新聞社／産業編集センター／J-WAVE／時事通信社／資生堂／信濃毎日新聞／小学館スクウェア／松竹映像センター／城北信用金庫／上毛新聞社／SUPER STUDIO／スタジオアリス／スタジオエビス／セメダイン／全日本空輸／ダイヤモンドヘッド／たき工房／中日新聞社／TBSスパークル／電通クリエイティブX／東映アニメーション／東京アドデザイナーズ／学校法人東京女子医科大学／トミーテック／日産自動車販売／日本電子計算／博報堂プロダクツ／羽田エアポートエンタープライズ／林写真館／パラゴン／ビームス／東日本旅客鉄道／ビックカメラ／広島東洋カープ／富士巧芸社／ベネッセコーポレーション／ベネッセスタイルケア／ベルジャヤ京都ディベロップメント／防衛省 陸上自衛隊／星野リゾート・マネジメント／堀内カラー／毎日新聞社／マナマナ／山梨県庁／ユザワヤ商事株式会社／ヨドバシカメラ／読売新聞社／らんくスタジオ／リオクリエイティブ／良品計画／レイルマンフォトオフィス／六本木スタジオ ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

有安杏果 (シンガーソングライター、写真家)	高橋智史 (フォトジャーナリスト)
飯沢耕太郎 (写真評論家)	瀧波ユカリ (漫画家)
井津建郎 (写真家)	野口里佳 (写真家)
今城純 (写真家)	濱田祐史 (写真家)
大石芳野 (写真家)	平間至 (写真家)
大塚寧々 (俳優)	藤岡亜弥 (写真家)
小澤太一 (写真家)	細倉真弓 (写真家)
忽那汐里 (俳優)	本郷奏多 (俳優)
黒島結葉 (俳優)	ホンマタカシ (写真家)
小林真梨子 (写真家)	宮嶋茂樹 (報道カメラマン)
坂田栄一郎 (写真家)	三好耕三 (写真家)
沢渡朔 (写真家)	村上悠太 (鉄道写真家)
篠山紀信 (写真家)	山崎友也 (鉄道写真家)
高梨豊 (写真家)	ほか



映画学科

Cinema

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

映画学科 HPへ



専任教員

大谷尚子 教授
奥野邦利 教授
上倉泉 教授

古賀太 教授
齊藤裕人 教授
清水和貴 教授

志村三代子 教授
玉木則順 教授
鳥山正晴 教授

増田治宏 教授
松島哲也 教授
芦谷耕平 准教授

穴澤勇樹 准教授
小山正太 准教授



映画・映像界の スペシャリストになるための 高度な専門知識と技術を指導

時代とともに進化する映像文化を
新たな視点でとらえ、「芸術創造」と「情報伝達」の
両面から探求していきます。

4つのコースに分かれ、
それぞれの目的に適したカリキュラムのもと、
学生一人ひとりにきめ細かな指導を行っています。



学びのポイント

2 豊富な科目

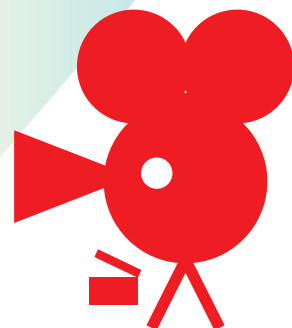
「映画芸術学」「日本映画史」
「外国映画史」「シナリオ論」といった
全コース共通の必修科目のほか、コース
ごとに段階制の科目を設定。
また、選択科目として理論や歴史、研究
方法、表現技術など、関心に応じて学ぶ
ことができます。
4年次には集大成として、**卒業論文・
卒業シナリオ・卒業研究・卒業制作**に取
り組みます。

1 4つのコース

- 映像表現・理論コース**：
評論家や研究者、シナリオライター、
映像メディアの制作者を育成
- 監督コース**：映像作家を育成
- 撮影・録音コース**：
映像技術のプロフェッショナルを育成
- 演技コース**：映像メディアの演技者を育成
の4コースを用意。
コースごとに高いレベルの専門知識と技術を
身につけていきます。

3 アワード

芸術学部による卒業制作等への表彰に加
え、映画学科では**映画学科奨励賞**や**映画
学科特別賞**などを授与しています。
さらに、国内外の映画祭などにも積極的に
参加しており、アメリカの学生アカデミー賞
やドイツのオーバーハウゼン国際短編映画
祭、国内ではSKIPシティ国際Dシネマ映画
祭など、多数の入選・受賞歴があります。



4つのコースごとに
独自のカリキュラムのもとで
専門教育を展開しています。



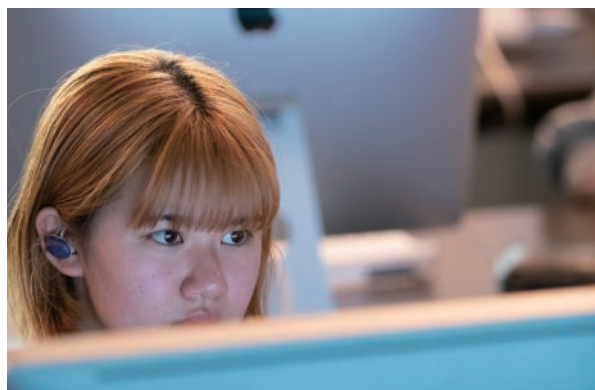
映像表現・理論コース

理論・批評、シナリオ、映像の3つの専攻を軸に、映像の研究と創造の基礎課程を経て、2年次よりそれぞれの専攻に分かれて専門の研究、創作を行います。

理論の探究及び、映画のシナリオからアニメーション、メディアアートなど、様々な映像芸術の研究・企画・創作にアプローチしていきます。

また、映像ビジネスに関する講座も充実しており、新たな映像ビジネスを開拓していく人材を育成しています。

令和8年度にアニメーション専攻が新設されます。（詳細はP.18に掲載）



監督コース

ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーションなどジャンルにとらわれず映像を用いた物語世界の構築がコースの基本理念です。そのための表現技術の修得や物語内容の追究を目的としてカリキュラムを構成しています。

また、映画制作におけるスタッフワークなどの重要性を「撮影・録音」「演技」コースとコラボレーションしながら身につけていきます。映画の演出のみならず脚本や撮影、編集技法など幅広い知識を持ったクリエイターの育成を目的としています。



撮影・録音コース

映画制作の根幹となる映像と音響の技術を修得するために、「撮影」「録音」の領域から実践的なカリキュラムを構成しています。

1年次より、フィルム・デジタルの両面から各種機材を用いた実習を中心に、表現技術のあり方を追究していきます。さらに、原理となる自然科学の知識も蓄え、深い技術的教養を育みます。2年次以降は、「監督」「演技」コースとの共同作業を行い、照明技術や特殊撮影、仕上げ作業に至るまで幅広く実践力を培います。3年次からは適性や志望分野で専攻を絞り、作品制作や研究活動に取り組みます。



演技コース

映画俳優の育成を目指して、実践的なカリキュラムを用意しています。

1・2年次には発声など演技の基礎訓練、音楽・日舞・洋舞などによる身体表現、感情表現などを通して、演じるために必要な基礎力を育成します。「監督」「撮影・録音」コースと実習作品／卒業制作などを制作することで、映像制作に関する知識や現場への理解を深め、脚本の読み取りから、役作り、撮影やアフレコ作業といった様々な制作過程や、演技者としての日常訓練の方法を修得していき、映画人として必要なバイタリティーや体力、精神力を身につけていきます。





映像メディア実習 [映像表現・理論コース]

2年次の授業です。モーショングラフィックスの基礎を理解し、デジタル合成の講義と実習作業を組み合わせながら知識・技術を修得します。

シナリオ基礎 [映像表現・理論コース]

1年次の必修授業です。シェークスピア、ギリシア悲劇、民話などを題材に「物語とは何か？」について学びながら、シナリオを執筆するための基礎知識を身につけていきます。

映像概論 [映像表現・理論コース]

1年次の授業です。映画以外にも様々な映像メディアが存在する現在において、映像というものが持つ特性や歴史について考えを深めます。映像メディアについての基礎的な教養を身につけるとともに、今後の新たな課題も検討します。

演技指導実習Ⅰ [監督・演技コース]

「監督」「演技」コースの2年次の授業です。既成のシナリオを用いて、ストーリー全体やシーンごとの演出意図、キャラクターに対する共通認識を図りながら対話を重ね、お芝居を作っていきます。また、実践を通してフレーム内の演技とは何かを理解していきます。

映画の制作者はもちろん、映画評論家や研究者など、映像関連のスペシャリスト育成を目的とした授業が盛りだくさんです。

映画芸術学Ⅰ・Ⅱ [共通]

映画学科の根幹をなす講義で、映画学科1年次の全コース必修授業です。映画とは何か？ビジネスであり芸術でもある映画の両義性が果たす役割について、具体的な映像や文献を示しながら、映画の基本的な特性について学びます。他学科公開の授業です。

日本映画史Ⅰ・Ⅱ [共通]

Ⅰは映画学科1年次の必修授業です。前期のⅠ、後期のⅡに分かれており、Ⅰでは、主として戦前までの映画の歴史を、Ⅱでは戦後を中心に学びます。Ⅰ・Ⅱを通して、外国映画とは異なる日本映画独自の展開を理解することができます。他学科公開の授業です。

アニメーションⅠ・Ⅱ [共通]

映画学科2・3年次を対象とした実習授業です。アニメーション制作を志す学生のための授業で、クリエイターの育成が狙いです。実際に作品を制作することを目指し、そのための技術的な手法を段階的に身につけていきます。



映像表現・理論Ⅰ・Ⅱ [映像表現・理論コース]

映像表現・理論コースの根幹となる1年次の授業です。映像の制作、シナリオの創作、論文の執筆を行い、それぞれの分野の基礎を学びます。その過程で学生たちは自身の適性を見極め、2年次への専攻に進むのかを決めます。



映画技術Ⅰ・Ⅱ [撮影・録音コース]

撮影・録音コースの根幹となる1年次の授業です。フィルム・デジタル両面の撮影機や録音機の取り扱いを基本として、短編の劇やドキュメンタリー作品を制作します。機器の取り扱いを覚えるとともに、それらを用いることでどのような表現が可能になるのかを理解します。

録音研究Ⅰ [撮影・録音コース]

大小様々な規模の録音スタジオを用いて、機材の取り扱いから録音、ミキシングなど実践的にスタジオ・ワークを身につけます。



映画ビジネスⅢ・Ⅳ [映像表現・理論コース]

3年次の授業です。前期のⅢ、後期のⅣに分かれており、Ⅲでは映画会社へのインターンシップを通して、Ⅳでは学生が自分たちの手で映画祭を企画・運営することで、映画ビジネスの実際を体験します。



映画演出Ⅳ・Ⅴ [監督コース]

監督コースの根幹となる2～3年次の授業です。実際に短編の劇やドキュメンタリー作品の撮影・演出・編集を行うことで、人間感情の表現手法や、物語を映像として表現する際に考慮すべきことなど、映画演出の技法を「撮影・録音」「演技」コースとともに体得します。



映画演技実習Ⅰ・Ⅱ [演技コース]

演技コースの根幹となる2年次の授業です。1年次の映画演技基礎で学んだ技術を、さらに発展させるために必要な感情の解放と集中を会得するための身体訓練を行います。また、オリジナルの台本を用いて、役作りの具体的な方法論を学びます。さらに、「監督」「撮影・録音」コースと合同で実際に作品を制作します。

映画編集 [監督、撮影・録音コース]

「監督」「撮影・録音」コース3年次の授業です。1・2年次に学ぶ編集機材の取り扱いに続き、実際の編集作業への指導を通して「編集」がいかに映画を成立させるものであるかを理解するとともに、表現技術を修得します。「映像表現・理論」コースを対象とした授業も開講しています。

映画鑑賞批評Ⅰ・Ⅱ [共通]

映画学科1・2年次を対象とした授業です。長編劇映画の名作はもちろんのこと、短編映画、文化映画、ドキュメンタリー映画、アニメーションなど幅広いジャンルの映画を鑑賞し、その批評をレポートとして提出することで基礎的な知見を養います。

施設

映画制作に必要なあらゆる設備が揃っています。



2台のデジタルミキシングコンソールを備えた、ステージダビングやスタジオ収録を使い分けられる180㎡の録音スタジオ。



ビデオオンライン室とDLP上映ができるビデオ試写室。最終的な作品作りはこの設備を使用して行われます。



カラー、モノクロすべてのフィルムが処理できるように、35mm・16mm兼用現像機4台と水洗式フィルムクリーニングマシンを設置。



初心者にも扱いやすいように設計された走行、回転可能な電動リモートコントロールによるライティングワゴンが備えられています。

学科の活動

「日藝映画祭 声をあげる」2024



2024年で14年目をむかえた映画学科映像表現・理論コースによる学生映画祭。これまでに「映画祭1968」(2011)、「新・女性映画祭」(2012)、「監督、映画は学べますか?」(2013)、「ワーカース2014」(2014)、「ニッポン・マイノリティ映画祭」(2015)、「信じる人をみる 宗教映画祭」(2016)、「映画と天皇」(2017)、「朝鮮半島と私たち」(2018)、「スポーツの光と影」(2019)、「中国を知る」(2020)、「ジェンダー・ギャップ映画祭」(2021)、「領土と戦争」(2022)、「移民とわたしたち」(2023)と開催してきました。

在学生の作品



『蟹眼』(2021年度 卒業研究)

第8回アジア大学生映画祭 最優秀アニメーション賞
ISCA2022 (INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2022) 松本俊夫賞



『まる』

(2022年度 卒業制作)

TOHOシネマズ学生映画祭 ショートフィルム部門 グランプリ
日本映画テレビ技術協会 2022年第41回青い翼大賞 (撮影技術)
映画連アワード2023 審査員特別賞
JPPA AWARDS 学生の部 映像技術部門 審査員奨励賞



『ボウル ミーツ ガール』

TOHOシネマズ学生映画祭
ショートフィルム部門グランプリ GEMSTONE賞
渋谷インディペンデント・フィルム・フェスティバル U22部門 最優秀賞
仙台ショートピース短篇映画祭 『新しい才能に出会う』プログラム上映
北沢映画祭 準グランプリ 小田急電鉄賞
札幌国際短編映画祭 最優秀国内作品賞

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

映像表現・理論コース
シナリオ専攻 2年

まつ やま みず き
松山 瑞希 さん



- ① 父の影響で幼い頃から映画が好きで、中学生の時には「映画が学べる大学に進学する」と決めていました。田舎育ちで東京に行きたいという思いもあったので日藝を志望しました。
- ② シナリオ専攻の授業（ゼミ）です。プロの脚本家の先生に講評をいただける貴重な機会なので、絶対にメスを落とさないことと、常に100%の力で課題に取り組むことを心がけています。
- ③ 入っていません。
- ④ 友人と一緒に自主制作映画を作っています。シナリオ専攻は授業で他コースの人と関わることが少ないので、他のコースの友人との制作はとても刺激になっています。
- ⑤ 自主制作の現場で、演者や美術として参加している他学科の学生に出会えることが多々あります。
- ⑥ アニメです。ご縁があり某アニメ制作会社でアニメ脚本の研修を受けさせていただいているので、勉強として様々なジャンルのものをチェックするようになりました。
- ⑦ カフェで働いています。客層が幅広く様々なお客さんに会えるので、観察してキャラクターを作る時の参考にさせてもらっています。
- ⑧ 姉です。私は人見知りな上に捻くれた性格をしているので、誰にでも優しく誰とでもすぐに仲良くなってしまう姉の性格に憧れています。
- ⑨ やっぱ脚本家になりたいです。卒業後の明確な進路は全然決まてないのですが、就職したとしてもコンペ用に脚本を書き続けていられたいかなと思っています。
- ⑩ 同じ夢を追う仲間に出会える！



監督コース 3年

さわ お ゆう
沢尾 結 さん



- ① 何かものづくりをしたいと思って来ましたが、その表現の手段として映画に興味を持ったので、日藝を受験しました。
- ② 映画演出の授業です。シナリオ制作や他コースと合同の実習を通して、映画への様々なアプローチを学びました。身体も思考もフル回転で大変ですが、とても充実していました。
- ③ 他大学の映像制作サークルに所属しています。普段は全く違う分野を専門にしている仲間達だからこその視点があり、そこから自分の視野も広がります。
- ④ 主に短編映画の自主制作をしています。自分の作品の時には助けてもらい、仲間の撮影の時にはアシスタント等にまわります。色々なジャンル、個性の作品と関わって楽しいです。
- ⑤ 8学科・産官学連携プロジェクトという授業で交流の機会が増えました。学科ごとの特徴や強みとアイディアを活かし、地域の産業を宣伝する映像など、協働した作品制作をしています。
- ⑥ 映像作家、映画監督の山田智和さんです。先日授業でお話を聞いて、自由な発想を作品に組み込んでいくこと、映像でも色々な方面にチャレンジされていることに刺激を受けました。
- ⑦ 個別指導塾の指導者をしています。主に小学生に教えているのですが、大人とはまた違った目線や感じ方が面白いです。
- ⑧ 母です。お仕事の面について、自分の探究している分野で学び続けて、我が道を進んでいくことを尊敬しています。
- ⑨ 5年後、自分の選んだ領域をより深めていける日々であったら良いなと思います。そして自分や他者、社会に対して、今よりも成熟した考え方が出来るようになりたいです。
- ⑩ 先生方や仲間、カリキュラムに支えられつつ、自身が描く目標と、そこまでのルートを自分なりに模索する事が出来ます。私はそれが大切な時間だと感じるので、お勧めするポイントです。



○卒業後の進路

映画制作の現場などでフリーランスとして活動するだけでなく、映画、アニメ、テレビ、CMなどの関連会社に就職する人も多くいます。

【過去5年間の実績】

AOI TYO Holdings／いすゞ自動車／IMAGICAエンタテインメントメディアサービス／IMAGICA Lab.／UUUM／A-1 Pictures／NHKテクノロジーズ／エポック社／太田プロダクション／オスカープロモーション／オムニバス・ジャパン／音響ハウス／カルチュア・エンタテインメント／ギークピクチャーズ／キタムラ／キノフィルムズ／共同エディット フジサンケイグループ／クリーク・アンド・リバー社／クリエイティブネクサス／ケーブルテレビ／劇団ひまわり／国立研究開発法人国立がん研究センター／サイバーエージェント／サウンドインスタジオ／RSK 山陽放送／サンライズ／サンリオエンターテインメント／JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント／松竹ナビ／スクウェア・エニックス／スターダストプロモーション／スターツ出版／スタジオコロリド／スプーン／スペースシャワーネットワーク／第一音響／ティ・ジョイ／TBSアクト／TBSスパークル／TBSテレビ／TYO／デジタル・ガーデン／テレビマンユニオン／電通クリエイティブキューブ／電通クリエイティブX／東映／東映シエム／東映ラポ・テック／東京映像美術／東宝芸能／東北新社／独立行政法人国立美術館／日活／日経ビデオバンク／日テレアクセスオン／日テレ・テクニカル・リソース／日本音響エンジニアリング／日本映画放送／バカ・ザ・パッカ／博報堂プロダクツ／バンダイ／バンダイナムコフィルムワークス／びえろ／ピラミッドフィルム／フジテレビジョン／ベネッセコーポレーション／ポニーキャニオン／マッドハウス／MAPPA／三菱東京UFJ銀行／ロボット／WOWOW エンタテインメント ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

青木研次（脚本家）
池松壮亮（俳優）
伊澤彩織（スタントパフォーマンス、俳優）
井之脇海（俳優）
今村圭佑（撮影監督）
入江悠（映画監督）
大原櫻子（俳優）
岡本玲（俳優）
沖田修一（監督）
笠松則通（撮影監督）
梶原岳人（声優）
片瀝須直（アニメーション監督）
金子ありさ（脚本家）
河合勇人（監督）
寒竹ゆり（監督、脚本家）
北瀬佳範（ゲームプロデューサー）
ゴリ（お笑い芸人、映画監督）
佐藤隆太（俳優）
真田広之（俳優）
沢村忠（キックボクサー）
柴崎幸三（撮影監督）
立川譲（アニメーション監督）
近森真史（撮影監督）
月永雄太（撮影監督）
ツジトモ（漫画家、イラストレーター）
富田和彦（録音技師）
富永昌敬（映画監督）
富野由悠季（ディレクター）
内藤剛志（俳優）
中沢敏明（映画プロデューサー）
乃木坂太郎（漫画家）
羽住英一郎（監督）
蓮見翔（ダウ90000）
伴一彦（脚本家）
深作欣二（映画監督）
福田卓郎（脚本家、演出家）
藤井道人（監督）
船越英一郎（俳優）
松岡錠司（監督）
山口まゆ（女優）
山田智和（映像作家、監督）
吉谷彩子（俳優）
ほか

美術学科

Fine Arts

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[美術学科 HPへ](#)



専任教員

鞍掛純一 教授
笹井祐子 教授
福島唯史 教授

瀬島匠 教授
田中修二 教授
飯田竜太 教授

坪井麻衣子 准教授
大橋朋美 専任講師
金子貴富 助教

古井彩夏 助教

個性に寄り添う少人数教育で 人間本来の創造力を伸ばし 新しい美術を創り出す

歴史的にも大きな役割を担ってきた美術はいま、
科学技術や生活様式の急速な進歩により、
多様な変化を遂げています。
専門性を高めるカリキュラムと少人数教育で、過去から現在、
未来へと繋がる普遍的な美術の「本質」を探ります。



学びのポイント

2 創作演習と 共通演習

各専攻の制作実習は段階的に行い、
1年次は**基礎**、
2年次は**基礎からの発展**や、
隣接する技術を体得していきます。
3年次からは**応用と個人制作**が始まり、
4年次は**卒業制作**に取り組みます。
また、1年次には「**デッサン、版画基礎、
彫塑**」という**共通カリキュラム**を実施。
美術全般の基礎を養い、表現に関する
視野を広げます。

1 コースと専攻

絵画コース、彫刻コースという2コース制の
もとに、**絵画専攻、版画専攻、彫刻専攻、
地域芸術専攻**で構成されています。
演習や実習・創作活動と並行し、
理論・歴史部門、研究部門の科目も充実し
ており、作家育成と同時に、美術教員、学芸
員、批評家などアートに携わる多様な人材の
育成に力を入れています。

3 学外プロジェクト と特別講義

東京23区内の芸術総合大学としての地
の利も活かし、美術館や展覧会での作品
鑑賞により見識を深めます。
また、地域との交流も大切にし、地域
アート、芸術祭、工房などの施設見学な
どにも積極的に参加しています。
学内でも現在活躍中の作家や評論家に
よる特別講義などを行い、時代や社会と
の接点を広く設けています。



2コースで構成され、美術全般に通じる基礎を学びながら、「実技」と「理論」の両面から知識・技術・表現力を磨きます。

絵画コース

●絵画専攻

絵画の基礎及び普遍性を重んじ、4年間じっくりと腰を据えて「絵画」を学び「絵」を描けるのが、絵画専攻の最も大きな特徴です。日藝のキャッチフレーズは「ふつうじゃない、が、ふつうです」ですが、「普通」とは「普遍に通ずる」ということ。そのためには、まず揺るぎない基礎を培うことが何より重要であり、その先にこそ「絵画」を学ぶ本質が現れてきます。

特に1・2年次は、デッサン及び油彩で「人体」を描くことを基本に据え、西欧近代以降の色、形、コンポジション、そして絵画空間の考え方を体得します。日藝絵画での4年間で、絵画による表現の確立と同時に、個々の自立を目指します。



●版画専攻

版画専攻では描くことの基礎的な力を身につけるため、対象の中有にある構造を理解し具体化することでデッサン力を高めます。そして、イメージを写し取る版画表現の基礎から応用までを学びます。また、鉛筆による細密描写やムービングによるドローイング、ペンによるイラストや製本による絵本制作、活版印刷によるイメージとことばのコラボレーションなどの授業を通じ、感性を磨きます。紙の持っている可能性にも着目し、表現や素材の幅を広げていきます。表現を深めることにより、個々の作家としての自立を目指します。



彫刻コース

●彫刻専攻

現代の芸術の枠組みは非常に柔軟で、変化が目まぐるしく、その価値を判断することは簡単ではありません。これに対し芸術分野それぞれに教育理念と方法がありますが、通底するのは個人の視座の育成です。ものを見る力、ものを造る力を育てることは、彫刻の視座を持つことであり、時代に流されない人格形成の基盤となります。

彫刻専攻では、自然観察、塑像によるモデル実習、実在実習（木、石、鉄）等を通じて彫刻の基礎を修得し、個々の自由な発想による自主制作へと進みます。作品制作を通じて、彫刻という視座から社会との接点を考える4年間を送ることができます。



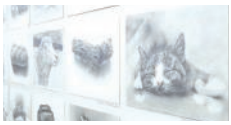
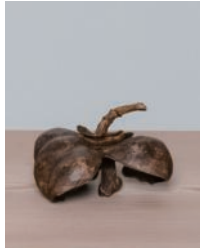
●地域芸術専攻

社会が抱える問題をアートの力によって変え、直接社会と繋がり、人の心を豊かにする実践力を身につけます。彫刻コースでは、2004年より参加している大地の芸術祭を中心に、アートの力信じて日本における社会問題に、真摯に向き合ってきました。そうした活動を通じて日本の抱える問題をアートの力で変えていく可能性があることが、少しずつ浸透してきています。

地域芸術専攻では、こうした社会の動きの中で生まれた活動と新たな行動を起こす勇気・行動力を養い、体験による経験を糧に社会で生きる力をつけてもらいます。そして、アートによって生まれた様々なコミュニティを支える、広い視野を持った担い手を育成します。



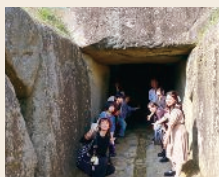
4年間の流れ

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
絵画コース	絵画専攻	自画像、基礎デッサン、 静物、人体、風景、 イメージ、ドローイング 	静物、人体、日本画 インスタレーション、 プレスコ画 	静物、人体、 インスタレーション 	卒業制作 
	版画専攻	「感性を刺激する」 版による基礎 基礎デッサン、ドローイング 銅版、リトグラフ、木版の基礎を学ぶ 	「表現を広げる」 版による応用 銅版、リトグラフ、木版の応用、活版、製本などを学ぶ 	「表現方法を選ぶ」 卒業制作に向けて表現の可能性を探る 	「表現を深める」 卒業制作 
彫刻コース	彫刻専攻	木彫(デッサン)、塑像(首)、 実材実習(木・石・鉄)、 人体塑像、石膏取り 	人体塑像、石膏取り、 テラコッタ実習、 実材実習(木・石・鉄)、 シリコン、ジェスモナイト 	自由制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、 塑像 	卒業制作 
	地域芸術専攻	木彫(デッサン)、塑像(首)、 実材実習(木・石・鉄)、 人体塑像・石膏取り、 デッサン基礎(地域芸術専攻のみ) 	PC 基礎、基礎デザイン、 写真、映像、 リサーチアート、 共同制作(芸術祭)等、 インターン等 	フィールドワーク、 インターンリサーチ、 展覧会構成演習、 個別演習、 共同制作 	インターン、 卒業論文／卒業制作 
共通		デッサン、版画基礎、彫塑 美術史概論、美術作品研究 美術特別講座、美術特別研究		美術学、解剖学、素材研究、 西洋美術史、東洋美術史、日本美術史、 美的構成研究、美術作品研究、 古美術研究 版画概論	
教職		デザイン論、図学 工芸演習、 美術科教育法		美術教材研究、映像メディア研究論、図学 工芸科教育法 教職実践演習(中・高)美術、 教育実習事前・事後指導	



古美術研究

仏像等の作品を所蔵する寺院の実地見学を行い、自分の目で作品を体験して理解を深めます。制作の歴史的背景等に関する事前学習により、実地見学をより豊かなものにしています。古代から中世に及ぶ多様な作品を学ぶことができます。



石舞台古墳跡



飛鳥宮跡



唐招提寺

施設

絵画、版画、金属、木工など
専用のアトリエを使って
作品制作を行うことができます。



絵画アトリエ



版画アトリエ



屋外制作場



金属アトリエ



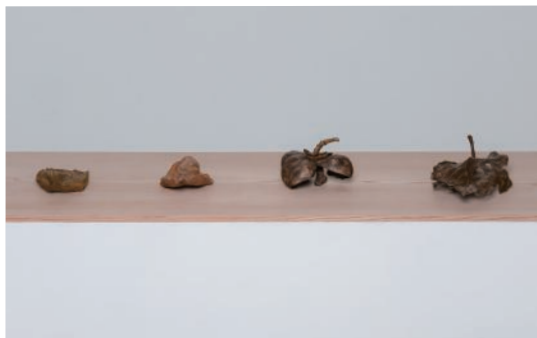
木影アトリエ

在学生の作品



菅沼緋南「朽ち葉」

木 4 × 13 × 19cm / 6 × 16 × 23cm / 11 × 14 × 17cm / 8 × 20 × 40cm



アカネ「ネコマモリ」
クス 225 × 80 × 90cm

齊藤那美「声を聞いて」
カンヴァス・油彩 F100



川村望雪「群」
パネル・アクリル 170 × 358.6cm



小林恭子「In orbit」
15 × 240cm



山崎りん「展望台の黙示録」
80 × 60cm

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

絵画コース 版画専攻 3年

おお く ぼ あかり

大久保 灯さん



- ① 版画専攻のアットホームな雰囲気になれて、ここなら伸び伸びと制作ができる事を感じました。他学科と交流ができる点も、日藝を選んだ理由の一つです。
- ② 実技の授業です。自分と向き合いながら制作に集中する事ができる今の時間を、大切にしていきたいです。
- ③ 入っていません。
- ④ 版画専攻は、大掃除の後にみんなでお菓子を囲んでお疲れ様会をします。学年問わず色々な人と話すことができるので、とても好きな時間です。
- ⑤ 教職の授業で仲良くなった友達とお互いの制作の話をする事で、他の学科の活動を知ることができます。
- ⑥ 飼い猫のつーちゃんです。制作で帰りが遅くなる日が続いていた時は、つーちゃんに癒されることで頑張っていました。
- ⑦ 本屋さんでアルバイトをしています。レジをしていると、人気の絵本を知ることができるので面白いです。
- ⑧ 版画専攻の先輩方です。分からない事があるといつも的確なアドバイスを下さいます。制作に真剣に取り組む姿を近くで見ていて、素直にカッコいいなと思っています。
- ⑨ いつか絵本を作りたいです。これから先も、制作することを続けていきたいです。
- ⑩ 先生方や助手さんが温かく支えてくださるので、私たちは自由に制作することが出来ます。また、何を食べるか迷ってしまうほど大学の近くにご飯屋さんや沢山あります。



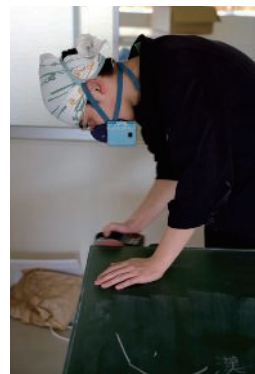
彫刻コース 地域芸術専攻 3年

よこ た みつ き

横田 光希さん



- ① 僕は新潟県出身で祖父母が十日町市に住んでいることから大地の芸術祭を小さい頃から見ています。その憧れから日芸に入って実際に芸術祭の作品制作に関わりたと思い、志望しました。
- ② 連携授業で行っている、太陽ホールディングス旧本社ビルの改装です。この授業ではビルの改装のみならず、改装したビルでのイベント開催など様々な経験ができる面白い授業です。
- ③ 入っていないです。でも、江古田娯楽研究会というのを作ったことはありました。
- ④ 大地の芸術祭に向けた作品制作や芸術祭期間中のワークショップ参加などを行っています。また、作品展示をするときに、僕はコーディネーターとしてDM作成などに携わっています。
- ⑤ 大地の芸術祭期間中は特に写真学科と一緒にいることが多く、現地では衣食住を共にしています。また、日芸祭で飲食販売をした時に写真学科の友人に物撮りをしてもらいました。
- ⑥ ファッションや音楽には常に注目しています。これらは自分の1日のテンションをあげてくれて、気持ちを切り替えてくれるような役割をする大切な存在です。
- ⑦ していません。
- ⑧ 言葉のボキャブラリーが多い人です。軽やかに柔らかな言葉で表現する人に憧れることが多いです。
- ⑨ 一つにしばらず様々なことをしていきたいです。アート表現はもちろん、飲食や農業など全部はできなくても少しずつでも携われたらうれしいです。
- ⑩ 専攻分野が幅広いので、自分にできないことを友人に頼ることが出来ます。その分自分の専攻していることで頼られることもあります。そういう人との関わりができることは日芸の特徴です。



○卒業後の進路

美術作家として活躍する他、一般企業で美的センスを活かした仕事に就く人が多くいます。また、教員、学芸員として活躍する人が多いのも特徴です。

【過去5年間の実績】

アートコーポレーション/秋山工房/アクアスター/学校法人Adachi学園/アルテカ/アレックス/一般財団法人本所賀川記念館/エガークアート/エナジード/学校法人開成学園/木曾町役場/キャメル珈琲(カルディコーヒーファーム)/ギャラリー川船/ぎやろっぷ/共同エンジニアリング/クオリティライフ・コンシェルジュ/クリエイターズボックス/小糸樹脂/埼玉県教育委員会/さいたま市教育委員会/SANKYO/サングループ/三和/有限会社スタジオMAO/総合舞台/ソフィーナビューティカウンセリング/千葉県教育委員会/東京都教育委員会/童具館/日経印刷/日本大学第三高等学校・中学校/有限会社花の進化園/はま寿司/藤浪小道具/ベネッセスタイルケア/防衛省 陸上自衛隊/マーキュリー/まいばすけっと/マッドハウス/村田製作所/明治安田ビジネスプラス/ヤオキン商事/やないづ町立斎藤清美術館/ヨドバシカメラ/ワールドホールディングス ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

青山剛昌(漫画家)	長野 剛(イラストレーター)
大竹志歩(彫刻家)	根本祐杜(彫刻家)
海崎三郎(彫刻家)	三浦建太郎(漫画家)
北澤一伯(彫刻家)	森恒二(漫画家)
絹谷幸太(彫刻家)	溝口達也(造園家)
小池一馬(彫刻家、画家)	山本衛士(彫刻家)
小杉小二郎(画家)	ほか
櫻井孝美(画家)	
鷹尾俊一(彫刻家)	
たなかみさき(イラストレーター)	
多和圭三(彫刻家)	
塚本晋也(映画監督、俳優)	
伝子れんぢ(漫画家)	
中村 宏(画家)	

音楽学科

Music

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[音楽学科 HPへ](#)



専任教員

伊藤弘之 教授
大寺雅子 教授
脇岡洋平 教授

萩原貴子 教授
川上央 教授
三戸勇氣 教授

小林純生 准教授
吉田行地 准教授
駒澤大介 准教授

竹田香子 専任講師
上村さや香 助教

総合大学で音楽を学び 広く社会に貢献

日本大学の音楽学科として、
広い視野と豊かな教養を培いながら、
深い専門知識を身につけます。
人々の心に届く音楽を生み出す力をつけ、
幅広い分野に人材を送り出します。



学びのポイント

2 自ら考え

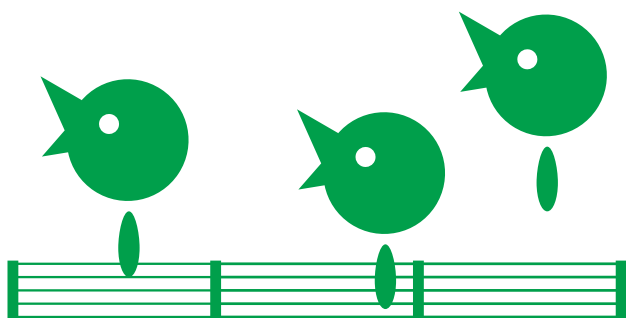
音楽理論や技術が向上すれば、
自らの作品や演奏がどのような価値があり
どのような意味があるか考えるようになります。
音楽の価値は人それぞれ違い、
多様な価値があるのが音楽の面白さです。
自ら考える力は多様性に必要な能力です。

1 自ら学び

音楽学科は**情報音楽コース**と
9専攻の音楽芸術コースの2コース。
音楽理論や演奏技術などの基礎は学びま
すが、その学びを自分のものにするため、
自ら学ぶ姿勢が必要です。
日々の学びを自分のものにした時、
学生の音楽性は大きく向上します。

3 自ら道をひらく

自ら学ぶ力と考える力を身につけ、
自らの音楽表現を見つけると、
自ら進む道がひらけます。
その道は広く長く、人生とともにひらけ、
4年間の学びは、あらゆる場面で、
社会に大きく貢献していきます。



デジタル技術を活用する情報音楽コースと
作曲や演奏、音楽マネジメントなどを学習する音楽芸術コースの
2つのコースで音楽のあらゆる分野の学習を網羅します。

情報音楽コース

デジタル技術を身につけ、これまでにない新たな音楽分野を開拓しています。情報社会の急速な変化によって、音楽表現のありかたや音楽産業は大きな変容を遂げています。この状況に対応するため、音楽の学習とともに、デジタル技術の徹底的な指導によって、最先端の表現を可能にする人材を育成しています。
プログラミングやDAW、レコーディングなどの音楽制作だけでなく、映像表現、ライブ演出、メディアアートなどの分野も授業に取り入れ、多くの人に伝える学習も行なっています。



音楽芸術コース

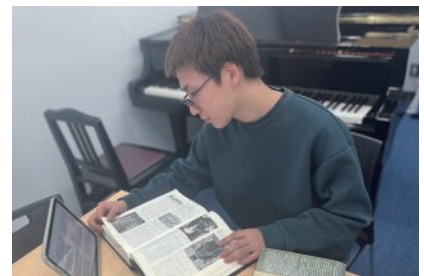
①作曲専攻

ひとりひとりの学生に自分自身の創作の世界を見つけ独創的で良質な音楽作品を生み出して欲しい、そんな考えのもと、作曲専攻では、第一線で活躍する経験豊かな作曲家たちが、学生の個性を大切に丁寧な指導を1年次からマンツーマンで行なっています。クラシックの作曲技法にもとづく生楽器のための作曲だけでなく、DAWを使った作曲も推奨しています。和声や対位法や音楽形式といった基礎の学習はもちろんのこと、オーケストレーションや正しい楽譜の書き方など、実践的な側面の学習にも重点を置いています。学生の作品を実際に音にしてみる機会や、他学科の学生とのコラボ（映像作品の音楽を担当）の機会なども準備されています。



②理論専攻

理論専攻では「音楽学」と呼ばれる領域の勉強をします。音楽学がカバーする範囲は、理論、作曲家、作品、楽器、歴史、文化、社会、古いものから新しいものまで多様ですが、それらの研究に必要な様々なことを基礎から学ぶことができます。卒業論文では、各々の学生が選んだテーマについて、その領域に詳しい教員の指導のもと、研究に取り組みます。西洋音楽はもちろんのこと、民族音楽、日本の伝統音楽、ポピュラー音楽について学ぶ機会も用意されています。和声、作曲、音楽形式などの学習や、ピアノや声楽などの実技の勉強も可能です。音楽を広く全般的に学びたい人にも、ある領域について深く研究したい人にも、どちらにもぴったりの専攻です。



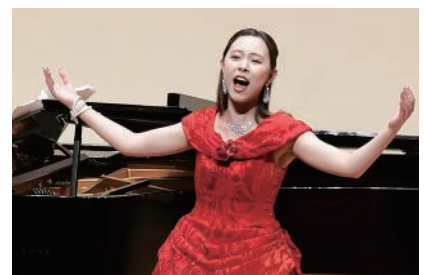
③音楽文化マネジメント専攻

音楽文化マネジメント専攻では、音楽と文化に関わるプロジェクトを支援し、社会との橋渡しを担う人材の育成を目指します。音楽を媒介として価値を発見し、それを他者と社会と結びつけ、最終的に経済的利益や持続可能性を生み出す活動やビジョンを実現するため、音楽産業の仕組み、著作権や契約に関する法律、文化政策、非営利団体の運営など^{*}について学びます。また、音楽や芸術に関する講義や実技を通じて音楽文化への理解を深めるとともに、実践的なスキルを習得できます。さらに、企業や非営利組織での実習やインターンシップを通じて、アートマネジメントの実務経験を積む機会も用意しています。「日藝」の多様な環境を活かし、音楽文化やアーティストを支える視点から新たな音楽の世界を探索したい方、特に優れたコミュニケーション能力と旺盛な好奇心を持つ方の入学を歓迎します。^{*}カリキュラムの内容は変更されることがあります。



④声楽専攻

声楽の基礎である発声法をしっかりと学習し、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲、そしてオペラアリアなど、個別指導による丁寧なレッスンを行います。さらに、音楽ホールでの歌唱やアンサンブルなどを通じて、観客に伝えるステージ歌唱を経験し、学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。また、歌や音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流を持ち、幅広い音楽性を培います。
卒業後は大学院進学、海外留学、劇団所属など歌を活かした進路だけでなく、エンターテインメント企業などへの就職の道に進み、幅広く活躍しています。



⑤ピアノ専攻

ピアノ専攻では、一流の講師陣による個人レッスンに加えて、音楽に関わる様々な知識を得られる学科専門授業を通して、多様な「なりたい自分！」のニーズに応えると共に、それぞれの学生個人の志望に寄り添い、卒業までサポートしていきます。レッスンでは、基礎からより高度な技術の習得に向けて、クラシック音楽のバロック、古典、ロマン、近現代の4つの時代の作品を、段階的なレパートリーのカリキュラムに基づき学んでいきます。

卒業後の進路は、演奏家、伴奏者、ピアノ講師、中高の音楽の先生などから、自分で撮影配信を行うYouTuberや様々なジャンルの音楽やアートとのコラボレーション、それからアートマネジメントまで多岐にわたっています。また、音楽関係企業に就職したり、進学したり、日大ブランドで一般企業に就職して活躍している卒業生もたくさんいます。自由になりたい自分を見つけて、夢を叶えられるのが日芸ピアノコースの魅力です。さらに試演会での演奏による選抜コンサートや、定期演奏会、室内楽コンサート、公開レッスンなど、たくさんの舞台を経験する場も用意されています。日芸ピアノ専攻で是非、かけがえのない音楽体験をしてください！

⑥弦楽器専攻

弦楽器の基礎から応用まで、音階・エチュード・ソロレパートリーを個人レッスンで確かな技術と表現力を養います。さらに、少人数による室内楽の弦楽合奏を通じて、音楽的対話を学び、学内コンサート等でその成果を発表。木管楽器とアンサンブルの機会もあります。卒業後は大学院進学、中学校・高校教員、楽器店や一般企業の道に進むなど、幅広く活躍しています。

⑦金管楽器専攻

金管楽器の基本的な奏法や各種技術を個人レッスンで確かな技術と表現力を養います。金管五重奏や同族楽器のアンサンブル、ファンファーレなどを室内楽で行い、アンサンブルの力を磨き学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。また、音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流をもち、幅広い音楽性を培います。卒業後は大学院進学、中学校・高校教員や音楽隊など音楽を活かした進路だけでなく、一般企業の道に進むなど、幅広く活躍しています。

⑧木管楽器専攻

国内外で活躍する一流の演奏家が個人レッスンで指導にあたり、最高の技術と表現力を学べる環境を整えています。管楽器の基本である呼吸法をはじめ、身体を合理的に使った演奏方法などを丁寧に指導します。バロックから近現代まで幅広いソロレパートリーは、ピアノやチェンバロと共演しながら演奏技術を磨き表現力をつけます。木管五重奏や木管楽器と弦楽器のアンサンブル、フルート&ハープのアンサンブル、サクソアンサンブルなどの室内楽でアンサンブル力を磨きます。特殊管（ピッコロ・アルトフルート・バスフルートなど）を使って映画音楽やミュージカルの音楽などクラシックをベースに日芸独自のエンターテインメント性のある演奏会の機会など充実した学びができます。コンチェルトは室内楽でできる範囲で演奏し披露します。音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流を持ち、幅広い芸術性を培います。卒業後は大学院進学、中学校・高校教員、自衛隊音楽隊や楽器メーカーなどへの就職の道に進むなど、幅広く活躍しています。

⑨打楽器専攻

打楽器の基本奏法や楽器の取り扱いを個人レッスンで徹底的に学びます。マリンバソロや打楽器アンサンブルを中心に、多様なレパートリーを少人数のアンサンブルで学習。学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。卒業後は大学院進学、中学校・高校教員や音楽隊など音楽を活かした進路だけでなく、一般企業に進むなど、幅広く活躍しています。



教職課程の履修が可能です。※専攻によっては在学中に全ての教職科目が取れない可能性があります。



音楽学Ⅰ

1年次必修の授業で、音楽学者がクラシック音楽を基礎から応用まで丁寧に解説します。



プロジェクトⅠ

コンサートなどの企画から運営まで、世の中に音楽を届けるためのあらゆるプロセスを実践。



情報音楽実践Ⅲ

スタジオで必要な基礎知識や録音、DAWソフトによるミックスまで一連の流れを学生自身で行えることを目標に実践的な学習を行う。

こんな
授業が
あります



一流の講師陣による直接指導が
飛躍的な成長につながります。

施設

ホールやレコーディングスタジオのほか、学科生なら誰でも利用できる練習室も充実しています。

音楽小ホール



音楽学科スタジオ



音響測定室



音楽実習棟練習室



レッスン室



学科の活動

ピアノコンサート、定期演奏会など多くの発表の機会があり、自分の実力を確かめることができます。



卒業演奏会



室内楽



情報音楽コース レコーディング風景



ピアノ専攻 ピアノコンサート



定期演奏会



作曲専攻 新作室内楽の会



キャンパス内の中庭ステージでの演奏風景

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

情報音楽コース 2年

かど た こう き
門田 航輝さん



- ① 私は小学校から吹奏楽部に所属し、演奏活動を行ってきました。その過程で触れた様々な音楽を幅広く学べる日藝を選びました。
- ② 情報音楽コース2年準必修科目の「情報音楽実践III」です。この授業では半期かけてレコーディングや撮影、編集を行い、MVなどを制作します。
- ③ 非公認VTuberサークル、ATO! (エート) でコミュニティの管理をしています。現在8名のライバーが在籍しており、勢いのある団体です。
- ④ 同じコースの学生たちと月に一度、最近のオススメの曲を聴き合う会を開いています。そのメンバーで来年中にアルバムをリリースする予定です。
- ⑤ 私が最も「交流」を感じたのは「劇場実習」という授業です。様々な学科から数多くの学生が集まり一つの作品を創ることに強いやりがいを感じました。
- ⑥ Vocoflexという、人の声から歌声を合成できるプラグインです。この登場により、デジタル作曲業界にパラダイムシフトが起きたと感じています。
- ⑦ 資格検定や模擬試験の試験監督としておおよそ月に一度働いています。体調が安定しない時期があるので長期のアルバイトはしていません。
- ⑧ 私の同期で音感や知識に富んでいる方がおり、その方には制作した楽曲のフィードバックをお願いすることもあります。
- ⑨ 個人で音楽制作を続けつつ、最終的には音楽プロデューサーになって自分だけにしかできない音楽を追い求めていきたいと考えています。
- ⑩ 自分の得意なことや好きなことを追求したい方、あるいはわがままにあれこれ学んでみたい方の両方にぴったりの学部です。



ピアノコース※ 2年

にし かわ こころ
西川 心さん



- ① ピアノの専門性を深められる環境と、教職課程の充実に魅力を感じ、音楽教師を目指す自分に最適だと思い志望しました。
- ② ピアノの実技の授業に最も力を入れています。テクニックの習得はもちろんのこと、楽曲の解釈や表現力を高めるために、日々真剣に取り組んでいます。
- ③ 現在、サークルには所属していませんが、その分ピアノの練習や学業、アルバイトに集中し、充実した学生生活を送っています。
- ④ 仲間の伴奏を引き受けて一緒に演奏することがあります。合わせを通じてお互いに意見を交換しながら音楽を作り上げるのは、とても充実した時間です。
- ⑤ 他学科の学生とは、公開授業に参加することで交流しています。他学科の授業を受けることで、新たな視点を得ることができ、刺激を受けています。
- ⑥ 最近は読書に注目しています。さまざまな本を読むことで、新たな知識や発想を得ることができ、自分の視野が広がるのを実感しています。
- ⑦ 飲食店でアルバイトをしています。接客業を通じてコミュニケーション能力や責任感を養うことができています。
- ⑧ 大学で指導を受けているピアノの先生です。技術的な指導だけでなく、音楽に対する情熱や表現の大切さを教えてください、私の目標とする存在です。
- ⑨ 卒業後は音楽教師を目指しています。5年後には、生徒たちに音楽の楽しさや魅力を伝え、教育現場で活躍できるよう努力しています。
- ⑩ 専門性の高い授業と実践的な学びが充実しています。また、さまざまな分野の芸術に触れることができる環境が整っているので、自分の可能性を広げることができます。



※令和8年度よりコース名を変更します(P.18 参照)

○卒業後の進路

演奏家や音楽家だけでなく、教員などの専門職、楽器製造会社、レコード会社、エンターテインメント企業など、幅広い分野で活躍しています。

【過去5年間の実績】

アークシステムワークス／アイデム／アクロホールディングス／麻布ブラザ／イープラス／池田ピアノ運送／エクスコア／NECネクサソリューションズ／NTTネクシア／MS&ADシステムズ／公益社団法人大阪市音楽団／オリエンタルランド／河合楽器製作所／キタムラ・ホールディングス／キャピタル／共同エンジニアリング／Qentar／黒澤楽器店／ケーユーホールディングス／劇団ひまわり／コスモネット／コンセプトラボ／サイオステクノロジー／埼玉県教育委員会／サントリーパブリシティサービス／ジェイアール東海バス／JR東日本ステーションサービス／ジェイ・ストーム／島村楽器／住友不動産販売／積水ハウス／全国共済水産業協同組合連合会／全国警備保障／ソニーミュージックグループ／第一興商／高崎市／たきコーポレーション／千葉県教育委員会／千葉県文化振興財団／TBSグローディア／東急リゾーツ&ステイ／東京サウンド・プロダクション／東京国税局／東京都教育委員会／東和アークス／医療法人社団徳真会／所沢市文化振興事業団／栃木県教育委員会／新潟県教育委員会／日音／日本コロムビア／日本アイ・ビー・エム／日本交通／日本大学高等学校・中学校／博展／博報堂DYミュージック&ピクチャーズ／博報堂プロダクツ／Bee Factory／ビックカメラ／ヒルトン横浜／フォーシーズ／船橋市教育委員会／ブルーブルーエジパン／防衛省航空自衛隊／防衛省 陸上自衛隊／星野リゾート／ミダス／三井不動産リアルティ／三菱電機インフォメーションネットワーク／ミツワ電機／村松楽器販売／山野楽器／USEN-NEXT HOLDINGS／横浜市教育委員会／リンナイ／WOWOW ほか

※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

幾田りら (歌手)	深沢敦 (声楽家、タレント)
伊東たけし (サクソ奏者)	藤田乙比古 (ホルン奏者)
上野耕路 (作曲家、編曲家)	堀川大翼 (作曲家・編曲家)
大沢健 (声楽家)	MAKOTO (DJ、作曲家)
角館健悟 (歌手、ギタリスト)	松本真結子 (作曲家)
兼子拓真 / 熊吉郎 (ベーシスト)	松澤ネギ (フリーアナウンサー)
菊池俊輔 (作曲家)	丸田和輝 (パストロンボーン奏者)
菊池亮太 (ピアニスト、作曲家、YouTuber)	水野谷怜 (作曲家・編曲家・ギタリスト)
崎谷健次郎 (シンガー、作曲家)	宮城マリオ (エアギタリスト)
徳光正行 (司会者、タレント)	三宅由佳莉 (海上自衛隊東京音楽隊 歌手)
中島ノブユキ (作曲家)	森田公一 (作曲家)
にゃんぞぬデン (シンガーソングライター)	山口めろん (タレント、シンガーソングライター)
根岸宏輔 (作曲家)	湯浅篤 (編曲家)
野崎良太 (作曲家、編曲家)	若田部誠 (音楽プロデューサー)
羽岡佳 (作曲家)	ほか
平野和 (オペラ歌手)	



文芸学科

Literary Arts

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

文芸学科 HPへ



専任教員

青木敬士 教授

上田薫 教授

ソコロワ山下聖美 教授

谷村順一 教授

楊逸 教授

上坪裕介 准教授

丹一信 准教授

小神野真弘 准教授

高野和彰 専任講師

山下洪文 専任講師

伊藤景 専任講師



文芸的な創造力と表現力が 知的創造力にあふれた 豊かな人間性を育む

研究に主眼をおいた文学部の文芸学科とは異なり、
「文学を紡ぎ出す場」として、
文芸を自ら創り出すための技能を育みます。
「書くこと、発表すること」に積極的に
取り組むことで、作家やジャーナリストはもちろん、
研究者や良識ある社会人を育成します。



学びのポイント

2 講義と演習

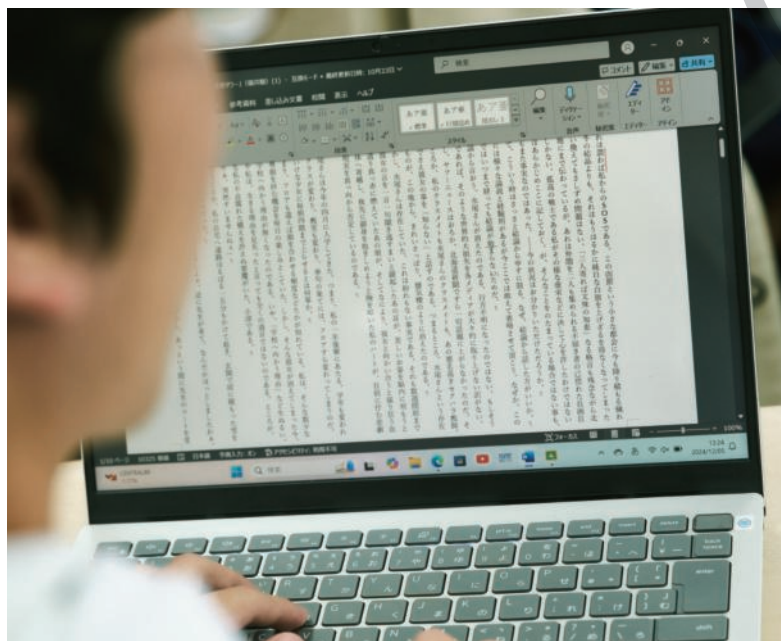
多方面の文学ジャンルへの関心を深めるための
講義と、**文芸創作、ジャーナリズム、DTP**などの
各分野について、専門的な知識と経験が身につく
授業を数多く用意しています。
書くことや発表することに積極的に取り組み、
文章を通じて取り組む多彩な表現現場において、
第一線で活躍するための創造力を養います。

1 創造と表現

本学科の教育の中心にあるのが、
1年次から基本的な授業科目として設け
られている「**文芸研究（ゼミナール）**」。
創作活動の指導と実践を目的に、
創作合評や「**ゼミ雑誌**」の編集を行います。
文学を紡ぎ出す場として、**詩や小説、戯曲、
批評、ジャーナリズム**の世界まで含めた
幅広いフィールドで想像力・表現力を
磨きます。

3 オムニバス授業

文学を深めていく準備として、文学への
無数に存在する入り口を知ることができ
る**オムニバス授業**を実施しています。
各界から著名な講師を招いて授業を行う
ことで、理論だけではない生きた知識が
得られます。
多岐にわたるジャンルの文芸体験を通し
て、これから取り組む創作活動の方向性
を探ります。



4 年間の流れ



1 年次	文芸学科では、1年次から少人数制のゼミ（文芸研究Ⅰ）に参加し、作品研究発表や創作を読みあつての合評、「ゼミ雑誌」の編集など、少人数だからこそ可能な授業を行っています。 また、DTP演習など、専門技能を身につけるための実践的な授業も、1年次より履修することができます。	
2 年次	2年次は、小説・詩・文芸批評・ジャーナリズムなど、希望の専門分野に特化したゼミ（文芸研究Ⅱ）を選択することができます。「ゼミ雑誌」の執筆・編集に参加しながら、各自の方向性を見定めていきます。 この「ゼミ雑誌」の制作は文芸学科のゼミの最大の特色であり、実際の本作りと同じプロセスで各ゼミがひとつの編集部として機能していくリアルな演習です。どんなブックデザインにするのか？ 作品集的な内容にするのか？ 雑誌的な内容にするのか？.....などを、指導教員の指導のもと、学生が自主的に企画編集し、収録作品の執筆もしていきます。さらには、予算内でどこまで凝った本ができるか、印刷所と交渉するところまで含めた、出版の実践的過程を体験することができます。	
3 年次	3年次のゼミ（文芸研究Ⅲ）は、純文学、エンターテインメント、ジャーナリズム、文芸評論、エッセイ、詩、短歌、俳句、漫画など、幅広いジャンルの中から、各々の特性に合ったゼミを選択して、創作や研究を深めていきます。卒業論文・作品の執筆を視野に入れ、4年次につなげます。	
4 年次	4年次は3年次と同じゼミ（文芸研究Ⅳ）で、卒業論文・作品に向けての指導が行われます。 文芸学科では、ページの上に各々の個性と才能を結実させることが「文芸創作表現」であると捉え、小説のみならず、シナリオ、エッセイ、詩集、短歌、俳句、漫画なども文芸表現の形式として認め、卒業作品として受理しています。卒業後の活動のための、貴重な挑戦の機会となっています。	

文芸領域における専門的な知識と経験を身につけるための「演習授業」に力を入れています。

こんな
授業が
あります



- ・言語学Ⅰ・Ⅱ
- ・古典文学史Ⅰ・Ⅱ
- ・現代文学史Ⅰ・Ⅱ
- ・海外文芸史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・日本文化史Ⅰ・Ⅱ
- ・思想の座標／思想の歴史
- ・文芸入門講座Ⅰ・Ⅱ
- ・文芸特講Ⅰ・Ⅱ
- ・文芸特講Ⅲ・Ⅳ
- ・文芸特講Ⅶ・Ⅷ
- ・SF小説論Ⅰ・Ⅱ
- ・雑誌研究Ⅰ・Ⅱ
- ・作家作品論Ⅰ・Ⅱ

- ・出版文化論Ⅰ・Ⅱ
- ・小説論Ⅰ・Ⅱ
- ・文芸創作論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・文芸批評論Ⅰ・Ⅱ
- ・幻想小説論（前期）
- ・ミステリー小説論（後期）
- ・翻訳文学論Ⅰ・Ⅱ
- ・伝記論Ⅰ・Ⅱ
- ・メディア論Ⅰ・Ⅱ
- ・ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ
- ・マンガ論Ⅰ・Ⅱ
- ・現代詩研究Ⅰ・Ⅱ
- ・エッセイ研究Ⅰ・Ⅱ

- ・ノンフィクション論Ⅰ・Ⅱ
- ・児童文学論Ⅰ・Ⅱ
- ・シナリオ研究Ⅰ・Ⅱ
- ・原典講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・文芸特別講座Ⅰ（前期）
- ・文芸特別講座Ⅱ（夏季集中講座）
- ・文芸研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・表現領域拡張講座Ⅰ・Ⅱ
- ・口承文芸論Ⅰ・Ⅱ
- ・編集研究Ⅰ・Ⅱ
- ・DTP演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・マンガ演習Ⅰ・Ⅱ
- ・文芸情報処理演習Ⅰ・Ⅱ

- ・教職 国語学Ⅰ・Ⅱ
- ・教職 国文学Ⅰ・Ⅱ
- ・教職 漢文学Ⅰ・Ⅱ
- ・教職 漢文学史Ⅰ・Ⅱ
- ・教職 書道Ⅰ・Ⅱ
- ・国語科教育法Ⅰ
- ・国語科教育法Ⅱ
- ・国語科教育法Ⅲ
- ・国語科教育法Ⅳ
- ・教職実践演習
- ・教育実習事前・事後指導（国語）

特別講座

現在業界で活躍している方々の、生の声を聞くことができる特別講座などを開講しています。

文芸学科特別講座（2024年度）			
内容	講師	実施日	講座名（担当教員）
原作と翻訳文学の間	佐藤アヤ子	24年7月4日（木）	【小説論Ⅰ】楊逸
「ロシア・カリグラファーの世界」について	フョードロヴァ・スヴェトラナ	24年7月24日（水）	【文芸研究Ⅰ】ソコロワ山下聖美
「短歌の構造と実作を学ぶ」	小佐野弾	24年7月25日（木）	【文芸研究Ⅰ】 ソコロワ山下聖美、小神野真弘、高野和彰
山野辺太郎 日芸に飛来 —作品はどのように生まれるのか—	山野辺太郎	24年10月17日（木）	【作家作品論Ⅱ】谷村順一
本とアニメーション —アニメーションにおける原作の読み解きについて—	杉井ギサブロー	24年10月29日（火）	【出版文化論Ⅱ】伊藤景
メディア論Ⅱ お笑いにおける「面白さ」とは ポスト松本人志の現状と先行き	ラリー遠田	24年10月30日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
ノンフィクション論Ⅱ ベテラン記者が語る記事執筆の技法	山科英典	24年11月11日（月）	【ノンフィクション論Ⅱ】小神野真弘
川端康成の文学	富岡幸一郎	24年11月14日（木）	【小説論Ⅱ】楊逸
編集者の道 —出版業界に就職希望の学生に向けて伝えたいこと—	尾小山友香	24年11月26日（火）	【出版文化論Ⅱ】伊藤景
中国を取材することの意義、その難しさ	西谷格	24年11月29日（金）	【ジャーナリズム論Ⅱ】小神野真弘
校正ってどんな仕事？ —フリーランスで働くとは—	山田佑美	24年12月3日（火）	【表現領域拡張講座Ⅱ】伊藤景
「テレビは文学をどのように伝えているのか」	秋満吉彦	24年12月4日（水）	【文芸特講Ⅱ】ソコロワ山下聖美
ネットメディア編集長の視点から語る、 インターネット登場以降の メディア環境の変遷およびクリエイターに必要な思考	北元均	24年12月4日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
メディアとしての都市 「編集」するように魅力的な地域を創出する技法	奥田達郎	24年12月11日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
メディア論Ⅱ メディアのなかのLGBT+	武田英樹	25年1月15日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
マンガとデザインの関係 —ブックデザイナーの仕事とは—	入倉直幹	25年1月21日（火）	【マンガ論Ⅱ】伊藤景
メディア論Ⅱ マルチプラットフォームに対応した創作の作法	草下シンヤ	25年1月22日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘

江古田文学

文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』。
「江古田文学賞」を受賞した卒業生の中には、現在、作家として活躍中の人もあります。

文芸学科では、在学生や芸術学部校友を中心にした江古田文学会を設立し、文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』を年2回発行。この文芸誌は、芸術を学ぶ場に生まれた雑誌にふさわしい、あらゆる創作者たちの文学的営為の拠点となる雑誌として、様々な特集を企画しています。『江古田文学』が主催する「江古田文学賞」では、小説・文芸評論などを公募スタイルで募集し、厳正な審査のもと年1回受賞者が発表されています。特に第4回受賞者の文芸学科生・飯塚朝美さん（2006年度卒）が2008年度の「新潮新人賞」を受賞して作家デビューするなど、めざましい成果を挙げています。



施設



文芸ラウンジ



文芸資料室



出版編集室



DTP室

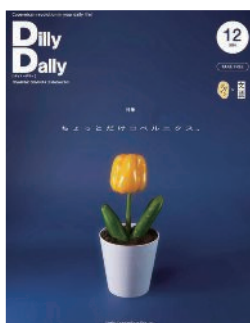
編集ソフトが使えるコンピュータ（DTP）室、5万冊の蔵書を揃えた学科専用の文芸資料室、製本設備のある出版編集室など、創作や出版活動をサポートするための設備が整っており、学科内だけで一冊の本を作り上げることが可能です。

在学生の作品

実際の本作りと同じプロセスで行われる「ゼミ雑誌」の制作をはじめ、学生が表現したものを発表する場を数多く用意しています。



2024年度に発行されたゼミ雑誌の一部



- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

3 年

やま だ きょう た

山田 教太 さん



- ① 出版・編集などの、文芸に仕事として関われる職種に就きたいと思い、それに繋がる具体的な学びや体験が得られる日藝の文芸学科を志望しました。
- ② 「文学の世界」と「作家作品論」。様々な作家の作品がどのように社会と関係した／しているのかという観点で読解を深められる授業で面白いと思います。
- ③ 「日芸短歌会」という短歌のサークルに所属して、皆で歌会（各自の詠んだ短歌を持ち寄って批評し合う会）をしたり雑誌を作成したりしています。
- ④ 先生・先輩・後輩ごちゃまぜのバンド「ぶんげい帝国」やっています。先生方がみなさんフレンドリーで、授業外でもたくさん関わってうれしいです。日芸祭などで演奏しますのでぜひ！
- ⑤ 教職課程の授業のグループワークやディスカッションでよく他学科の学生と話します。やっぱり学科ごとにちょっと違う空気を纏っている感じがあって、毎回刺激があります。
- ⑥ 昨年に歌集『標準時』を刊行された歌人の佐クマサトシさん。「晩年は神秘主義へと陥った僕のほうから伝えておくれ」など、一首の中で大胆に文体を切替えるような鮮烈さが魅力です。
- ⑦ 出版社で、インタビューのテープ起こしやアンケート集計などの業務を通して雑誌制作に関わっています。多少なりとも携った本が書店に並んでいるのを見るとやりがいを感じられます。
- ⑧ 短歌の創作活動を通じて知り合った歌人の皆さん。とにかく読みまくって考えまくって書きまくって……という方ばかりで、話すたびに「自分も頑張らなくては……！」と思わされます。
- ⑨ 出版社等に勤めて、世に文芸作品などを届ける仕事をできたらなと思っています。自身の創作もちろん続けていきたいので、しっかり自己管理して両立できるように頑張ります。
- ⑩ とにかく自由で、やりたいことをやるためのヒントに満ちた場だと思えます。自発的にやりたいことを探して行動できるひとにぴったりの環境です。ぜひ、飛び込んでみましょう。



4 年

わたなべ

渡邊 あみ さん



- ① もともと文章で表現することが好きでした。創作や編集、ジャーナリズムなどのジャンルを選択することなく4年生まで勉強できることが日藝の魅力だと思い、志望しました。
- ② 「エッセイ研究」の授業です。古典から現代までのエッセイを学ぶ座学に収まらず、様々な方法で感性を育んでくれます。学期末にはエッセイコンテストもあり、創作の刺激になりました。
- ③ 徒歩旅行部に所属しています。山手線一周などのイベントがあり、他学科の友だちと散歩しながら仲を深められるのは嬉しいです。写真を撮ることが好きなので、カメラは必ず持っています。
- ④ コンテストや公募に応募することが多いので、情報共有をしたり作品を読み合ったりします。私が受賞したときに周りの友だちが、自分のことのように喜んでくれたのは嬉しかったです。
- ⑤ サークルもありますし、他学科公開の授業で出会うことが多いです。体育など、必修の授業は全学科一緒のことがあるので自然と交流できると思います。
- ⑥ 中学生の時から星野源さんの音楽や演技、文章が好きです。エッセイを書き始めたのは星野源さんの真似がきっかけでした。今ラジオ局を志望しているのも大いに影響を受けた結果です。
- ⑦ 地元徳島県のアンテナショップとラジオ局でしています。必修の授業がほとんどなく、スケジュール管理はしやすいのでバイトと両立できています。
- ⑧ 仲の良い友人です。どんなことにも挑戦する姿を見て、勇気をもらっています。カメラ初心者の私がゼミ誌の表紙撮影に挑戦できたのも彼女のおかげです。
- ⑨ ラジオ局を志望しています。作家を目指す気持ちに揺らぎはなく、自分の発想や勉強してきたことが活かせるような仕事と創作を両立できていたら嬉しいです。
- ⑩ 多様な感性を持っている人が集まっているので、みんなが理解し認め合う優しい環境です。文芸は文章に限らず音楽やスポーツをする人もいて、表現することが好きな人にぴったりです。



○卒業後の進路

出版・印刷（編集、DTP、ライター）、広告（企業宣伝、イベント制作）などの他、中学・高校教員やパソコンスキルを活かして一般職に就く人もいます。

【過去5年間の実績】

朝日広告社／アトラス／あとらす二十一／アルカミクス総合研究所／イー・カンパニー／イープラス／イオンリテール／石橋楽器店／板橋区文化・国際交流財団／入間市役所／インプレスホールディングス／ADKホールディングス／エン・ジャパン／学校法人科学技術学園／学究社／学校法人武蔵野学院／カスタムグラビア／紀伊國屋書店／弁理士法人共生国際特許事務所／共同エンジニアリング／京都市生涯学習振興財団／共立印刷／群馬県桐生市役所／建通新聞社／光潮社／光邦／港北出版印刷／光陽メディア／埼玉県教育委員会／佐川印刷／産業編集センター／SANKYO／サントリーパブリシティサービス／さんぽう／サンミュージックグループ／三洋紙業／ジェイアール東海エージェンシー／ジェネシス／下野新聞社／昭和ブライト／叙々苑／シルバー産業新聞社／新学社／スタジオディーン／宣伝会議／タウンニュース社／学校法人高橋学園／宝印刷／タツノコプロ／つくばテレビ／学校法人帝京平成大学／ディレクターズ東京／デジタル・フロンティア／東京三光／東京スマイル農業協同組合／東北新社／東横イン／トゥルーカラース／図書館流通センター／トムス・エンタテインメント／長野県農業共済組合／日能研関東／日研トータルソーシング／日産証券／日本司法支援センター／日本出版販売／学校法人日本大学／日本入試センター／博報堂プロダクツ／春企画／びえろ／フィール／学校法人福井精華学園啓新高等学校／福島県庁／福島県南相馬市役所／福島民友新聞社／ブシロード／二葉企画／プリントネット／プリントボーイ／報知新聞社／星野リゾート／北海道建設新聞社／マーキュリー／松沢書店／MAPPA／横浜メディアアド／読売情報開発 ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

新井敏記 (スイッチ・パブリッシング代表取締役)	豊田百香 (脚本家)
石井光太 (ノンフィクション作家)	中島歩 (俳優)
歌広場淳 (ゴールデンボンバー) (ミュージシャン)	人間六度 (作家)
梅津端樹 (俳優)	額賀濤 (作家)
大鶴義丹 (作家、俳優)	林真理子 (作家)
沖本敦子 (編集者)	文ノ柳 (漫画家)
小沼理 (文筆家)	松崎しげる (歌手)
木村友祐 (作家)	水口哲也 (ゲームクリエイター)
佐藤弘 (作家)	村田椰融 (漫画家)
関井光男 (文芸批評家)	群ようこ (作家、エッセイスト)
高城剛 (ハイパーメディアクリエイター)	吉本ばなな (作家)
塚本直毅 (ラブレターズ) (芸人)	吉田恵里香 (脚本家)
	ラブリーサマーちゃん (ミュージシャン)
	ロケット商会 (作家)
	ほか



演劇学科

Theatre

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[演劇学科 HPへ](#)



専任教員

奥山緑 教授

小林直弥 教授

中野成樹 教授

松永雅彦 教授

山口英峰 教授

松山立 准教授

青木拓也 専任講師

南香織 専任講師

今井春日 助教

大池容子 助教

舞台で培う表現力と コミュニケーション力が 社会へのパスポート

舞台作りに熱中する学生たちが
日々切磋琢磨しています。
舞台芸術の理論と実践を専門的かつ横断的に学び、
舞台創造の力を身につけることで、
みずからの道を切りひらき、
社会の様々な分野で活躍できる人材を育成します。



学びのポイント

2 「理論」と「実践」

「理論」と「実践」の2分野からなるカリキュラムの中で、舞台芸術の歴史や重要な「理論」を学ぶとともに、舞台芸術の専門家になるために必要となる「実践」的な表現方法や技術の学修に進みます。
さらに、最新の舞台芸術界の潮流に応用するためのカリキュラムも提供していきます。

1 3つのコース、10の専攻

- 舞台構想コース（創作、演出、企画制作）
- 演技舞踊コース（演技、舞踊）
- デザイン技術コース
（美術、照明、衣裳、音響、舞台監督）

各コースでは高い専門性を保ちながら横断的な学びを自らレイアウトすることができます。

3 多様な成果発表

2年次以降は各専攻が協調して実習室や小ホールでの小規模発表や中ホールを使用した学生企画によるイベント、地域貢献活動、フルプロダクションによる公演などを行い、他学科や地域、学外（公共や民間）との共同プロジェクトを推進し多様な成果発表を行います。



3コース10専攻に分かれ、
舞台芸術に関する知識や技術を学びます。

舞台構想コース

●劇作専攻

古今東西の名作戯曲を声に出して読むことで、どのような趣向や手法が使われているのかを学び、個人創作だけではなく集団創作を通して自分なりの文体を獲得することを目指します。

●演出専攻

演出は、演技指導などを通して舞台を創造しまとめ上げる役割を担っています。この専攻では、戯曲読解、テーマの立体化をキーワードに、広範囲にわたる理念や技術修得の、一歩目をスタートさせます。

●企画制作専攻

舞台芸術を社会に開く視点をもったプロデュースが重要な今、プロデューサーや企画制作者に必要な戯曲を読む力と企画を立てる力を養い、企画実現のための人とお金にまつわる諸々のスキルを学びます。



演技舞踊コース

●演技専攻

演者に必要な基本的理論、舞台表現方法、そして技術を体得します。また、演技実習などの各実習を通じて、体験と修練を重ねます。

●舞踊専攻

舞踊の理論と歴史、身体表現の専門的知識と技術を修得します。さらに創作法を学ぶことにより様々な舞踊と表現手法を研究し作品創作を行います。



デザイン技術コース

●美術専攻

舞台美術は、空間と時間を同時に扱うデザイン分野です。この専攻では、企画や戯曲、演出の意図に寄り添い助ける劇空間を構成する方法と、自らの発想を伝えるための技術を実践的に学びます。

●照明専攻

舞台照明の基礎理論、方法論、機器操作技術を身に付けると同時に、あらゆるジャンルの作品の創作過程やそれぞれの考え方に触れながら照明デザインを学びます。

●衣裳専攻

服装史を通して国内外の服飾の変遷や舞台衣裳の基礎的知識及びデザインから製作、衣裳進行と呼ばれる上演における衣裳スタッフの役割についてまで実践的に学びます。

●音響専攻

芸術創造に必要な舞台音響の基礎的知識と技術を学びます。実践的な授業を通じて、「音」という視点から多様な舞台表現に向き合い、具現化するための力を培います。

●舞台監督専攻

舞台監督の役割は公演制作における技術面を中心としたリハーサル等の管理運営、上演における進行と多岐にわたります。本専攻は公演制作における予算や時間の効果的な使い方、演出効果についての安全性と再現性を考察する専攻です。





学びの方針

演劇学科では、様々な分野でプロフェッショナルとして活躍するための「理論」と「実践」を盛り込んだ講義や演習、実習科目を配置し、4年間の学び集大成として挑む卒業研究（舞台発表による卒業制作や理論研究成果である卒業論文）を頂点とした教育を行っています。さらに、各コースや専攻での学びを創造的に発展させた多様な成果発表や他の芸術領域や芸術教養科目での学びも加えることで、幅広い視野を持ち、ジャンルを超えて芸術創造活動に携わる能力が身につくようにカリキュラムを構成しています。各授業では「教わる」のではなく「自ら学び考える」力を養い、発想力や思考力、また基礎を学んだ上で応用力を伸ばし、芸術創造に必要な教養やスキルの獲得を促すことで実践に導いています。



卒業認定の考え方

演劇学科では、各コース・専攻の講座や演習で専門知識や理論を学びながら、同時にそれぞれの実習授業において実践的な学びを修得できたかを測ります。

芸術学学士号

1年次から履修可能な各領域の演習、2年次以降の発表を伴う実習、また3年次から研究領域に応じて選択するゼミナールを経て、最終学年では卒業見込み認定単位習得者に対し、卒業研究において4年間の学修成果を見極め、卒業時に「芸術学学士号」を授与します。

卒業認定の基準

舞台芸術の理論と実践を基盤とし、知識や技能の集積だけでなく、それらを幅広く応用し、発展させることができる能力を養い、さらにその力を用いて、社会で活躍できる実力を修得できたかを最終的な卒業認定の基準としています。

求める入学者像

舞台芸術作品には、劇作、演出、企画制作、演技、舞踊、美術、照明、衣裳、音響、舞台監督をはじめとした多くの領域が関わります。その各領域は、主張と協調を重ねながらそれぞれが作品創造を先へ先へと導いていきます。演劇学科では、この舞台創造の根底にある仕組みを活かしながら、理論、歴史、技法、表現とともに学ぶために豊かなコミュニケーション能力と舞台芸術や創作に対する強い熱意をもつ人材を求めています。「舞台創造を学ぶ中で“化学反応し進化する力”を養い、自分のスキルを成長させ、将来の仕事としての」「個々の創造力を大切にし、その違いを尊重しあいながら獲得したリーダーシップで社会に活躍の場を見出したい」。そのような人との出会いをお待ちしています。

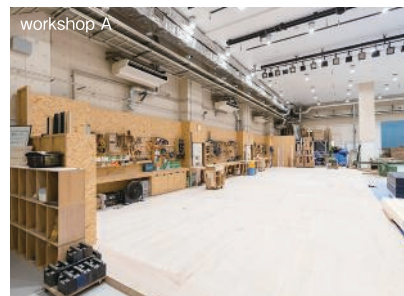


「理論と実践」「基礎と応用」「専門と総合」のバランスに配慮したカリキュラムと、学生の個性や習熟度に応じたゼミナール等の少人数教育を実施しています。

- | | | |
|---------|------------|---------|
| ・演劇概論 | ・会計入門 | ・劇作実習 |
| ・戯曲論 | ・マーケティング入門 | ・演出実習 |
| ・演出論 | ・演技基礎 | ・演技実習 |
| ・演技論 | ・舞台芸術基礎 | ・日本舞踊実習 |
| ・演劇学 | ・演劇教育基礎 | ・舞踊実習 |
| ・舞踊学 | ・舞台扮装基礎 | ・舞台美術実習 |
| ・劇場論 | ・西洋舞踊基礎 | ・舞台照明実習 |
| ・舞踊論 | ・応用演劇基礎 | ・舞台音響実習 |
| ・演劇教育論 | ・劇作基礎 | ・舞台監督実習 |
| ・演劇史 | ・演出基礎 | ・舞台衣裳実習 |
| ・舞踊史 | ・舞台音響基礎 | ・企画制作 |
| ・特殊研究 | ・舞台監督基礎 | ・身体表現実習 |
| ・作家作品研究 | ・企画制作基礎 | ・特殊実習 |
| ・古典演劇研究 | ・舞台美術基礎 | ・ゼミナール |
| ・現代演劇研究 | ・舞台照明基礎 | ・卒業研究 |
| ・応用演劇研究 | ・舞台衣裳基礎 | |
| ・演劇批評研究 | ・アウトリーチ | |

施設

高性能な照明・音響設備と249席を有する中ホールをはじめ、小ホール、実習室1～6(稽古場)、作業場 workshop A、録音スタジオなどを完備し、学科生の様々な創作活動をサポートしています。



授業風景

舞台の計画、準備から上演まで、すべてのプロセスを学生たちがみずから担当することで、舞台芸術への理解を深め、実践の場で役立つスキルの基礎を身につけていきます。



- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

舞踊コース 日舞専攻＊ 2年

かた おか

片岡 さくらさん



- ① 日本舞踊は古典のみだと思っていた高校生の時に初めて日本舞踊の新作公演を拝見しました。とても印象的で私も作品を創ってみたいと思い受験を決めました。
- ② 日本舞踊実習です。踊りを創作するには基礎となる古典をしっかり身に付けたいと改めて大学に入ってから感じました。
- ③ 入っていません。同期がサークルに入っているのですが他学科との交流も増えてとても楽しそうで羨ましいです。
- ④ 空き時間に稽古場の前のフリースペースでパズルをしたり、お互いの舞台の近況報告などをしたりして交流を深めています。
- ⑤ 他学科公開の授業などグループワークで交流があります。友達の友達など学生ならではの交流も沢山あります。
- ⑥ 舞踊大会、劇団四季、パレエなど幅広く演劇を見るようにしています。どの演劇にも必ず見ている人を楽しませる工夫があるのでとても勉強になります。
- ⑦ 学校の近くのチェーン居酒屋で月1程度しています。色々なバイトをして社会経験をしたのですが今は時間が無いのでシフトの融通が効くバイトにしています。
- ⑧ 3歳から日本舞踊を教えていただいている師匠です。日本舞踊のみならずあらゆる角度から日本の伝統文化普及を行っており心から尊敬しております。
- ⑨ 素敵な伝統文化である日本舞踊を知らない人が沢山いるので日本のみならず海外へも日本舞踊の魅力をお届けできていたら嬉しいです。
- ⑩ とても偉大な先生に教えて頂けることはもちろん、個性的な学生が沢山いるので演劇への見え方がいい方向に広がると思います！とても楽しいです！



※令和8年度よりコース名を変更します (P.18 参照)

○卒業後の進路

劇場、興行会社、劇団、プロダクション、美術製作会社、照明会社など舞台関係だけでなく、映像業界や、培ったコミュニケーション能力を活かして一般企業に進む人もいます。

【過去5年間の実績】

アート・ステージライティンググループ／IVSテレビ制作／青二プロダクション／イオンエンターテイメント／エライツ／大田区／オープンハウス／岡山県教育委員会／岡山文化芸術創造／尾木プロ THE NEXT／Office ENDLESS／オフィス新音／オリエンタルランド／オリコン／共同エンジニアリング／共立／キ拉里財団／クリエイティブ・アート・シンク／神奈川芸術文化財団／さいたま市文化振興事業団／工房いち／国立病院機構 関東信越グループ／こまどり芸術学園 平多正於舞踊研究所／狭山ケーブルテレビ／シアターコミュニケーションシステムズ／シアターワークショップ／四季／シミズオクト／松竹衣裳／新国立劇場運営財団／ステージファクトリー／ステージワークURAK／スペースクラフト・エンタテインメント／せたがや文化財団／全国農業協同組合連合会／総合舞台／第一生命保険／ダイワグループ／宝塚歌劇団／宝塚舞台／立川市／学校法人多摩美術大学／チームラボ／ティ・ジョイ／テレビ朝日クリエイティブ／電通プロモーションプラス／東京演劇集団風／東京會館／東京シティ・パレエ団／東京都教育委員会／東舞トータルサービス／東宝芸能／東宝コスチューム／東北新社／所沢市文化振興事業団／日本芸術文化振興会（国立劇場）／ネルケプランニング／俳優座劇場／博報堂プロダクツ／パナダイナムコアミュージック／東日本放送／福武財団／藤浪小道具／マガジンハウス／マッドハウス／松本市芸術文化振興財団／マナセプロダクション／ミクシィ／無名塾／明治座舞台／山口県萩市役所／USEN-NEXT HOLDINGS／横浜アニメーションラボ／吉本興業／読売テレビ放送／ライティングカンパニーあかり組／ワタナベエンターテインメント ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

舞台構想コース 演出専攻 3年

かみ むら よう た ろ う

上村 陽太郎さん



- ① 幼少期から絵を描くことや一人で何か作るとは好きでしたが、折角大学に行くなら何か新しいジャンルで、かつ人と一緒にものづくりがしたいと思って選びました。
- ② 劇作実習Ⅱ。戯曲を書く上で、純粋にタメになる事ばかり。
- ③ 特には。
- ④ 基本は主宰しているカンパニーでは作・演出として公演を行なっています。あとは同期の公演にも参加したり、ワークショップを行なったりもしています。
- ⑤ デザイン学科や写真学科の友人にフライヤーを作ってもらったりしています。
- ⑥ 映画『動物界』。最近是中々映画館に足を運ぶ機会が減っているのですが、これは観に行きたいなと思っています。
- ⑦ 学童で指導員をやっています。自分がどうあれ、子供たちから先生と呼ばれる立場というのは、それだけでかなり面白くて、子供の言動も一つ一つ新鮮で楽しいです。
- ⑧ 活動に精力的な同期たち。その姿に刺激を受けているし、自身の最も身近な目標にもなっている様に思う。
- ⑨ 演劇を続ける事の他に詳細な希望があるわけでもないのですが、活動としては五年後に本多劇場で公演を打つことを一つの目標にしています。
- ⑩ 想像を実現させたい人が、学びの為に集まる環境があること。



○活躍の先輩

石田彰(声優)
板橋駿谷(俳優、ラッパー)
伊藤蘭(俳優)
大澄賢也(俳優)
太田光／田中裕二
(爆笑問題)(タレント)
岡本瑩(劇作家、脚本家)
小沢淳(舞台照明家)
門田宗大(俳優)
加納幸和(俳優、劇作家、演出家)
河合優実(俳優)
川原和久(俳優)
桐竹勘次郎(文楽人形遣い)
木原実(俳優、気象予報士)
串岡良太郎(TBSアク)
串田和美(演出家、俳優)
小森谷徹(タレント)
篠井英介(俳優)
白鳥久美子(お笑い芸人)
高橋英樹(俳優)
立川志らく(落語家)

田中哲司(俳優)
塚本悟(舞台照明家)
テツandトモ(タレント)
富永みーな(声優)
中村彰男(俳優)
中村獅童(歌舞伎俳優)
中村虎之介(歌舞伎俳優)
潘めぐみ(声優)
藤川靖彦(花絵師)
古川登志夫(声優、ナレーター)
松崎史也(演出家)
三浦直之(劇作家、演出家)
見上愛(俳優)
宮本裕子(俳優)
三谷幸喜(脚本家)
本仮屋ユイカ(俳優)
山田和也(演出家)
山田寛人(声優)
ほか



放送学科

Broadcasting

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[放送学科 HPへ](#)



専任教員

安部裕 教授

茅原良平 教授

金龍郎 教授

小林偉 教授

中町綾子 教授

星野裕 教授

森中慎也 教授

澤田顕一 専任講師

石毛みさこ 助教



情報文化のあらゆる ジャンルで通用する 社会への「発信力」を磨く

テレビ(映像)、ラジオ(音声)、インターネット(配信)。様々なコンテンツが日々更新されていく現代において、報道、教養、娯楽、CMなどをカバーする「放送」は多様な役割を担っています。

理論と実践を通して

個性豊かな創作能力、発信力を育み、
放送業界に挑戦するための基盤をつくります。



学びのポイント

1 7つの専門分野

1年次前期に「放送基礎実習」で基礎的な知識と技術を身につけます。

後期からは**テレビ制作・ラジオ制作・映像技術・音響技術・CM・脚本・アナウンス**の7分野に分かれ、2年、3年、4年次へと、実習を軸に専門分野の学びを段階的・多層的に深めていきます。

2 多彩な専門科目

理論歴史部門、研究部門、表現技術部門の多彩な専門講座や豊富な演習を通して、放送に関わる幅広い教養と専門知識を究め、時代が求める真の発信力を育みます。

専門分野の枠を超えて履修できる、

「企画」「番組企画構成」「コピーライティング」「ニュース分析」「取材調査」「照明」などの演習も設置しています。

3 卒業研究

3・4年次では、それぞれが設定する研究テーマに基づいてゼミナールに所属し、**卒業論文**あるいは**卒業制作(映像作品・音響作品・脚本・朗読発表・アナウンス)**に取り組み、4年間の学びの集大成とします。

理想的な環境で創作活動に打ち込めるよう、常に学生をサポートしています。



実習

1年次の後期から、7つの専門分野で段階制の実習を設置。
放送の世界で求められる創作力、表現力をレベルアップしていきます。

**テレビ制作実習**

実際の番組を想定して、企画立案から作品完成まで実践的な経験を積みます。
作品を制作する上では、テレビ番組の社会的な役割や影響力を十分に認識し、受け手を意識した制作姿勢が不可欠です。そのため、題材を発掘する目を養うことから始め、作品制作を通して構成力や表現方法など、演出的な考え方を身につけていきます。
また、テレビ制作ではチームワークが重要。共同で制作することの難しさや尊さを体感しながら、協調性や責任感を養い、実社会で通用する人材を育成します。

**ラジオ制作実習**

音楽番組、ドラマ、録音構成など、音響作品を制作するための演出や技術、創造性を磨きます。
スタジオワークを通して、音響表現の知識・技術を修得し、ドラマをはじめとした音響作品や様々な形式の番組を企画制作します。実践的な学びにより制作者としての創造性を高め、高度な演出力を育みます。
自分の思い描くイメージを音と言葉でどのように紡ぎ、作品に結実させるかを意識し、制作を積み重ねながら、個々の感性や能力を高めていきます。

**映像技術実習**

実際に番組制作を行いながら、テレビ映像の技術を理論と実技の両面から追求します。
「映像技術Ⅰ」ではロケーション、ノンリニア編集の基礎技術を、「映像技術Ⅱ・Ⅲ」ではテレビスタジオを使った番組制作を通して、カメラワーク、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、照明技術を学びます。「映像技術Ⅳ・Ⅴ」ではさらに、ドラマ撮影技術、中継技術、MA技術など、高度な実践力を身につけます。
また、最新の技術に対応できるよう、芸術的感性と創造力を伸ばすための授業も用意しています。



音響技術実習

テレビ・ラジオなど放送の音声を起点に、広い分野の音響技術を理論と実践を通して学びます。スタジオでの実習で放送ミキシングの基礎や音楽録音の基礎技術を身につけ、デジタルオーディオワークステーションを使った音楽収録と編集・ミックスなど、理論と並行して専門的な技術を段階的に修得します。さらに、テレビ番組制作に必要なMA技術や、最新の音響技術も幅広く取り上げます。

音に関する感性を育み、確かな専門技術力を備え、放送分野に限らず新しい音の世界を切り開いていける人材を育成しています。



CM実習

CMクリエイターの育成が目的の実習です。

ラジオ・テレビCMを企画制作するための基礎知識を理解した上で、発想法から企画、コピーライティング、コンテ制作、プレゼンテーション、CM制作までの実践的なトレーニングを行っていきます。企画から実践まで一貫して学ぶことでCM制作のメカニズムを理解するとともに、時代や個性を意識しながら創造力を高めます。

「放送広告論」「コピーライティング」「広告とマーケティング戦略」「放送作品研究」など、様々な面からCMを考える科目を用意し、クリエイターとしての資質を引き出します。



脚本実習

テレビドラマ脚本の執筆に取り組みます。

映像ドラマの特質をふまえた執筆技術の修得、作家としての自己のテーマの発見、メッセージの深化を目指して実習を展開していきます。課題は個人ワークを中心としますが、企画、執筆作品のチェック等それぞれの段階で、ディスカッションを通して作品（やアイデア）を練り上げ、受講者が互いの意見を交換したり、脚本を分析しあったりする機会を積極的に設けています。リライトを重ねて完成度を高めることで脚本執筆の力を養います。



アナウンス実習

言語によるコミュニケーション能力の向上を目標としています。

そのためにまず、呼吸法・発声・発音の基礎を学び、さらに五十音・滑舌・イントネーション・アクセントなどを反復練習することで標準語の音声表現に不可欠な技術を身につけます。

ドキュメンタリーのナレーション、CM、朗読など、個別指導で各々の感性を尊重しつつ表現の可能性を探求します。同時に語彙力を高め、世の中の出来事や動きに日々意識を向けさせることで、実社会が求める「TPOに応じて、自分の考えを、自分の言葉で、簡潔に相手に伝える」能力を育てます。



7分野の実習に加えて、専門分野の枠を越えて履修できる「企画」「番組企画構成」「コピーライティング」「ニュース分析」「取材調査」「照明」などの演習を数多く設置。視野を広げ、マルチな才能を伸ばすことができます。

こんな
授業が
あります



放送概論Ⅰ、Ⅱ
ラジオ史Ⅰ、Ⅱ
テレビ史Ⅰ、Ⅱ
放送制度論
放送契約論
メディア研究Ⅰ
メディア研究Ⅱ
メディア研究Ⅲ
メディア研究Ⅳ
メディア研究Ⅴ
メディア研究Ⅵ
メディア研究Ⅶ
メディア研究Ⅷ
メディア研究Ⅷ
メディア研究Ⅸ
広告とマーケティング戦略Ⅰ、Ⅱ
放送作品研究Ⅰ
放送作品研究Ⅱ

放送作品研究Ⅲ
放送作品研究Ⅳ
放送作品研究Ⅴ
放送作品研究Ⅵ
放送作品研究Ⅶ
放送作品研究Ⅷ
放送技術研究Ⅰ
放送技術研究Ⅱ
放送技術研究Ⅲ
放送技術研究Ⅳ
放送技術研究Ⅴ
放送技術研究Ⅵ
放送技術研究Ⅶ
放送技術研究Ⅷ
ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
放送脚本論Ⅰ、Ⅱ
ラジオ演出論Ⅰ、Ⅱ

テレビ演出論Ⅰ、Ⅱ
放送表現と人権Ⅰ、Ⅱ
放送美術論Ⅰ、Ⅱ
放送広告論Ⅰ、Ⅱ
放送報道論Ⅰ、Ⅱ
放送技術概論Ⅰ、Ⅱ
音響技術論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
映像技術論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
放送表現研究Ⅰ
放送表現研究Ⅱ
放送表現研究Ⅲ
放送表現研究Ⅳ
放送表現研究Ⅴ
放送表現研究Ⅵ
放送表現研究Ⅶ
放送表現研究Ⅷ
放送基礎実習Ⅰ、Ⅱ

企画演習
テレビ制作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
ラジオ制作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
映像技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
音響技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
CMⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
脚本Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
アナウンスⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
番組企画構成演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
コピーライティングⅠ、Ⅱ
照明演習Ⅰ、Ⅱ
ニュース分析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
取材調査演習Ⅰ、Ⅱ

施設

映像設備では、最新デジタル機器を備えたテレビスタジオをはじめ、ネットワーク接続による映像収録・送出・管理が行えるシステムを完備。他にビデオ編集室、技術センター、さらに放送、広告関係の膨大な資料や文献を閲覧できる貴重な資料室もあります。



テレビスタジオ1サブ



録音スタジオAサブ



スタジオカメラ



放送資料室



ビデオ編集室



学科の活動

(地域貢献)

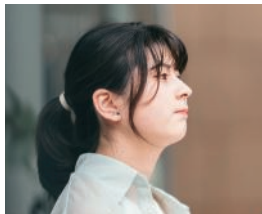


中学生のためのワークショップ

中学生向けの情報番組制作ワークショップを毎年夏に開催しています(練馬区教育委員会主催情報教育推進事業)。地域社会と連携し、メディア・リテラシーの向上を図っています。

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

映像技術・音響技術専攻 2年
か よ う ま ほ
嘉陽 麻穂さん



- ① 昔から音楽が好きなので音楽ライブの映像や音楽番組をよくみていたのですが、それがとてもかっこよくて技術で携わりたいと思ったのがきっかけでした。
- ② 専攻の実習です。映像技術では番組づくりを通して色々な技術を学び、音響技術ではバンドの方をお呼びして収録やMIXをするなど、様々な経験ができました。
- ③ アカベラサークルPOPと主に芸祭で作品販売をするKazariorというサークルに所属しています。あとはサークルではないですが放送学科の有志団体の藝ホウに所属しています。
- ④ 藝ホウで番組づくりをしたり、アカベラサークル内でバンドを組んで外部のアカベライベントに出演したりしました。
- ⑤ サークルの仲間はほとんど他学科の人ですが、一緒にアカベラをやったり、時には友人が出演していたり関わっている劇や作品などを観にいきます。
- ⑥ THE FIRST TAKE。色々なアーティストの原曲とは違うアレンジが聴けるし、一発録りによって織り成される空間って面白いなと思ってみたいです。
- ⑦ カラオケのバイトとテレビ番組のカメラアシスタントのバイトをやっています。
- ⑧ 身の周りの人みんなを尊敬しています。みんな1つのジャンルや場所に囚われず、様々なことに挑戦していて私ももっと頑張ろうってなります。
- ⑨ 音楽ライブのカメラマンになりたいです。5年後は誰かの心に残るような映像をたくさん撮っていたいと思います。
- ⑩ 日芸は充実した設備はもちろん、先生方も仲間も素敵で温かい人達ばかりで、やりたいことがたくさんできます。専攻分野でなくても興味があることにたくさん挑戦できる環境です！



テレビ制作・ラジオ制作 専攻 3年
は し も と こ う き
橋本 光騎さん



- ① 番組制作を将来の仕事にしたかったからです。同じ目標や高い志を持つ仲間が一定数いる環境だからこそ得られる刺激や成長があると思いました。
- ② 「放送表現と人権」。自分が番組制作をする上で、大切な心構えや認識を深められます。制作の基礎となる考えを養える授業です。
- ③ 「オーディオ無線研究会」に所属しています。ラジオ番組制作を行うサークルです。文化祭での生放送や、コミュニティFMで番組を放送する活動をしています。
- ④ 「地元のおと」というラジオ番組の制作や「藝ホウ」にてテレビ番組の制作です。以上のものはYouTubeにて公開しています。その他、多くの番組を個人制作しております。
- ⑤ あまりありませんが、授業やサークルを通してであった仲間と番組制作を行う事はあります。学生によっては他学科の作品制作に関わることもあるようです。
- ⑥ FCバルセロナのハフィーニャ選手です。サッカー観戦が趣味で、よく見えます。ずっと応援していた選手が大躍進している姿を見るのは嬉しいです。
- ⑦ 放送関係のアルバイトをいくつかしています。学内で受け継がれているものもあるので、放送関係のアルバイトを行うチャンスは他よりあると思います。
- ⑧ 番組制作を共に行った仲間たちをはじめ、先生方や助手の皆さん、関わる人の多くに尊敬するものがあります。皆が自分に刺激を与えてくれ、成長できるきっかけとなっています。
- ⑨ 番組制作を行える道に進みたいです。ドキュメント映像を明るく親しみやすく演出して番組を作る事が目標です。5年後、天狗になることなく放送業界で活躍したいです。
- ⑩ 受験の先を見据えて入学すれば、チャンスが沢山転がっています。また、協力し切磋琢磨できる仲間も多くいます。確かな目標を持って入学して欲しいです。



○卒業後の進路

テレビ・ラジオ局、番組制作会社、広告代理店などへ多数進出しています。
脚本家、アナウンサー、放送作家、タレントとして活躍する卒業生もいます。

【過去5年間の実績】

AOI Pro. / 秋田テレビ / 秋田放送 / 泉放送制作 / 茨城新聞社 / IMAGICAエンタテインメントメディアサービス / IMAGICA Lab. / ANAエアポートサービス / A-1 Pictures / NHKテクノロジー / NHK (日本放送協会) / NST新潟総合テレビ / エフエム仙台 / エフエム富士 / 鹿児島テレビ放送 / 共同エディット / 共同テレビジョン / 共立映像 / 共立ライティング / きらぼし銀行 / クリエイティブネクス / 群馬テレビ / 警視庁 / コナミデジタルエンタテインメント / さくらんぼテレビジョン / 山陰放送 / サンスター / 静岡朝日テレビ / 静岡新聞社 / 静岡放送 / ジュビターテレコム / 進研アド / スブーン / 住友林業 / セガ / 総合舞台 / ソラシディア / 大映テレビ / 大日本印刷 / 太陽企画 / 大和ハウス工業 / ディー・エヌ・エー / TBSアクト / TBSスパークル / TYO / テレビ朝日メディアブックス / テレビ静岡 / テレビ信州 / テレビマンユニオン / 電通九州 / 電通クリエイティブX / 電通デジタル / 東急エージェンシー / 東京サウンド / プロダクション / 東京メトロポリタンテレビジョン / 東通 / 東通企画 / 東北新社 / とちぎテレビ / 西日本放送 / 日テレアックスオン / 日テレ・テクニカル・リソース / 日本テレビ放送網 / 公益財団法人日本道路交通情報センター / 博報堂プロダクツ / パンダイナムコアーツ / ビーエスフジ / 福井テレビジョン放送 / 福島中央テレビ / フジクリエイティブコーポレーション / フジテレビジョン / フジ・メディア・テクノロジー / 放送技術社 / 北陸朝日放送 / 北海道テレビ放送 / マイナビ / 三井ホーム / 明治座 / 山口朝日放送 / 山日YBSグループ / 吉本興業ホールディングス / 読売エージェンシー / ルイ・ヴィトンジャパン / ロボット / WOWOW エンタテインメント ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

家田 莊子 (ノンフィクション作家、僧侶)
井上佳央里 (RadioTalk 代表取締役、起業家)
おおたうに (イラストレーター)
小野大輔 (声優)
春日太一 (時代劇・映画史研究家)
川内 有緒 (ノンフィクション作家)
君塚良一 (脚本家、放送作家、映画監督)
宮藤官九郎 (脚本家、俳優、映画監督)
倉田大誠 (アナウンサー)
五味一男 (演出家、プロデューサー)
小山薫堂 (放送作家)
近藤 サト (フリーアナウンサー、ナレーター)
春風亭一之輔 (落語家)

白壁里沙子 (アナウンサー)
菅賢治 (テレビプロデューサー)
高田文夫 (放送作家、タレント)
田辺真南葉 (アナウンサー)
千田洸陽 (テレビディレクター)
中井美穂 (フリーアナウンサー)
中園ミホ (脚本家)
中田有紀 (フリーアナウンサー)
南雲聖一 (演出家)
平山秀幸 (映画監督)
松本茜 (ジャズピアニスト)
松本明子 (テレビドラマプロデューサー)
道上珠紀 (タウ90000) (俳優、芸人)
村山仁志 (アナウンサー、小説家)
森本レオ (俳優、声優)
諸星和義 (テレビ埼玉局員)
矢野健一 (CMプロデューサー)
山崎隆明 (クリエイティブディレクター)
若松節朗 (映画監督)
ほか

デザイン学科

Design

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

デザイン学科 HPへ



専任教員

池田光宏 教授
笠井則幸 教授
佐藤徹 教授

長瀬浩明 教授
森香織 教授
若原一貴 教授

石田純之助 准教授
布目幹人 准教授
大河原健太 専任講師

片桐祥太 専任講師
谷口聡子 専任講師



モノ・コトの本質を探り、 新たな視界を拓く 提案型のデザイナーに

デザインには私たちの社会環境や生活をより豊かで快適にする役割があります。幅広くデザインの基礎を学んだ上で、既成概念にとらわれない思考力、柔軟な発想力、確かな技術力を修得し、次のスタンダードを創造するデザイナーを目指します。

学びのポイント

2 確実に力をつける ステップアッププログラム

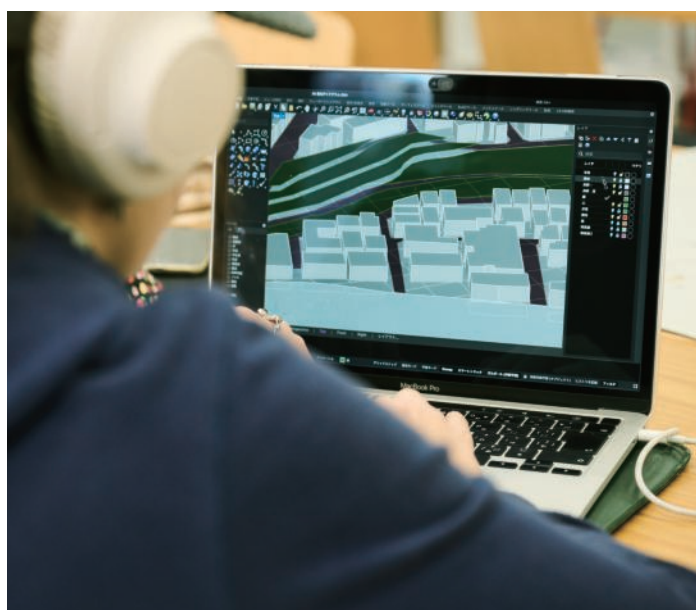
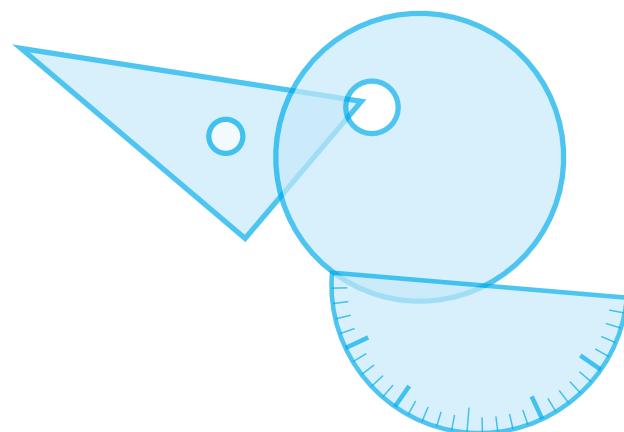
1年次では、観察力と表現力を養いデザインの**基礎知識と技術**を修得。
2年次からは**自らが選択した分野**を中心に、分野を超えて多角的な視野を養い、多様な問題に対する**デザイン思考**を深めていきます。
3年次には**実践的なデザイン業務**も体験。ものごとを横断的に捉える見方を身につけ、4年次の**卒業制作**に繋げていきます。

1 芸術と技術の統合

「芸術と技術の統合」を掲げたドイツ・造形学校バウハウスの教育システムを継承し、豊かな感性と鋭い洞察力を身につけた、総合的視野と造形力のある人物を育成しています。
異なる要素を高い次元で融合させる実力とセンスを磨き、社会に貢献するデザインの可能性を広げます。

3 充実した 学外コラボレーション

他校、地域、企業との**コラボレーションプロジェクト**を通してデザインの新たな可能性を追求し、その成果を広く社会に発信する取り組みを行っています。
教室やアトリエを飛び出し、プロのデザイナーや制作者とともにデザインの実践過程を学ぶことで、学習意欲を刺激する貴重な経験を積むことができます。



1年次はデザインの基礎を総合的に学び、2年次以上はデザイン学科の3つの専門分野（ビジュアルコミュニケーション、プロダクト、建築）のいずれかを選択します。また専門分野以外の授業を選択することも可能で、デザインを領域横断的に学べるカリキュラムになっています。



ビジュアルコミュニケーションデザイン分野

ビジュアルコミュニケーションデザイン分野は、ブランディング、広告、パッケージ、エディトリアル、ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、タイポグラフィ、イラストレーション、ウェブ、インタラクティブデザインなどの広範囲な領域が含まれています。グラフィックデザインを基盤に多様なメディアを横断的に活用し「みる」という行為を通じたコミュニケーションについて総合的かつ実践的に学びます。急速なデジタル技術の変化と広がり私たちの暮らしの中に浸透していく中で、その今日的な課題と向き合うとともに、コミュニケーションの本質を問い、その新たな可能性を探ります。



プロダクトデザイン分野

プロダクトデザインでは、自動車や家電をはじめ、情報通信、オフィス、医療福祉、雑貨、文具、家具、玩具など、身の回りのすべての製品がその対象になります。また現在では情報機器のインターフェイスをはじめ、生活を取り巻く環境や社会システムにまで広がりを見せています。本学科では「多元的にモノゴトを見て考える思考力」「生活の中に潜む諸問題を発見する観察眼」を養い、さらにはその解決策を魅力的に提案、実践できる人材を育成します。快適で豊かな暮らしを実現するためにデザイナーはどうあるべきか、グローバルな時代の変化に対応するため、教育内容も日々柔軟に更新しています。



建築デザイン分野

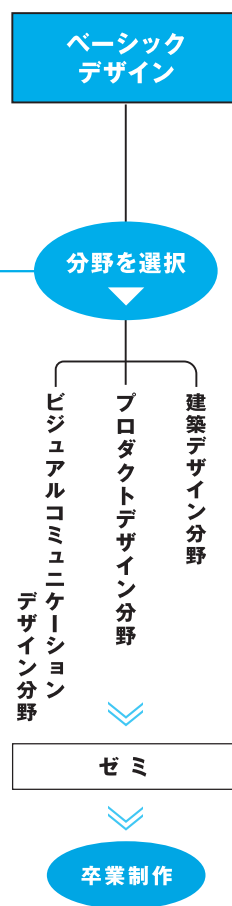
建築デザイン分野を選択した学生たちは、家具・内装デザイン、住宅・集合住宅、公共施設など様々なスケールの課題に取り組みます。その中で設計を理論だけでなく、木や鉄といった本物の素材に触れることで身体感覚を養い、独創的な造形を創造すべく課題に取り組んでいます。また 所定の理論・演習科目を修得することで、木造建築士・二級建築士・一級建築士の受験資格を得ることが可能です。4年次では各自が自由にテーマを設定し、担当教員による少人数ゼミを通じてじっくりと卒業制作に取り組みます。そうした経験を活かし、卒業後は設計事務所をはじめ、様々な分野で活躍する人材を輩出しています。





4 年間の流れ

1 年次	理論と技法の両面からデザインの基本を修得するとともに、3つの分野（ビジュアルコミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、建築デザイン）を総合的に学びます。 ベーシックデザインワークショップやデザインフィールドワークショップなどがあります。※写真参照 ●カウンセリング 1年次に制作した作品をポートフォリオにまとめ、これをもとに学生一人ひとりと進路についてのカウンセリングを行います。本人に適したデザインの分野やその後の方向性について、複数分野の教員がアドバイスをします。
2 年次	自分が選択した分野を核にしたカリキュラムを各自が計画し、デザインの「理論」「歴史」「演習」などの科目を通じて、デザインの手法、知識を深めます。これにより分野を超えて多角的な視野を養いつつ、デザインの多様性を学ぶことができます。
3 年次	選択分野の専門性をさらに深めるために「インターンシップ」「総合演習」「産学連携プロジェクト」などを用意しています。社会におけるデザイン実務を学び、物事を横断的に捉える見方や考え方を身につけていきます。
4 年次	個々の関心や問題意識から独自のテーマを設定し、企画、調査、発想、制作、提案といったプロセスを通じて修得したデザイン手法を駆使し、4年間の集大成として卒業制作にとり組みます。



デザインフィールド
ワークショップ
課題「建築を着る」

世界の名建築を調べ、その時代背景や思想を発表。同時に自分の身体を使いその建築を表現する課題。最終講評ではファッションショーも行う。写真はF・ゲーリーのビルバオ・グッゲンハイム美術館と伊勢丹新宿本店をテーマに制作した学生作品。



スペースデザインⅣ
課題「銀座・和光の
ウィンドウディスプレイ」

銀座和光のショーウィンドウを学生がデザインする実践的な課題。クライアントへのプレゼンテーションを通過した提案をプロフェッショナルな専門技術のアドバイスを受けて実現させる。写真はブライダル・ジュエリーフェアのために制作した学生作品。



プロダクトデザイン(PD)セミナー
課題「身の回りの『はかる』に
関わる道具・プロダクト」
(毎年、異なるテーマで行われる)

1～4年生の希望者で行う合宿形式のデザインセミナー。学年の垣根を超えたチームでアイデア出しなどをしながら、製品をデザインしボードにまとめる。卒業生である現役のデザイナーも駆けつけて指導にあたる。最終日には教員による審査を行い優秀作品は表彰される。

こんな
授業が
あります



将来、デザイナーとして活躍するために必要な知識・経験を積むことができます。

在学生の作品

小野鼓乃：コマにわ

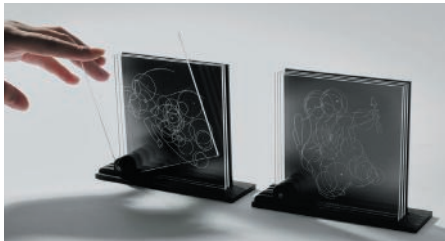


カンジェオン：鴉



奥田瑞希：会話が広がる新しいショッピング体験

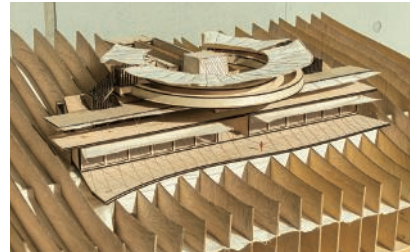
山川七海：顕天鏡



櫻井千空：
スポーツ観戦時のゴミ捨てをより楽しくするデザイン

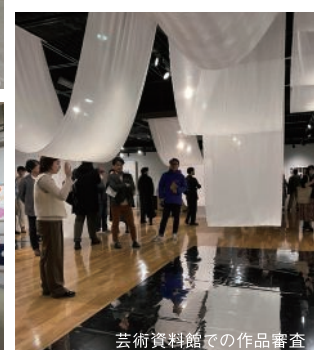


オウ ソダク：青い涙美術館



ユージュンハン：
primitive modern

学びのシーン



- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

2年

やま ぐち とも か

山口 朋華さん



- ① 初めから専攻が定められておらず、学科を超えた学びも期待できる。そんな開かれた学びの場に惹かれて日藝のデザイン学科を志望しました。
- ② 2年次池田先生の「ビジュアル基礎」です。ポスターやパッケージの制作など、自由ながら実践的な課題を通し、私の表現の世界がグッと広がりました。
- ③ サークルには入っていません。しかし、友達の友達繋がりや色々な人と交流することは多いです。
- ④ 展示会を見に行ったり、一緒に物販に参加したりしています。互いに創作の刺激になるような活動が多いです。
- ⑤ 体育の授業で話をしたり、連携プロジェクトで一緒に企画を作ったりしています。
- ⑥ Vtuber産業に注目しています。次々に進化する、次元の境を超えたエンタメに様々な可能性を感じています。今後の社会への広がりに期待です。
- ⑦ 長期休暇中に、映像編集系の短期アルバイトをしています。大きなプロジェクトが動く現場での経験は、自分の世界が広がる貴重な経験となっています。
- ⑧ 4年生の小野先輩をずっと尊敬しています。多彩な表現と、自分の限界を決めずに様々なことに挑戦する姿勢は私にとって憧れであり尊敬する先輩です。
- ⑨ キャラクタービジネスと広告業界に興味があります。5年後には、広告代理店などで自分の表現力を磨きつつ、好きなジャンルのお仕事で楽しく働きたいと思っています。
- ⑩ 他学科の公開授業や交流に参加するなど、自分次第で必要なスキルや知識がたくさん吸収できるところは特におすすめです。一緒に頑張れる仲間が皆様をお待ちしています！



3年

やぎ ぬま こう た

柳 沼 幸多さん



- ① 幅広いジャンルのデザインを学びながら、実践と理論を組み合わせた総合的な学びを受けることができる点が魅力だと感じたため志望しました。
- ② 笠置先生の「アーキテクチャデザインV」で、シビックセンターの設計課題に取り組みました。将来、自分が実際に手がけたいと思える施設をイメージして設計しました。
- ③ 小さい頃からダンスを習っていたので、ダンスサークルに入っています。先輩後輩関係なく部員同士の仲がとても良いです！
- ④ 近くの建築と一緒に巡ったり、一緒に課題や模型を制作したりすることが多いです。
- ⑤ 外国語や体育の授業を通じて、他学科の人々とコミュニケーションを取り、交流しています。
- ⑥ 韓国の雑貨やインテリアに注目しています！シンプルながらも洗練された新しいデザインに大きな魅力を感じています。
- ⑦ インテリア雑貨のショップとイベントスタッフのアルバイトをしています。さまざまな雑貨や建築物、アートに触れることで自分の感性を磨くことができ、良い刺激になっています。
- ⑧ 同じ建築デザインを学んでいる仲間です。忙しい中でも互いに協力し合い、切磋琢磨しながら課題に取り組む姿勢をとても尊敬しています。
- ⑨ 卒業後は大学院に進学し、建築についてさらに深く学びたいと考えています。5年後には、設計事務所で大規模なプロジェクトに携わりながら、設計スキルをさらに高めたいです。
- ⑩ 8つの学科があるため、他の学生との交流や授業を通して刺激を受けることができ、異なる視点でのアプローチを学ぶことができるため、自分の芸術表現の幅が広がります！



○卒業後の進路

広告代理店、デザイン事務所、広告制作会社、家電・自動車・文具などのメーカー、建築・設計事務所、建設会社などで、幅広く活躍しています。

【過去5年間の実績】

アールシーコア／あとらす二十一／アライヘルメット／E-グラフィックスコミュニケーションズ／石原設計／エムクリエイツ／ADKホールディングス／SNK／NECマネジメントパートナー／NTTドコモ／エレコム／大塚商会／オカムラ／OKUTA／オシロ／カプコン／カワサキモーターズ／九州博報堂／共同エンジニアリング／クツワ／クラウドサーカス／クリエイティブコミュニケーションズ／クリエイティブヨーコ／広美／コーエーテクモホールディングス／コトブキシーティング／コナミグループ／サクラインターナショナル／サンエックス／GMOメディア／ジェ・シー・スパーク／スズキ／スターツホーム／スマイルズ／セガ／ZOZO／ソニーグループ／ソニー・ミュージックエンタテインメント／大東建託／ダイハツ工業／タカラトミーグループ／たきコーポレーション／タニタ／タマホーム／千葉県庁／ツートン／電通／電通テック／電通東日本／東急エージェンシー／東京インテリア家具／東京リスマチック／東北新社／トヨタモビリティ東京／日産自動車／日本製紙／日本創発グループ／任天堂／博報堂／博報堂DYアイ・オー／ハビラ／ビーコンコミュニケーションズ／ビームス／ファブリカ／ブシロード／ヘルメス／防衛省 陸上自衛隊／ほぼ日／本田技研工業／マクヤン／ワールドグループ ホールディングス／丸八真綿／みずほ銀行／三菱電機／明治安田生命保険相互会社／ユニオン／ヨドバシカメラ／読売クリエイティブスタジオ／ランドマック／レック／ローソンエンタテインメント／ローヤル企画 ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

秋山具義 (アートディレクター)
荒井良二 (絵本作家)
安西水丸 (イラストレーター)
石田直久 (グラフィックデザイナー)
おかだ萌萌 (イラストレーター)
小木曾瑞枝 (美術家)
片岡哲 (プロダクトデザイナー)
加藤大 (イラストレーター)
古泉良範 (加賀友禅作家)
ジェリー鵜飼 (イラストレーター、アートディレクター)
杉千春 (プラネットワークス) (建築家)
杉浦さやか (イラストレーター)
スズキユウリ (アーティスト)
玉置太一 (アートディレクター)
土谷尚武 (イラストレーター)
ながしまひろみ (イラストレーター)
中村至男 (グラフィックデザイナー)
VAUNDY (マルチアーティスト)

バラダイス山元 (ミュージシャン)
パルコキノシタ (美術家)
日端奈奈子 (イラストレーター)
牧かほり (グラフィックアーティスト)
松尾レミ (GLIM SPANKY)
(アーティスト、ボーカリスト)
松井龍哉 (ロボットデザイナー)
みかづき唯 (漫画家)
ミリメーター (アーティスト、建築家)
やすこーん (漫画家 / 文筆家)
安田翔哉 (CMプランナー、漫画家)
山下ともこ (グラフィックデザイナー)
横河健 (建築家)
吉葉安弘 (YYossYY)
(ジュエリーデザイナー、宿泊業)
Rak (アートディレクター、クリエイティブディレクター)
ほか





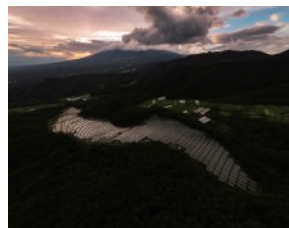
同じ志を持つ仲間と出会い、写真の世界が広がり続けた

逸見祥希さん (写真家)

2018 年卒

私の写真人生は、姉が高校の写真部に入っていたのを見て、自分もやってみようという軽い気持ちから始まりました。私も高校で写真部に入り、自分の表現が人に認められることに喜びを感じ、徐々に写真にのめり込んでいきました。私が日藝を目指すようになったのは、単純に写真を極めたいという気持ちが全てで、その目標を達成できると思ったのが、日藝だったからです。日本における写真学の最高学府である日藝には全国から写真家を志す若者が集まり、きっと自分をもっと高いところに連れていってくれるに違いないと信じていました。そしてその期待は裏切られることなく、大学入学後から卒業まで私の写真世界は広がっていききました。例えば、同じクラスには有名カメラメーカーのコンテストでグランプリを取っているような同級生や、すでに作家として名を揚げている同級生がいました。今まで向こう側だった世界はもうすっかり目の前にあり、自分もこの環境で写真を学べることに感激し、身震いしていました。友人と当たり前のように写真を撮り、語り合い、時には真っ向から意見をぶつけあった日々が本当に幸せな時間であったと、卒業した今も心から思います。大学で写真を学ぶということは技術の習得よりも、同年代の仲間と写真の話をいくらでもできることに大きな価値があります。

私は卒業後日藝に戻り、写真学科助手として3年間勤務し、学科内の授業補助などの業務と写真研究活動に取り組みしました。退職後は助手



逸見祥希さんの作品から／
第1回キヤノン GRAPHGATE
でグランプリを受賞した作品
「(Un)acceptable Landscapes」
の一部。3.11 後、エネルギー
開発によって日本各地の景観が
大きく変化してきた。私たちは
この景観にどう向き合い、何を
思えばいいのだろうか。

時代の研究活動をさらに発展させるために早稲田大学の大学院に入学し、修士号を取得しました。そして常に写真を考え続けた日々の積み重ねはようやく実を結び、2023年第1回キヤノンGRAPHGATEでグランプリを受賞することができました。日藝に入っていなければこのような大きな賞を取ることはできなかったと断言できますし、この受賞を通して私は日藝に入って良かったと切実に思いました。

日藝に入ることは夢への一歩目となります。この激動の社会の中で写真を学ぶ意味を、自らの手で導き出してください。同じ志を持つ仲間に出会うことで、あなたの世界は無限に広がっていきます。迷ったら困難な方へ。このメッセージを読むあなたは既に夢の入口に立っているのです。

1994 年生まれ。青森県出身。2019 年から 2022 年まで写真学科助手。2024 年早稲田大学大学院社会科学専攻修士課程修了。同大学院博士後期課程在籍中。実家のある青森県六戸町で大規模な太陽光発電開発が始まったことをきっかけに、ソーラーパネルの撮影を開始。現在は日照量日本一である山梨県北杜市を中心にドローンによる空撮を行い、作家活動を続けている。2023 年第1回キヤノン写真・映像作家発掘オーディション GRAPHGATE グランプリ受賞。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「社会人経験を積んだ後に大学院に入学し、写真を活用した社会課題の解決方法について考え続ける日々でした」

Photography

写真に没頭した幸せな日々。 身につけた幅広い知識を活かし社会へ

市川末佳さん

(キヤノンマーケティングジャパン株式会社 エリアセールス)

2023 年卒

中学高校と校内で携帯電話の使用が禁止されていました。その中で使用が許可されていたカメラを日々持ち歩き、学生生活を記録していました。その影響もあったのか、振り返ってみれば誕生日プレゼントで両親にカメラを買ってもらったことが多かったように思います。学校で撮った写真を友人に見せて喜んでもらったことが嬉しく、写真を撮る楽しさを覚えました。

進路を決めるにあたり、「自分の好きなことに集中して学ぶ環境に身を置きたい」ということを一番に考えていました。自分が何に興味を持ってどういうときに前のめりに取り組んでいたかを見つめなおし、色々とオープンキャンパスに足を運ぶ中で写真の世界の奥深さを知るきっかけとなった日藝写真学科を目指すことに決めました。

日藝入学後、3年の写真基礎演習は、写真集を制作する鈴木麻弓先生のクラスを受講しました。間違いなく、私の写真に対する考え方に大きな変化があったのもこの授業がきっかけです。国内外で活躍する写真作家の写真集や写真展を紹介いただき、先生の熱量から私たちも自然と写真の見方や伝え方を理解していました。写真集は、写真をしりとりのように組んでいく作業を行います。自分が失敗したと思った写真でも、先生の手がかかるとなぜか生き返るんです(笑)。写真を紡ぐ意味を見つけられました。

4年も鈴木先生のゼミに所属。卒制のテーマや方向性に思い悩む日々が続きましたが、写真集や論文といったヒントをたくさんいただき、作り上げたときの達成感は忘れられません。写真に没頭できた日々は幸せでした。

Q. 卒業から2年、いまどんなことをされていますか？

「写真・映像の軸、カメラについてまだまだ勉強しています！」



市川末佳さんの仕事から／
カメラ研修の様子。
座学や撮影実習を通して、カメ
ラの特性を学びます。日々、撮
影者に寄り添えるような知識の
習得に励んでいます。

高校生のとき、フォトグラファーを夢見ていました。大学やアルバイトで、写真を撮る人、作品をつくる人、ギャラリーの人、思い出写真を売る人、、、と、あらゆる方面から写真を見てみました。

大学卒業後も写真に関わり続けたい、という思いからキヤノンマーケティングジャパン株式会社に入社しました。現在はエリアセールスとして、キヤノンのカメラ製品を扱い、家電量販店やカメラ専門店に向けた営業活動をしています。新製品やキャンペーンが始まる時には、さらに販売いただけるよう店頭展示用のPOPや資料を持っていき、日々店員さんとの関係構築を図っています。学生生活の中で培った、カメラの構造、撮影方法、写真家など、写真に関する幅広い知識を活かすことができています。今後は、変化する動画市場の理解を深めつつ、作品をつくった経験を活かせるような、写真作家の活動をサポートする仕事をしたいと考えています。

自由にのびのびと、刺激を受けながら過ごした大学生活はとても贅沢なものでした。できることならもう一度通いたいと思うほど、4年間の大学生活が本当に愛おしいです。

2000 年生まれ。千葉県出身。2023 年大学卒業後、キヤノンマーケティングジャパン株式会社入社。現在、エリアセールスとして、カメラ専門店や家電量販店の営業を担当。



日藝で出会った仲間と 今も続く映画漬けの日々

中川和博さん（映像監督）

2009年卒（監督コース）



中川和博さんの仕事から／
左：特撮作品の現場。『フェス・ゴジラ』シリーズより ©TOHO CO., LTD.
中・右：『ダブル』『白暮のクロニクル』（WOWOW オンデマンドで配信中）はプロデューサー、脚本家、カメラマンをはじめ多くのスタッフが日藝の出身者。

幼い頃から映画が好きで、将来も映画に携わる仕事がしたいと思って進学先を探しました。当時は今ほどネットで情報を集める行為が盛んではなかったので、進路指導の先生に「映画といえば大芸（大阪芸術大学）か、東京の日藝や」と聞いた私は他の選択肢をロクに調べもせず、受験に挑みました。運よく日藝に入学でき、晴れて上京となりました。

大学生活が始まると、同級生たちが田舎では上映されていないようなアート映画に詳しく、映画への造詣も深いことに、入試の面接で意気揚々と「一番好きな映画はジュラシックパークです!」と答えた私は圧倒されました（今でも一番好きです）。

そんな同級生たちと実習や自主映画と一緒に映画を作り、同じ釜の飯を食い、映画について語り合う盛り上がる日々。とても楽しく充実した大学生活でした。キャンパスライフ、というイメージよりも部活や合宿というような感覚でした。

どれほど勉強し知識を得ても、実際に作品を作ってみること以上に映画・映像制作について学べることはないと思います。そういう意味でも、大学時代から実践的に映画を作ることが出来て本当に良かったと思っています。

僕が大学の時に撮った作品は、今でも同級生にいじられるくらい恥ずかしくて目も当てられませんが、失敗を重ね、改善し、次こそは面白

い作品を作るぞという気持ちで映画を作り続けました。

そんなこんなで卒業から15年。ようやくその時の仲間も偉くなり、自分たちが監督やプロデューサーという立場になり、商業作品と一緒に手がけるようになりました。そして、今でも仕事を通して同じ釜の飯を食い、映画について語り合う日々を過ごしています。しかも、先輩後輩関係なく、です。日藝に入学して一番良かったのは、そんな仲間と出会えたことです。

撮影現場で自分の考えを人に伝えるという行為は、想像以上に難しいものです。しかも商業作品ともなればいろんな人の思惑や、制限が絡んできます。そんな中でも日藝の仲間がいることで、理解してもらえる安心感が生まれ、創作への力となります。

これから入学をする方たちとも、いつか同じ「日藝仲間」として現場で一緒にできる日を楽しみにしています。

1986年生まれ。奈良県出身。監督助手として三池崇史、樋口真嗣などに師事する傍ら、自主映画を製作。『怪獣の日』（14年）は国内外の映画祭で上映された。2017年には文化庁委託事業・若手映画作家育成プロジェクトに選出され『さらば、ダイヤモンド』（17年）を監督。他に『フェス・ゴジラ』シリーズ（19年～）、『ダブル』（22年）、『ウルトラマンブレーザー』（23年）、『白暮のクロニクル』（24年）など人間ドラマから特撮まで幅広いジャンルを手がけている。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「監督助手として商業映画の現場に携わりながら、自主映画を作っていました」

卒業後は自主制作で道を模索。 同期と作った映画が足がかりに

月永雄太さん（カメラマン）

1999年卒（撮影・録音コース）



月永雄太さんの仕事から／
左：映画『夜明けのすべて』
◎ 瀬尾まいこ／2024『夜明けのすべて』製作委員会
中：映画『ケイコ 目を澄ませて』
◎2022 映画『ケイコ 目を澄ませて』製作委員会
右：映画『泣く子はいねえが』
◎2020『泣く子はいねえが』製作委員会

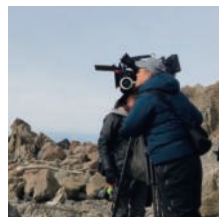
高校時代に映画鑑賞にハマリ、学校帰りによくひとりで映画館に行っていました。「映画ってどうやって作るんだろう」と興味を持って学べる場所を探していたら、偶然、日藝に映画学科があると知り受験を決めました。撮影・録音コースを選んだのは、具体的な技術を学べそうだったから。3年生の実習や4年生の卒業制作、友人たちと自主制作で映画作りをしたことが大学では印象深いです。3、4年では年に数回、川又昂カメラマン（大島渚監督や今村昌平監督の映画の撮影監督を務める）が来て実習や講評を行っていました。卒業制作の講評会で、とある俳人の俳句の映像化を試みた僕の撮影作品を川又先生が一言褒めてくださったことが、その後の僕の支えになっています。自然豊かな山の中でいい映像を撮るために手間を惜しまず、時間をかけて丁寧に行ったことで先生の目にとまるものになったのかもかもしれません。

卒業後はアルバイトをしながら、友人と自主制作で映画を作ったり、撮影依頼があれば出かけていくなど、撮影で生計を立てる道を模索しました。映画学科の同期の富永昌敬監督とも組んで作品作りをしていたところ、一緒に作った『亀虫』が池袋の映画館シネマ・ロサでのレイトショーで話題となって映画プロデューサーの目にとまり、その延長で2006年、富永監督作『バビロン山椒魚』の撮影を務めたのが商業映画デビューです。就職氷河期と言われた卒業当時、映画作りの

定職は見つからず、アルバイトで暮らしながら30歳までは頑張ろうと思っていました。『バビロン山椒魚』の撮影が29歳、30歳で公開になったので、ギリギリ間に合った感じですね。その後、青山真治監督に声をかけてもらって2011年『東京公園』の撮影を担当、ロカルノ国際映画祭で上映、評価されたことが映画業界の中で名前を知ってもらいひとつの転機にもなりました。

かつて20代の頃「自分で資金を出してでも映画を作りたい」という熱意が同期だけでなく先輩や後輩にもあり、自分も撮り続けることができました。多くの出会いのおかげで映画・ドラマ・CM撮影現場で現在も働くことができています。

1976年生まれ。映画『バビロン山椒魚』（2006年、富永昌敬監督）、『東京公園』（2011年、青山真治監督）、『モリのある場所』（2018年、沖田修一監督）などで撮影を務める。『泣く子はいねえが』（2020年、佐藤快磨監督）でサン・セバスティアン国際映画祭オフィシャルコンペティション部門最優秀撮影賞。『ケイコ 目を澄ませて』（2022年、三宅唱監督）で毎日映画コンクール撮影賞。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「アルバイトをしながら手弁当で撮影をしたり、友人と自主制作映画を作ったりしていました」

大切なのは、 足を運んで本物の作品を数多く観ること

大山智子さん（洋画家）

2009年卒（絵画コース）

2021年修了（大学院芸術学研究科博士後期課程〈芸術専攻〉）



大山智子さんの作品から／
左：《Jazz Orchestra》2020
年 310×650cm カンヴァス・油彩・オイルパステル
右：《AMAKUSA》2021年
162×194cm カンヴァス・油彩

幼い頃から工作や絵を描くことが好きで、高校の美術学科を卒業し専門学校で服飾を学びました。画家になる夢がどうしても諦めきれず、後に日藝を受験しました。入学後、自身の作品の転機が、3年生の実技の裸婦課題で訪れます。美術館で観たアンリ・マティスの作品に感銘を受け、写実的だった表現から一転、大きな筆と三原色の色面で大胆にとらえた裸婦に手応えを感じました。講評会での先生方の評価が後押しとなり、この作品を機に表現が変容。より深く絵画を研究するきっかけとなり、現在の画家の活動にも結びつきました。

当時は、学外で先生方の個展や展覧会を見る時間がとても刺激的でした。学校での姿とは違う一面を知り、何を表現し考えているのかを聞くことのできる貴重なチャンス。オープニングパーティーなどではお酒を交えてひとりの画家として接していただき、集っている他の画家の方のお話も聞くことができました。ヨーロッパ取材のお話などは面白く、いつしか海外で取材することが目標になりました。絵画を学ぶには、本物の作品をとにかく数多く足を運んで観に行くこと、これに尽きます。

日藝の研究室や図書館には貴重な画集やレゾネが豊富にあります。ひとりの画家の作品の変遷や、実際に観ることのできない作品を見ることで、自身の表現を確立する手助けになるので、在学中に片端から閲覧することをお勧めします。

大学院修了後、地元である茨城県に戻り、海外取材や発表を続けながらアートセラピストをしていました。4年目を迎えた頃、活動を見てくださった教授から絵画助手のお話をいただき、以前と違った立場で大学に身を置けることに感激したのを覚えています。助手として5年勤めながら博士号を取得し、現在は画家として活動しながら、非常勤講師としてアトリエで制作する学生にアドバイスや指導をしています。

これからの目標は、画家を目指し始めてからずっと変わらないことですが、生きている間に納得のゆく作品をひとつでも多く描くことです。講師としては次世代の画家を育て、卒業後、画家同士お互いに高め合えるような付き合いができればうれしいです。

1985年生まれ。茨城県出身。アートセラピストを経て、2022年美術学科絵画コース絵画専攻非常勤講師に就任。近年ではSOMPO美術館で開催するFACE展2022で優秀賞受賞。他、画廊や美術館で発表多数。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「活動を見てくださった教授から美術学科絵画助手のお話をいただいた頃でした」

Fine Arts

日藝の魅力は、 多様な意見を聞くことができる講評

根本祐杜さん（彫刻家）

2015年卒（彫刻コース）



根本祐杜さんの作品から／
左：《NEW SHIT PRESIDENT》
2020年 撮影：木奥恵三
右：制作風景

現在の活動としては、基本的にフリーランスで作品作りをしています。子どもの頃から貯金箱作りが好きで、高校も美術部でした。美術部では油絵を描いていたのですが、立体を作るのが好きだったので、日藝の彫刻科を選びました。日藝の魅力は講評でしょうか。講評の数が多くて、4年生のときは1年間で卒制も含めて5回くらいあった気がします。つまり年間5作品を作らなくてはならない。それを彫刻科の先生全員が講評してくれました。講評に参加する人数も多くて、非常勤・常勤の先生含め十数人が集まってツアー形式で講評するんです。3、4年合同なので先輩の話も聞けて、ここでいろいろな意見をもらえたのが、すごく面白く、良い経験でした。

彫刻科は、1、2年生で石や木材、鉄、セラミックなどの主な素材の扱い方の基礎を学び、3年生から自由制作に入っていきます。当時は紙などで人体を作っていましたが、今扱っている素材や仕事の内容で、彫刻テクニカル問題にぶつかることも多く、あのときもっといろいろな素材や、彫刻に対して開けた向き合い方をしていたら、と思う場面は多いです。そのときは必要ない、面白くないと思って、まずはひと通りやっておいたほうがいいんだと。卒業してからだと独学になってしまいますので。

僕の作品は、自分自身や自分の生活に連続しているものだと考えて

います。最近は長屋をリノベーションした自分の家を展覧会の会場にしてグループ展を行いました。公共性と私個人のパーソナリティのスペースが融合した謎な家や、生活の中で出会った人物像を作ったりしています。作品作りの方向性は学校で作られたと思います。講評されたり、作品をたくさん見ることによって、自分の表現ややりたいこと、考えていることがかたちになってきた。日藝で作った作品が今の表現に繋がっていると思います。

今後は、より落ち着いて制作できる環境を作って表現の質を上げていきたいです。軸として彫刻はあるのですが、絵本やイラストを描いたり、タトゥーも勉強し始めたりしていて、いろいろな表現を鍛えて最終的にはすべてを、彫刻に還元できたらと思っています。

1992年生まれ。千葉県出身。2015年日本大学芸術学部学部長賞受賞。2023年東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。主な展覧会に2021年「ザ・ビッグアンドハードネス」ソフトハウス三ノ輪他、展覧会多数。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「コロナ初期のロックダウン下、アテネに交換留学をしていました」

一流の演奏家に学ぶ贅沢な時間と 多様性あふれる仲間から得た刺激

大津日菜子さん

(サントリーパブリシティサービス株式会社 公演マネージャー)

2021年卒(弦管打楽コース フルート専攻)

私は千葉県出身ということもあり、小学校の頃から音楽が身近にある環境で育ちました。吹奏楽部で始めたフルートが大好きで、高校までの9年間は部活に没頭していたのですが、志望大学を考え始めたときに「“好き”をとことん学べて、自分の可能性が広がる大学に行きたい」と思うようになりました。でも、かと言って音大に行きたいかという音楽だけになるのは視野が狭まる気がして、そこから日藝を目指すようになりましたね。

1～2年次は、専科のレッスン以外にも音楽学やソルフェージュなど基礎的な座学を身につけ音楽への教養を深め、3～4年次では作曲や指揮法、より実践的な演奏技術を学ぶことが出来ます。レッスンや室内楽、オーケストラの授業では、一流の演奏家である高木綾子先生と、萩原貴子先生からその高い演奏技術を熱血指導いただき、本当に贅沢な経験だったと感謝しかありません。

学科以外の活動でいうと、2年次から演奏会を企画するNPO法人で活動したり、3年次は中国留学したりと、学内外問わず経験を積むことができ、充実した大学生活だったと思います。こうして思う存分チャレンジできたのも、どんな選択も尊重してくださり、助言や万全のサポートをしてくださった先生方がいたからだと思います。

またこれは日藝ならではの、興味のある他学科の授業も履修で

Q. 卒業から4年、いまどんなことをされていますか？

「新しくオープンする劇場の立上げで、スタッフの研修や、ご案内業務のオペレーション設計を担当しています」



大津日菜子さんの仕事から／
全国各地の音楽ホールの運営や
ご案内業務に携わっています。
大学で学んだ多方面の知識が
活きていると感じます。

きるため、そこでも大事な出会いがありました。同じ授業を履修したことをきっかけに、文芸学科の友達に演奏会のチラシをデザインしてもらったり、写真学科の友達の作品撮りに参加したことで、今度は逆に演奏会でのカメラマンをお願いしたり・・・学科を越えた繋がりができ、おもしろい人ばかりいるなぁと刺激をもらっていました。

今は“多様性の尊重”という言葉をよく耳にするようになりましたが、日藝ではそれが当たり前。皆さんご想像の通り、個性溢れる仲間たちが熱意を持ってチャレンジし、無条件に認め合うことができます。そんな空気が当然のようにあります。

今後の目標は、より時代に沿った芸術文化施設の運営を探ること、それによってコンサートや美術展がもっと生活に溶け込む文化となるように力を尽くしていきたいです。

これから日藝に進まれる皆さん、ぜひどこかで一緒にしましょう！

1997年生まれ。大学卒業後、サントリーパブリシティサービス(株)に入社。全国各地の音楽ホールや美術館などの芸術文化施設の運営に携わる同社で、主に Bunkamura のご案内業務に関わる。その後、山形、大阪、札幌など各劇場で公演業務を担当。イベントのチケットデザインや、座席・販売枚数などの票券管理の経験を経たのち、現在は、新規劇場のオープン業務を担当している。



Music

夢に向かって邁進する仲間たちと過ごした 刺激的な4年間

山田聡美さん

(アーティストマネージャー、作家マネージャー、音楽ディレクター)

2015年卒(情報音楽コース)

幼少期から音楽スクールに通っていたこともあり、10代半ばには音楽業界へ進みたいと思うようになりました。情報音楽コースに入ったのは、音響学や音楽情報処理技術の勉強をしたかったから。このような学びができる大学は当時は数えるほどしかなかったので、受験を決意してからはオープンキャンパスに通い詰めしました。

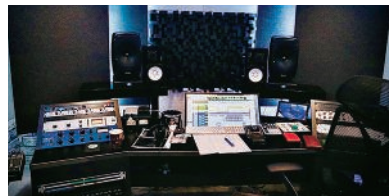
授業はどれも楽しかった。合唱もあれば、パソコンで音楽を作ったりスタジオでレコーディングをしたりもする。専門的で多岐にわたる経験をたくさんさせてもらいました。現在の仕事をする上でこれらの知識や経験はとても役に立っています。また、これは日藝の良さだと思うのですが他の学科の授業も受けられるので、芸術全般が好きな自分にはとても魅力的な環境でした。

印象に残っている授業は、IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)という研究機関に留学経験がある先生が講義してくださった、現代音楽史(現在はカリキュラムが変更されています)です。この授業で現代音楽やメディアアートという世界と初めて出会い、そのユニークさと奥深さに「こんな世界もあるのか!？」と衝撃を受けました。

情報音楽コースには夢に向かって邁進している人がたくさんいたので、彼(女)らとともに授業以外でも刺激的な挑戦をたくさんしましたし、在学中に出会った友人や先輩は今でも私の財産です。大学側主催

Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「担当アーティストの海外フェス参加同行のため、香港、シドニー、ワシントンD.C.など、海外出張の日々でした」



山田聡美さんの仕事から／
音楽制作やディレクター業務
において大事な仕事場となる
音楽スタジオ

の「SWITCH」という祭典は先輩後輩の交流がかなり盛んで部活的な楽しさもありアットホーム。能動的でクリエイティブな雰囲気心躍り、毎年参加していました。

大学2年生のときには、先輩とともに音楽ライブを企画。演奏に合わせてキャラクターを舞台上に映し出し動かすというもので、企画、集客、公演制作などのすべてを自分たちで行いました。当時はちょっとした話題にもなり、今でも貴重な成功体験のひとつになっていますし、現在の仕事にも繋がっています。

今後は音楽だけでなく、アニメや映画などの映像作品にも携わっていきたいです。その際には、マネージャーやディレクターとしてだけでなく、作品作りの根幹に関わるようになっていきたいですね。

1992年生まれ。大学卒業後、株式会社ホリプロ入社。タレントや声優のファンクラブ運営業務を経て、2017年より音楽事業部(現 音楽事業本部)へ。現在は同事業本部でマネジメント業務や音楽ディレクター業務に従事。



子どもの本の世界が 楽しく豊かな場所であり続けるように

沖本敦子さん (子どもの本の編集者)

2000 年卒



沖本敦子さんの仕事から／
左から『ねむねむ こうさぎ』(麦
田あつこ・文、森山標子・絵)、
『だるまさんが』(かがくいひろ
し・作)、『りんごかも しれない』
(ヨシタケシンスケ・作) いずれ
もプロンズ新社刊

子どもの頃から本が好きでした。『ロボット・カミイ』や「ぼくは王さま」シリーズ、「おぼけのアッチ」のシリーズなど、思い出の本はたくさんあります。私の子ども時代は、福音館書店や岩波書店などから数多くの良書が生まれた、いわば児童書の百花繚乱期。先代の作家、編集者の方々が生み出してくれたいいものを、たくさん吸収して育つことができました。

文芸学科を選んだ理由は、作家やイラストレーター、デザイナーなど、本まわりの職業にぼんやりと憧れを抱いていたから。大学3年で編集者という仕事を知って、子どもの本の編集者を目指すようになりました。印象に残っているのは、故・藤井正弘先生の編集実習の授業です。学生たちが取材に行って雑誌を作るのですが、私は「暮しの手帖」の編集長・大橋鎮子さんに取材をお願いしました。大橋さんが電話口で「それなら私が話してあげましょう」と即答してくださって、後日たっぷりインタビューさせていただきました。編集部で試作中のおやつをご馳走になったことも含めて、思い出に残っています。

4年の夏には、掲示板でバンドメンバーでも募集するような感覚で有志を募り、「JACKPOT」という雑誌も作りました。巻頭特集は「編集者の肖像」。先生方に相談すると、「この人たちに会いに行くといい」とマガジンハウスや小学館、日経BP社などの編集者を紹介してくれて、インタ

ビューすることができました。文芸学科の学生が取材・執筆を、写真学科の学生が撮影を担当するなど、学科を越えた仲間とひとつのものを作れたのも貴重な経験でしたね。できあがったものは芸術祭(現在の日芸祭)で売りました。学生時代の友人とは、今も付き合いがあります。

児童書業界は門が狭く、新卒採用では全敗したのですが、白水社で編集雑務の経験を積み、中途採用でプロンズ新社に入社しました。現在はフリーの子どもの本の編集者として活動しています。私は子どもの本の世界から本当にいろんなものを与えてもらったので、今度は子どもの本を世に送り出す側の一員として、児童書業界が豊かな場所であり続けられるよう、力を尽くしていけたらと思っています。

1978 年生まれ。大学卒業後、語学書などを手がける白水社での編集アシスタントを経て、2004 年にプロンズ新社に入社。子どもの本の編集者として、『だるまさんが』(かがくいひろし・作、プロンズ新社)をはじめ数多くのヒット作の編集を担当する。2019 年より、フリーの子どもの本の編集者に。麦田あつこのペンネームで文章の仕事も手がける。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「編集者になったものの、企画が通らず悩む日々。ボツ企画をファイルにいっぱいためていました」

Literary Arts

大学時代に楽しんだ「回り道」の経験が 現在の仕事につながっている

額賀澤さん (作家)

2013 年卒



額賀澤さんの仕事から／
右から『タスキメシ』(小学館)、
テレビドラマ化もされた「転職
の魔王様」シリーズ(PHP 研
究所)、「風に恋う」(文藝春秋)、
「ラベンダーとソプラノ」(岩崎
書店)

文芸学科の存在を知ったのは高校1年生のときです。10歳の頃から趣味で小説を書いていて、創作をちゃんと学んでみたいと考えていたので、自然と日藝をめざすようになりました。

学生時代を振り返ってみると、ひたすら小説を書いては新人賞に応募していた思い出ばかりですね。高校までと違って、小説を書いている人が周囲にたくさんいるのが当たり前の環境だったので、親しい友人と小説を見せ合って合評したり、1冊の本についてとことん意見をぶつけ合ったり、そういう時間がとても楽しかったです。

印象に残っている授業はたくさんありますが、作家になった今でも活かしていると思うのが、連句の授業でしょうか。先生と学生達で、「五・七・五」の長句と「七・七」の短句を交互に連ねていく授業だったのですが、「限られた文字数の中でいかに情景を見せるか」「風景描写だけでなく、五感を活用した描写をいかにやるか」ということに苦心した記憶があります。作家デビュー後の私の文章を、担当編集者がよく「情景がよく見える」とか「色彩豊か」などと言ってくさるのですが、当時の連句の授業が役立っているのだらうなと思います。

すぐには役に立たなそうな経験が、ふとした瞬間に意外な形で活きるのが創作の面白いところです。大学の側のパン屋さんでアルバイトしていたこととか、他学科の授業に潜り込んで聴講したこととか。大

学4年のときにゼミの先生に「就職活動しなさい。会社員経験が君の書くものの説得力になるから」と助言され、嫌々ながら就職活動をしたのですが、作家になった今、やはりやってよかったと思います。小説で描く会社員や企業や労働というものに説得力が出たなと思いますし、お仕事小説が自分の得意分野にもなりました。

日藝は「社会と直結する学び」と「すぐには役に立たなそうな経験」の両方がたくさんある場所だと思います。「無駄になるかもしれないことなんてしたくない」と思ってしまう自分にブレーキをかけて、大学の中にある〈余白〉や〈ゆとり〉や〈回り道〉といったものを、ぜひ楽しんでください。

1990 年生まれ。大学卒業後、広告代理店に勤務。2015 年に『屋上のウインドノーツ』で第22 回松本清張賞を、『ヒトリコ』で第16 回小学館文庫小説賞を受賞しデビュー。2016 年、『タスキメシ』が第62 回青少年読書感想文全国コンクール高等学校部門課題図書に。2023 年7 月に「転職の魔王様」シリーズがフジテレビ系列「月10」枠でテレビドラマ化。その他に「風に恋う」「競歩王」「ラベンダーとソプラノ」「夜と跳ぶ」「願わくば海の底で」など。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「駅伝を題材にした『タスキメシ』のヒットのおかげで依頼が増え、会社を辞めて専業作家になりました」

類まれな技術や才能がなくても 芸術を介して誰かを輝かせることはできる

亀澤彩季さん

(株式会社東急文化村 広報室)

2018 年卒 (企画制作コース)

習い事で始めた合唱やダンスの経験から、舞台芸術への関心が高まる一方、秀でた才能があるわけではない私は「舞台に立つことを生業にはできない」という気持ちも抱えていました。高校時代、所属したダンス部の公演を作る中で、踊った人も見た人も楽しませる、という「作る側」の意識が芽生えたことをきっかけに、より専門的に芸術を学びたいと日藝を目指すようになりました。「表現者でなくとも芸術に関わることができる」という希望が将来の夢に繋がり、今も「芸術を介して誰かを輝かせることができるかもしれない」という思いを大切にしています。

演劇学科企画制作コースに入学し、総合実習では洋舞公演の制作を選択しました。十分な設備と手厚い先生方が揃う環境で、コースを越え、時には学科を越え人と出会い、みなで作る経験ができる日藝ならではの授業です。企画制作に特化した実習では、国内のアートフェスティバルを調べたり、劇場に足を運ぶきっかけ作りを企画したり、演劇は舞台上のものだけではないと学び得たことも印象に残っています。視覚障害の方にご協力いただきワークショップを実施した際は、演劇的なアプローチが日常生活における課題解決の一手になるかもしれない、演劇は人々の暮らしに寄り添うことができると感じた貴重な授業でした。

大学受験の時から芸術に関わる仕事を希望しながらも専門性の高い業界であるため、就職活動は学科の教授や助手さん、教務課にたくさん



亀澤彩季さんの仕事から／
インタビューの収録へ。主催公演の出演者へ企画の告知の他、文化・芸術に魅了されたエピソードなども伺います。取材中は熱の入った言葉に心が動かされると同時に、人を熱くする文化・芸術をより多くの方に届けるために邁進せねばならないと初心にかえる時間でもあります。

フォローをいただきました。舞台制作のインターンなどの経験も経て、株式会社東急文化村に入社。現在は広報室に所属し、暮らしをよりよくする文化・芸術を、さらに多くの方に届けるための接点作りについて日々考えています。

類まれな技術や才能がないことは関係なく、芸術を学びたいという希望こそ十分な志望動機です。受験の準備をしながら、触れた本や映画、舞台などで心が満ちた時、それらを作る人になりたいか、少しでも将来に思い馳せてみたら、また新たな感情や湧き起こるエネルギーに気づくかもしれません！

1995 年生まれ。2018 年日本大学藝術学部演劇学科企画制作コースを卒業後、株式会社東急文化村に入社。Bunkamura 全般の広報業務に携わる。



Q. 卒業から 5 年後、何をしていましたか？

「お客様に Bunkamura の思い出や感想を伺う TV 取材がありました。いただいた言葉や輝いた表情が今の活力です」

演劇漬けの毎日で知った喜び 「届ける」ことに向き合い続けたい

赤松真治さん (俳優・ナレーター)

2019 年卒 (演出コース)

入学を決めた事に、大きな理由はありませんでした。高校三年の時に一番興味があったのが演劇だったから。附属校だったから。でもそこから始まった演劇漬けの毎日がきっかけで、僕は『人に作品が届く』という大きな体験をしました。

大学時代、事故で記憶喪失になった友人がいました。「彼に届く作品が作りたい」という気持ちで本人から話を聞き、カンパニーメンバーを集め、半年間の創作企画を立ち上げました。それが大学 4 年の夏、学生最後の演劇活動でした。創作初期には大学内外でワークショップを開催したり、全員で『記憶』について話し合い、演劇を利用して記憶を思い出す作業を行ったりする期間を経て、台本を使った創作に移って行きました。そうして完成させた作品とともに、賞レースに参加しましたが、全員で重ねた時間とは裏腹に賞を獲ることはできませんでした。極端にも僕は「認められなかった、誰にも届かなかったのだ」と落ち込み、彼に感想を聞く事もせず、そのまま卒業とともに演劇から離れていきました。

記憶が薄まらないまま、卒業から 2 年。記憶喪失の友人と、劇場で会った以来に再会しました。僕がおそろおそろ芝居の話題に触れると、彼は自らははっきり「届いてた」と言いました。「あの演劇があったから今がある」と。あの時は記憶が戻りきらず就職活動が滞り塞ぎ込んでいた時期だった、でも舞台を見て行動しようと思い、翌日教授に相談し、その時紹介して貰った職場で現在働いている、と教えてくれました。「最後に劇場が暗くなった時、本当に肩の力が抜けて、ようやく生きていこうと思った。だから外に出たん



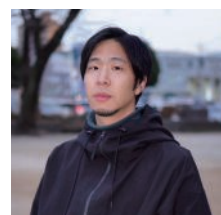
赤松真治さんの仕事から／
演劇企画集団 THE・ガジラ年間ワークショップ「紙風船」舞台写真
ナレーターになってから 3 年後、俳優を始めました。一度演劇から離れたましたが、今の自分を少しでも先に進めるためには演劇が必要だと考え、俳優として演劇界に戻りました。もちろん本文での出来事も大きく関係しています。

だ」。2 年越しに、僕は届いていたことを知りました。認められる事以上に「届いてたかどうか」が大事だったと知りました。「届く」ことが喜びだと知りました。居酒屋で泣きました。

届けられたのは自分一人の力ではないと心から思います。熱を持って作品と向き合い続ける仲間、カンパニー外から支えてくれた人たち、数えきれない皆がいたからこそこの体験に繋がりました。

現在ナレーターとして活動している中でも、あの時思ったことは変わらず自分の一番上にあります。今も『どうやってあなたに届くか』を考えながらお仕事をしています。悔しい思いも、何かが実る体験も、きっと向き合い行動した先にだけ待っています。一人で進めないなら誰かと。僕にとって演劇学科はその「誰か」に沢山出会えた場所でした。僕も本当にまだまだ途中です。今後も心を耕し続け、「届ける」ことに向き合い続けたいと思っています。自分を信じて、一緒に頑張りたいです。

1996 年生まれ。茨城県出身。学生時代は脚本 / 演出 / 演出部などを中心に活動。2019 年に出演舞台にてスカウトを受け大沢事務所へ所属。以後 TVCM やドキュメンタリー番組等を中心にナレーターとして活動。現在は俳優業、舞台のプロデュース業、演劇 WS のファシリテーターも行う。



Q. 卒業から 5 年後、何をしていましたか？

「まだ挑戦と勉強を繰り返しています。迷った時は心への刺激が強い方へと言い聞かせてます」

人の心を掴むコンテンツを追い求めて。 現在の仕事に生きる4年間の経験と信念

諸星和義さん

(株式会社テレビ埼玉 編成局編成部長)

2006年卒(テレビ制作専攻)

「これが風評被害か」。中学校卒業間近の1999年、埼玉県所沢市で農業を営んでいた実家の野菜が、突如巻き起こった不買運動により市場に出せなくなり、我が家の生活に暗雲が立ち込めました。ニュース番組が「所沢の野菜には高濃度のダイオキシンが含まれている」と報じたことがきっかけでした。これは「所沢ダイオキシン報道」として、大きな騒動になりました。不安な気持ちとは裏腹に、テレビの仕事に関心を持ったのはその時でした。大きな影響を及ぼすテレビだからこそ、自分は「テレビを通じて人を笑顔にしたい」と感じました。メディアで働くためには放送を学ぶのが近道ではないかと考え、日藝を目指しました。

日藝は個性派が多いという先入観から「アフロにでもしたほうがいいのか？」と謎の心配をしていましたが、杞憂でした。ぶっとんだ発想の人、行動力がある人、知識がある人…、普通に見えて個性に溢れた仲間ができました。授業で、サークルで、ゼミで、幾度となく仲間達のアイデアや才能に嫉妬しました。創造力で嫉妬したのは大学が初めてです。放送学科にはプロ用の機材やスタジオを使って本格的な実習ができる環境があります。一流のハードに、個性豊かな仲間というソフトが組み合わさったことで、日藝でしか得られない刺激を受けることができたと思います。ちなみに、授業の一環でテレビスタジオを使ったコント番組を企画・制作したことがあります。完成したVTRを後から観ると、顔から火が出る



諸星和義さんの仕事から／
特番「大晦日職人歌合戦」の収録場面。NHK紅白歌合戦の裏番組で一般人が歌っていたら面白いかも!と、ふざけた気持ちで企画した番組。「埼玉政財界人チャリティ歌謡祭」と並ぶ「埼玉の奇祭」としてSNSでも話題に。自由度高く、攻めた番組をつくれるのがローカル局の楽しみです。

ほどスベっている。失敗の経験を得られたことも、今では財産だったと感じます。

卒業論文は「ローカル番組の可能性」をテーマに書きました。視聴者との距離が近いコンテンツが人の心を掴む、というような内容でした。地方局に就職して20年ほど経った今も、学生時代に考えた説を信じて仕事をしています。CM案を考える時、取材の時、大学での学びや経験がふと活することがあり、日藝に入ってよかったと感じています。日藝に入って何をやるかは自分次第ですが、刺激的な仲間と共に、あれこれと挑戦するには良い場所ではないでしょうか。日藝出身の才能が、多くの人を笑顔にするコンテンツを生み出してくれるのを楽しみにしています。

1983年生まれ。埼玉県出身。2006年株式会社テレビ埼玉に入社。報道制作局報道部に配属され、記者として事件・事故や市政を担当。その後、営業部門で広告セールスを担当し、多くの自治体プロモーション事業や企業CMを手がける。現在は編成局編成部で、放送枠管理全般、広報、イベント事業のほか、バラエティ番組「いろはに千鳥」編成担当、「天竺鼠の川原の」プロデューサーを務める。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「東日本大震災の報道取材をしていました。(正しい情報を伝えて命を守る)という放送の使命を痛感しました」

Broadcasting

カメラの前に立つ私を支えてくれる 楽しみながら学んだ日藝での日々

田辺真南葉さん

(福井テレビジョン放送株式会社 アナウンサー)

2023年卒(テレビ制作専攻)

日藝を目指すようになったのは、高校生の頃、芸能活動をしていた際に演技の経験や勉強のため、放送学科の授業内で制作したドラマの撮影に参加したのがきっかけです。それまでは大学という座学がメインになる日々をイメージしていたので、自身の足で動き、経験を深めることが好きだった私は、進学先に悩んでいました。そんな中で出会った放送学科は、専門的な放送のいろはを実践的に学ぶことができる学科。まさに私が求めている進路先だと思いました。

入学後のアナウンスの授業では、基礎の発声練習から実践的なリポートまでを学びました。一番印象に残っているのは、アナウンス実習の授業でクラスの皆で作り上げた朗読です。それぞれの役割分担をこなし、意見を出し合いながら練習に励んだ日々は、自分にとってとても大切な経験となりました。

また、本格的なスタジオ設備やカメラ機材が備わっている環境で、カメラ前での度胸もつきました。父がスチールカメラマンであったことから、幼い頃からカメラを向けられることには抵抗はありませんでしたが、実際にスタジオカメラやENGの前に立つと今でも緊張してしまいます。しかし学生時代からその環境に慣れていたおかげで、今も抵抗感なく話すことができます。

現在は、夕方ローカル枠のニュースキャスターや自社制作番組のリポーター、イベントや式典の司会などを担当。



田辺真南葉さんの仕事から／
マイクを持つ仕事です。春は桜スポットから中継、夏は浴衣でイベント司会、秋は旬の味覚の食リポ、冬は雪にまつわる取材など。この仕事は四季折々の景色を最前線で見ることができるとしています。

ター、イベントや式典の司会などを担当しています。また、緊急の災害時や選挙時などの変則的な勤務もありますが、この職業でないと経験することができない貴重な経験ばかりです。

今後は、「言葉」を仕事にする者として、もっと自身の中身を深めたいと思っています。広い分野で様々なことを学び成長していきたいです。

この文章を読んでくださっていることは、もう日藝に出会えているということですね。そんなあなたが羨ましいです!日藝は「個性の塊」というイメージがあると思いますが、本当にその通りだと思います。個性豊かで、愉快で、好きなことに一直線な人が多いです。そんな環境に身を置き、自分の個性はなんだろうと振り返るきっかけにもなりました。日藝で楽しく学べた経験は私の大きな財産です。これを読んでいるあなたにとってもそう思ってもらえる学び場となれば嬉しいです。

2000年生まれ。東京都出身。大学在学時は、サンミュージックプロダクションに所属しアイドル活動をしながら学業と両立。2022年にはBSフジの学生キャスターとして番組に出演。大学卒業後、2023年に福井テレビジョン放送株式会社に入社。アナウンサーとして、夕方ローカル枠のニュースキャスターや自社制作番組のリポーター、イベントや式典の司会などを担当。



Q. 卒業から2年経ったいま、どんなことをされていますか？

「地域のイベントの司会進行などの仕事もしています。県民の視聴者の声を直接聞くことができるのは、とても価値のあることだと感じます」

**まだ「ないモノ」を創り出す。
だからデザインは、難しくて楽しい**

藤ヶ谷友輔さん

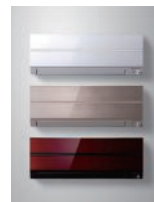
(三菱電機株式会社 統合デザイン研究所)

2011 年卒 (インダストリアルデザインコース)

子どもの頃からモノづくりは好きでしたが、大学で学びたいことが見つからないまま高校3年生を迎えました。そんなときに芸術学部デザイン学科ではモノづくりを「勉強」として学べることを知り、ここしかない!と、進学をすぐに決意しました。そこで大学見学に行ったのですが、在学生作品のクオリティが高く諦めかけました。しかし、美術予備校に急いで入学し必死で勉強して、なんとか合格できました。

日藝を志したのが同級生に比べて遅かったこともあり出遅れていたもので、授業はもちろんのこと、同級生や先輩に制作のコツを教わったり、夏休み中も自身に課題を課したり、われながらよく勉強した4年間でした。なかでも印象に残っているのは、遊具をデザインする授業です。子どものためのデザインを経験することで、デザインするその先には自分ではない誰かがいると実感できました。また、皆でアイデアを出し合い議論するうちに、想定していたものと大きく異なる作品になったのも新鮮でした。日藝で過ごした時間は、憧れの先輩やモチベーションの高い仲間と刺激し合い、高め合える素晴らしいものでした。

デザインを通して生活を便利に、楽しくしたり、より良い社会にしていきたいと考えていたので、家電製品のプロダクトデザインやソリューションデザインは自分にピッタリのフィールドです。構造やユーザビリティ、安全性の確保にコストなど制約の多い仕事ですが、難しいから



藤ヶ谷友輔さんの仕事から／
左：海外向け片吹きジェットタ
オル「ジェットタオルスマート」
右：日本国内向けエアコン「霧ヶ
峰 S シリーズ」

こそ面白く、課題の解決方法を見つけたときの喜びは大きいです。日藝で身につけたデザインの考え方は、広く応用が利くものだと実感しています。ひとつの正解に満足せずさらに突き詰めて考えると、革新的な解決案が見つかることもあります。日藝時代に徹底的に考え抜く姿勢を学んだことは、今後も私の強みであり続けると思います。

この仕事を始めて10年以上経ちますが、つまらないと思ったことはありません。これからもずっとモノづくりを続けていきたいし、このメチャクチャ楽しい仕事を、昔の自分のようにまだ気が付いていない人がいるのであれば知ってもらいたい。そのためにもっと世の中に広めたい、広められる存在になりたい。それが今後の目標です。

1989 年生まれ。大学卒業後、三菱電機株式会社
統合デザイン研究所勤務。家電製品のプロダクトデ
ザインや公共向けのソリューションデザインを担当。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「海外向け製品をデザインする機会が増え、様々な国で調査・プレゼンしていました」

Design

**学科に掟われない自由な環境で
デザインも、物語創作も追求**

安田翔哉さん

(株式会社博報堂 CMプランナー・コピーライター、
漫画家、イラストレーター、脚本家)

2020 年卒 (グラフィックデザイン専攻)

小さい頃から絵を描くことが好きで、同じくらいに物語を空想・妄想する事が大好きでした。そんな小学生時代、家に帰ると再放送のドラマをふと目にしました。

「なんだ、この面白い物語は!」と、物心ついたばかりの僕の心に刺さったドラマの最後には「脚本：三谷幸喜」とのクレジットが。それを機に、今まで子供向け漫画かアニメしか知らなかった僕は、三谷さんを追いかけて数々のドラマや映画にのめり込んでいくのです。これが日藝を志望する伏線だった事は本人もまだ知りません。

高校はデザイン系の専門校。同級生は、武蔵美や多摩美を志望していました。そこで手を動かすのも良いけど、物語を作り出すことを諦めきれなかった僕は進路に迷い、その時に思い出したのが日藝でした。三谷さんを追っていると、卒業大学である「日藝」という単語を何度も目にしており、詳しく調べてみると、そこにはデザインを学べる環境も、物語をアウトプットできる環境もあり、しかも同志がいる。僕の大学受験は日藝一択に絞って行いました。

入学してからは、デザインの基礎を丁寧に教えてくれ、そして「締め切りを守る」という事も学びました。大人からすれば至極真っ当なことがかもしれませんが、何も知らない10代の学生の身になるまで教えてくれ、今でも大きく役立っています。そして僕が大好きなのは、自由な校風。



安田翔哉さんの仕事から／
広告会社で培った企画力や言葉
の力で、漫画を描きました。
小学館全体の漫画賞で大賞を
受賞し、雑誌にも掲載いただき
ました。今はこの漫画をベース
にした連載漫画を企画・製作中
です。

デザイン学科なのに映像作品を撮ったり、小説を書く人もいました。学科の特性に掟われず、自分のアウトプットしたい物を好きに表現でき、周りにはそのプロがいて、いつでも話を聞くことができる。これは他の大学にはない、日藝ならではの強みだと思います。

将来やりたい事が決まってい、専門的に学びたいという人にも日藝はオススメなのですが、まだやりたい事が決まっていない、もしくは好きな事・やりたい事が多くて困っているという、僕が高校時代に陥った悩みを持った人にもオススメです。どんな夢を持った人にも間口を広く開けてくれ、どんな夢もバックアップしてくれる環境がある。今の僕が好きなことを仕事にできているのは、日藝で学んだ事や、出会った友達、先生たちのおかげです。

1997 年生まれ。東京都出身。大学卒業後、2020
年博報堂入社。
CMプランナー・コピーライターとして勤務する傍ら、
漫画を執筆。小学館「ビッグコミック」、青林工藝舎「ア
ックス(元ガロ)」、講談社「コミック DAYS」など、複
数の出版社にて漫画を掲載・連載。他にもテレビ番
組のイラスト制作、ラジオ番組でのドラマ執筆を行う。



Q. 卒業から5年、いまどんなことをされていますか？

「作った漫画やCMが色んな人に届き、反響を頂くと嬉しいと同時に自分の脳内を覗かれたようで恥ずかしいです」



片渕須直さん

アニメーション映画監督 / Director

1983年卒 映画学科 映像コース

アニメーションが動くのは“魔法”ではない・原理を理解する

2歳のときに見た『わんぱく王子の大蛇退治』という作品を起点に、幼いころに東映動画（現・東映アニメーション）の長編アニメーションをかなりの数見ていました。高校3年生になると『わんぱく王子〜』のアニメーターだった大塚康生さんが作る“動き”に憧れて、自分でも何かを動かしてみたいという気持ちが高まっていました。

進学先として日藝の映画学科映像コースを選んだのは、映画そのものの体系をきちんと理解しながらアニメーションを学びたいと思ったからです。さらにそこは、高畑勲さんと同期で東映動画に入社して活躍された池田宏さんが教えておられた。大塚さんと組んで『わんぱく王子〜』で作画を担当されていた月岡貞夫さんも、私が入学した年から教壇に立たれるようになり、このお二人からアニメーションを学ぶことになりました。

池田先生はよく、「ここまでは教えるから、あとは自分で考えて」とおっしゃいました。ヒントは与えられるけれど、最終的には学生自身が自分で考えて答えを得ることを期待がされる。自分で見つけ出した答えは、一生のものになります。

自分が教壇に立つようになって考えたのは、映画学科でアニメーションを学ぶというのは、美術学科やデザイン学科とは根本的に違うのかもしれない、ということでした。まず、絵を描くところから始めない。なぜ映像は動いて見えるのか、という原理の理解から始め、それをアニメーションの動きの様々な場面に

応用して、もしも絵を描けなくても動きが作れる人になってもらいたい。

池田先生から影響を受けたひとつが、人間の認知の不思議さでした。人間の視野は左右に180度くらいありますが、その中で「色」を認識できる視細胞があるのは実は6度くらい。あとの景色は脳の中で着色してフルカラーにしているんです。映像は一般的に、1秒間に24コマとか30コマの静止画から出来ているのですが、それがなぜかなめらかに動いているように認知される。これも脳の中の働きです。でも、日本のアニメーションは1秒間に8枚の画でも動きを作ることが出来ている。それはなぜなんだろう。1秒間24枚の画でできている映像と、1秒間8枚のものは同じなのか、それとも違うのか。実際、1秒24枚の海外作品の動きには「ぬるぬる」した違和感があって、普段見ている日本のアニメーションの動きとは違う感じがする、という人が多いです。なぜ違って見えるのか。これらは、それぞれ別々の原理によって動いて見えているのだと考えています。特性も違います。その違いを使いこなせるようになってほしい。

こうしたことは日藝映画学科ならではの、と思います。

本物の作り手たちの横で 気づけば即戦力に

大学3年次には、宮崎駿監督の『名探偵ホームズ』で脚本家募集があると池田先生に教えてもらい、それをきっかけに在学中から制作会社のテレコム・アニメーションフィルムで宮崎さんや高畑勲さん、大塚康生さんと働く機会を得ました。カメラワークを指定する仕事を任されたときにも、経験はないのにやり方がわかっていました。それは、平面の絵で出来ているアニメーションの画面の中に、撮影機材の使い方ひとつで立体的な空間を画面にもたらし方法を、学生の間に自分で考えていたからでした。気づいたら即戦力みたいになっていました。

実写の映像も、アニメーションも、そこに映し出そうとしているものは何なのか、やはり作り手である自分自身が理解することが大事です。調べる。ひよっとしたら、他の人が知らない秘密にまでたどり着けるかもしれない。私は、自分が体験したわけではない戦時中の時代を描いた『この世界の片隅に』を作るときに、その時代の肌触りが自分の中に得られるまで、いろいろなことを知ろうとしました。出来上がった作品は、戦時中を実際に体験した人たちから「あの時代の空気に一番近い」といっていただけました。今、映像表現理論コース全体で、そうした「調べる」というアプローチを大事にしています。

2026年4月からは映画学科にアニメーション専攻が創設されます。ぜひ一緒にアニメーションを作ったり、研究してくれる方をお待ちしています。

【プロフィール】

1960年生まれ。映画学科卒業。在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』（89）演出補。監督作として、TVシリーズ『名犬ラッシー』（96）。TVシリーズ『BLACK LAGOON』（06）では監督・シリーズ構成・脚本。長編映画、『アリテ姫』（01）。山口県防府市に暮らす少女・新子の物語を描いた『マイマイ新子と千年の魔法』（09）は異例のロングラン上映とアンコール上映を達成。さらに2016年、広島・呉を舞台にした長編映画『この世界の片隅に』が公開されると、幅広い世代からの支持が大きな反響を呼び、日本アカデミー賞〈最優秀アニメーション作品賞〉、アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門〈審査員賞〉を受賞するなど、国内外にて高い評価を得て数々の映画作品賞・監督賞を獲得。2019年12月には新しいシーンを追加して別の観点からの作品とした『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』を公開。現在、『枕草子』をベースに疫病の中に生きる千年前の人々を描く新作『つるばみ色のなご子たち』を制作中。2006年から日本大学芸術学部非常勤講師。2018年からは同大学特任教授。2013年からは東京藝術大学大学院でも非常勤講師を務める。



© 2019 この世の史代・コミックス / 『この世界の片隅に』製作委員会



写真：末長真 / Photo by Makoto Suenaga

Vaundyさん

マルチアーティスト
2023年卒 デザイン学科
グラフィックデザイン分野専攻

日藝を選んだ

きっかけはありますか。

やりたいことってものづくり以外になかった
ので、高校生の頃にはもう芸術系の大学に行
くだろうなって決めていました。音楽の学校
もいろいろと見たんですけど、あまりそそれ
なくて。自分が中学生、高校生の時にやって
いたようなことをただ勉強するのしょうが
ない。だったら音楽以外の仕事にも就けるよ
うにしたいなと思って日藝のデザイン学科を
選びました。デザイン学科を受験するまでが
日藝に入って一番良かったところだと僕は
思っていて。ものづくりとは何かということが、
受験に全部詰まっていたんですね。

仕事と学業の両立で大変だと

感じたことはありますか。

あるんだろうけど、忘れちゃいました(笑)。
1年ごとに記憶がリセットされてしまうので。
両立で苦しいと思ったことはないです。元々
は25歳くらいから音楽の仕事が入って来れば
いいなと思っていたのですが、ありがたいこと
に大学1年生の頃からいただいていたので、む
しろ授業は仕事を休むための理由にしていま
した。「その日授業があるので……」と言って
(笑)。

最初にものづくりが楽しいと

思ったのはいつですか。

母の話によると、幼少期にはみんなに頼まれ
てものを作っていたみたいです。ものを作る
以外に遊びがなかったので、段ボールででき
た、中身を変えると違うゲームにできるDSを
作っていました。何か足りないものがあれば
自分で作るということをやっているうちに、好
きだけじゃなくて、生きる義務というか、生
物ってものづくりしなきゃいけないんだって
強く思うようになりましたね。その中でも人間
は知恵をものづくりの中に入れるという能力
があるから、それをやらなきゃ人間じゃないな
と思って。だから当たり前のようにものづくり
をしています。逆にやっていないと落ち着かな
いんですね。それをやるための口実として仕
事をしています。

最後にメッセージをお願いします！

大学在学中にできることって大人になったら
もうできないので、最後のチャンスだと思って
自分に投資をしてください。自分に有り得る
もの全てを自分のやることに注がないと、仕
事には絶対にできません。自分が思うよう
な仕事をするには、学生の間にどれぐらい全

力で自分に投資できるかということが大事だ
と思います。お金を稼ぐことも大事ですが、た
だ稼ぐだけではなく、何か目的を持ってちゃん
とお金を稼いで、またそのために使うみたい
な。何か自分のために時間を使わないとこの
学校にいる意味はないということです。学生
のうちにどれぐらい失敗作を作るかで大人に
なってからのが決まるから、学生の間にい
らないものをいっぱい作りましょう。

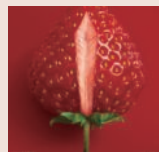


【プロフィール】

マルチアーティスト24歳。作詞、作曲、アレンジを全て自分でこなし、デザインや映像のディレクション、セルフプロデュースも手掛ける。2019年春頃からYouTubeに楽曲を投稿開始。「東京フラッシュ」「不可幸力」など、耳に残るメロディーを持つ、幅広いジャンルの楽曲を発表すると、瞬く間にSNSで話題に。サブスク令和時代の象徴的な存在として注目を集めており、16曲が1億回再生を突破、日本男性ソロアーティスト1位の記録を打ち出している。2025年春現在、YouTube・サブスクリプションのトータル再生数は、90億回以上を突破。リリース配信楽曲は長期にわたりチャートイン。CM、ドラマ、アニメなど各方面で、タイアップ曲に多数起用されている。開催したライブは全て即日完売。自身初となるアリーナ公演 日本武道館 2days 公演は26,000人を動員。2024年秋より全国10都市20公演を巡る自身最大規模のアリーナツアーでは合計280,000人を動員。また、自身最大規模となるさいたまスーパーアリーナ公演では、会場史上最多となる2日間で76,000人を動員した。2025年は13都市28公演の全国ホールツアーの開催が決定している。2022年12月31日、第73回NHK 紅白歌合戦に初出演。2023年11月、「strobo」より約3年半ぶりとなる全35曲入りの2ndアルバム「replica」をリリース。2024年は『映画ドラえもん のび太の地球交響楽』主題歌の「タイムパラドックス」やドラマ『ライオンの隠れ家』の主題歌「風神」をリリースし話題に。また、2024年の大晦日には自身2度目となる第75回NHK紅白歌合戦に出演。2025年にはテレビアニメ『SAKAMOTO DAYS』のオープニングテーマ「走れSAKAMOTO」をリリース。

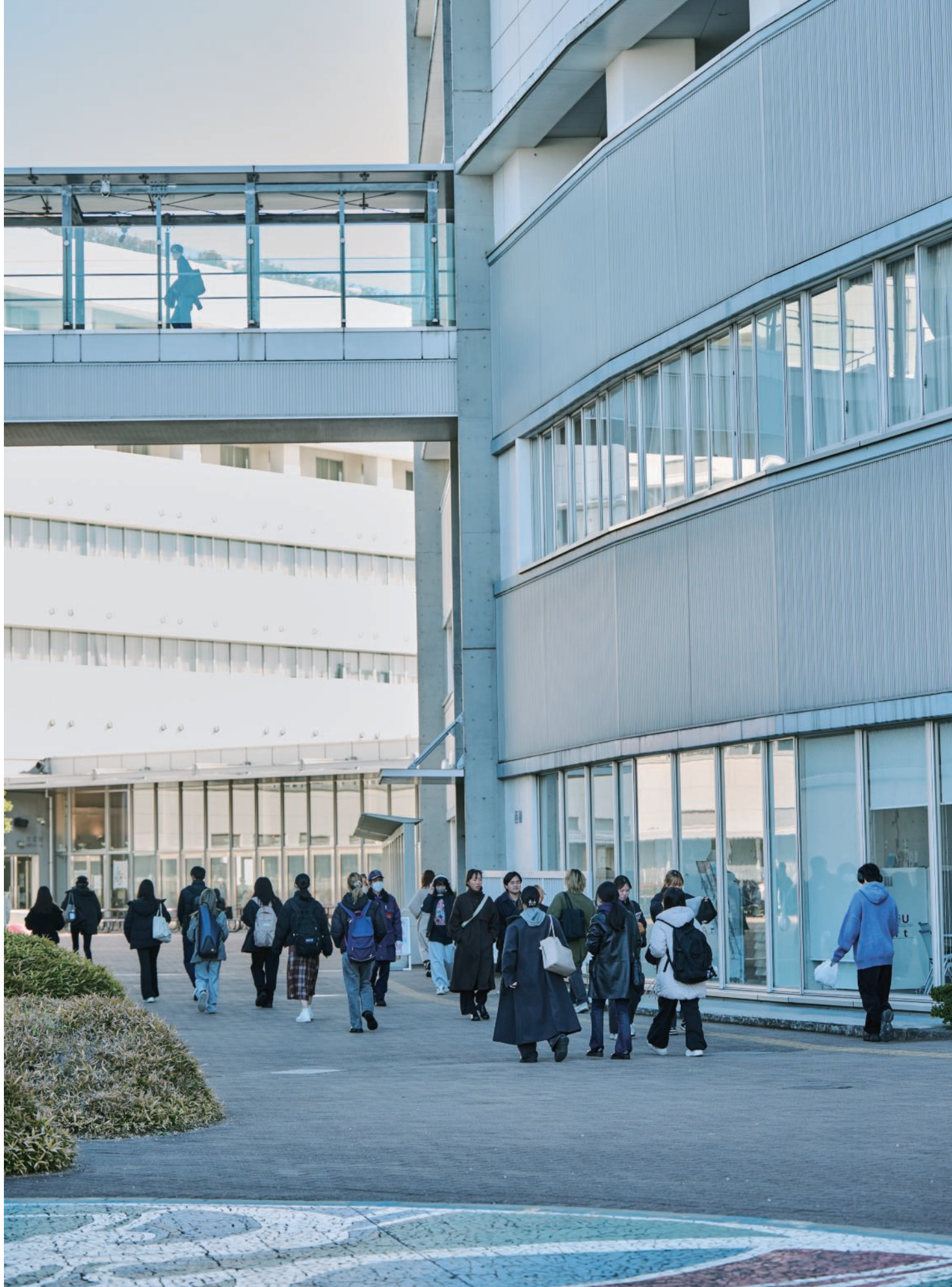
【主な作品】

- CDシングル 『タイムパラドックス』(2024)、『風神』(2024)
- 配信限定シングル 『東京フラッシュ』(2019)、『不可幸力』(2020)、『怪獣の花唄』(2020)、『踊り子』(2021)、『裸の勇者』(2022)、『そんなbitterな話』(2023)、『タイムパラドックス』(2024)ほか多数
- フルアルバム 1st『strobo』(2020)、2nd『replica』(2023)
- 楽曲提供・プロデュースなど 『おもかげ』(milet×Aimer×幾田りら)(2021)、『惑う糸』(菅田将暉)(2022 ミュージックビデオの監督も務める)、『逆光(ウタ from ONE PIECE FILM RED)』(Ado)(2022)、『くびったけ』(yama)(2022)、『いばら』(Ado)(2023)



「strobo」(2020)
「踊り子」(2021)
「裸の勇者」(2022)





日本大学芸術学部 2026

発行：日本大学芸術学部

〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

TEL.03-5995-8200

発行日：2025 年 5 月 14 日

アートディレクション・デザイン：中村至男（美術学科卒）

デザイン：山下ともこ（美術学科卒）

撮影：岡本充男（文芸学科卒）

齊藤幸子（写真学科卒 p.10）

キャンパスフォト研究会：小田切優人（写真学科）

田中くるみ（写真学科）

寺本 晶（写真学科）

編集進行・校閲・印刷：株式会社アローコーポレーション 佐藤舞（文芸学科卒）

※取材・執筆、一部 2024 年度版を更新しています。

※本冊子に掲載している学生の学年表記は、
2025 年 3 月時点のものです。





Nippon University
College of Art
Art

就職支援

学生の希望進路に応じた個別面談や就職指導講座の開講、就職支援ページによる各種情報提供など、一人ひとりを丁寧にサポートするきめ細やかな就職支援を目指しています。

専門性に磨きをかけると同時に学科を越えて広く芸術領域を学んできた学生の進路は多岐にわたり、企業に就職する人や、カメラマンや画家、音楽家、俳優、デザイナーなどとしてフリーランスで活躍する人もいるのが本学部の大きな特徴です。

主な就職サポート

1 個別面談

進路に関する相談や、エントリーシートなどの書類添削、模擬面接など、学生の希望に応じて対応しています。



3 就職支援ページ

学ポータルサイト内の就職支援ページでは、大学に届いた企業からの求人情報や、就職指導講座、インターンシップ、学内企業セミナー、個別相談会など幅広い就職情報を発信しています。

芸術学部合同企業セミナー

マスコミやエンターテインメントなど多くの芸術学部生が志望する企業を芸術学部招いて、毎年2月頃に開催しています。卒業生が活躍している企業も多く参加しています。



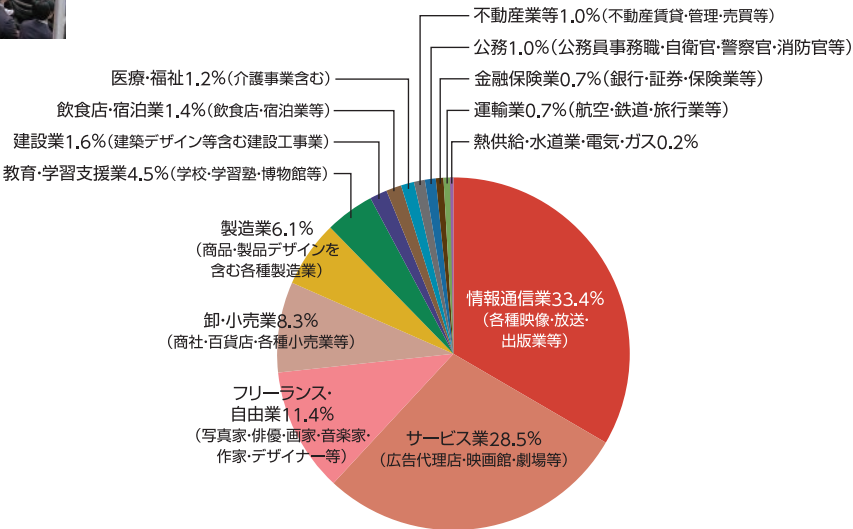
2 就職指導講座

就職活動を進める上で必要な知識やノウハウを習得するための課外講座を順を追って開講しています。1年生を主な対象として、卒業後の進路を考える方法を解説する「キャリアガイダンス」や、主に2年生向けに様々な業界を広く紹介する「業界研究講座」の他、インターンシップや就職活動に備えて概要や対策を解説する主に3年生を対象とした「就職指導講座」の、3段階に分けて講座を設けています。

主な就職指導講座名

就職情報サイト合同説明会
就職活動スタートアップ講座
インターンシップ講座
教員採用試験対策講座
筆記試験対策講座
ポートフォリオの作り方／添削講座
マスコミ業界対策講座
自己分析方法講座
履歴書／エントリーシート書き方講座
面接／グループディスカッション基礎講座
マナー・身だしなみ講座
面接／グループディスカッション実践講座
公務員・公益法人等紹介講座
生成AI活用就職活動講座

産業別就職状況(令和5年度就職者)



詳しくはWEBをご覧ください。
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/career/>

奨学金制度・授業料減免制度

奨学金は、学業生活を充実させるための経済的支援です。

向学心があるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な場合や学業成績優秀者に奨学金を給付・貸与しています。

日本大学の奨学金制度や芸術学部独自の奨学金制度、また、学外の日本学生支援機構や地方公共団体・民間育英団体の奨学金制度も活用することができます。

なお、高等教育の修学支援新制度に採用となった場合、各奨学金制度との併給ができない可能性があります。

日本大学の奨学金制度

■ 日本大学創立130周年記念奨学金(第2種)

成績・人物ともに優良な資質を持っているにもかかわらず、経済的理由により学費等の支弁が困難である在学生(外国人留学生を除く)に30万円を給付します。

■ ロバート・F・ケネディ奨学金(大学院生対象)

アメリカ合衆国元司法長官故ロバート・F・ケネディ氏の寄付によるもので、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

■ 古田奨学金(大学院生対象)

本大学の興隆発展に寄与された故古田重二良先生の功績を顕彰して、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

■ 日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金

私費外国人留学生を対象とした制度で、学業成績・人物が優秀で、かつ健康であり、特待生その他の本学の奨学金を受けていない学生に授業料相当額の半額を給付します。

■ 日本大学私費外国人留学生授業料減免制度

経済的理由により学費の支弁が困難である私費外国人留学生を対象として、授業料の一部(20%)減額を行い、その経済的負担を軽減することによって、学業が継続され、留学の実を上げることが目的とする制度です。

芸術学部の奨学金

■ 芸術学部奨学金

本学部が学生の有為な人材育成を目的に設置した奨学金です。

奨学金の種類	対象	給付額	人数
第1種	修学の意志があり、かつ優良な資質を持ちながらも経済的な事情で学業に専念できない学部生(外国人留学生を除く)	30万円を限度	15名程度
第2種	芸術・文化に関わる創作活動において、専攻分野に関連した国際的又は全国的規模のコンクール・発表等で高い評価を受けるなど、優秀な成績をあげたと認められる学部・大学院生	50万円を限度	若干名
第3種	学費支弁者が災害に罹災し、甚大な被害を受けた、もしくは不慮の理由で家計が急変し学費等の支弁が困難である学部・大学院生(外国人留学生を除く)	授業料を限度	――
第4種	本部又は学部が設ける留学制度、海外研修制度等により海外に渡航する学部・大学院生(外国人留学生を除く)	20万円を限度	――

日本大学芸術学部校友会奨学金

基礎的学習を終え、専門的実習に向かう2年生(若干名)を対象として、年額10万円を給付する奨学金です。学内外における個性的で創造豊かな活動を表彰することにより、学生生活の活性化を促進することを目的としています。

日本大学特待生制度

本学では学業成績優秀、品行方正な学生を学部で選考し、特待生としています。特待生には、次の奨学金を給付しています。選考された学生には、6月頃郵送及び掲示にて通知します。(2年生以上対象) ①甲種(授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円) ②乙種(授業料1年分相当額の半額)

資格取得

教職課程

教員免許状を取得するための課程です。基礎必修科目、教職に関する科目、教科専門科目があり、所定の単位数を取得することにより免許状を授与されます。(下表参照)

学 科	美術	音楽	文芸	デザイン
中学校一種	美術	音楽	国語	美術
高等学校一種	美術・工芸	音楽	国語	美術・工芸

一級建築士、二級建築士及び木造建築士受験資格

デザイン学科に在籍者は、所定の建築士試験指定科目を修得することにより、卒業時に一級及び二級・木造建築士試験の受験資格を得ることができます。

高等教育の修学支援新制度(授業料減免と給付型奨学金)

修学支援新制度は、しっかりとした進路への意識や進学意欲があれば家庭の経済状況に関わらず大学等に進学できるチャンスを確保できるよう、文部科学省が実施する「給付型奨学金の支給及び授業料・入学金の免除または減額」の制度です。

支援区分は世帯所得等により表の通り4段階になります。

● 第Ⅰ区分(住民税非課税世帯)

① 授業料等の減免	上限約70万円／年	
② 給付型奨学金	自宅通学	38,300円／月
	自宅外通学	75,800円／月

● 第Ⅱ区分

① 授業料等の減免	上限約47万円／年	
② 給付型奨学金	自宅通学	25,600円／月
	自宅外通学	50,600円／月

● 第Ⅲ区分

① 授業料等の減免	上限約23万円／年	
② 給付型奨学金	自宅通学	12,800円／月
	自宅外通学	25,300円／月

● 第Ⅳ区分(多子世帯)

① 授業料等の減免	上限約18万円／年	
② 給付型奨学金	自宅通学	9,600円／月
	自宅外通学	19,000円／月

※多子世帯支援:扶養する子の数が3人以上である世帯が対象

日本大学は高等修学支援制度の対象校です。
詳しくは、高等教育の修学支援新制度(文部科学省)のホームページをご確認ください。

<https://www.mext.go.jp/kyufu/student/daigaku.html>



日本学生支援機構奨学金(貸与)

返済する際、利子の付かない第一種奨学金と、利子の付く第二種奨学金があります。これらとあわせて入学時の一時金として貸与する入学時特別増額貸与奨学金(利子付)があります。採用には学力基準及び家計基準があります。
詳しくは日本学生支援機構のホームページをご確認ください。
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

地方公共団体・民間育英団体奨学金

募集の時期は3～5月が最も多く、募集があったものについては日芸奨学金サイトなどで告知します。ただし、地方公共団体奨学金は大学に奨学生募集の通知がないものもあるので、出身地の教育委員会などに問い合わせてください。

学芸員課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより学芸員の資格を取得することが可能です。

司書課程・司書教諭課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより司書及び司書教諭の資格取得が可能です。司書教諭の資格を有効にするには、併せて教員免許の取得が必要となります。

資格取得について詳しくはWEBをご覧ください。
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/campuslife/registration/licence/>



日藝

Art Transformation since 1921

Nihon University College of Art

日藝 CROSS



5分で
わかる

日藝の入学者選抜方式

入試カレンダー

タイプ別おすすめ入試

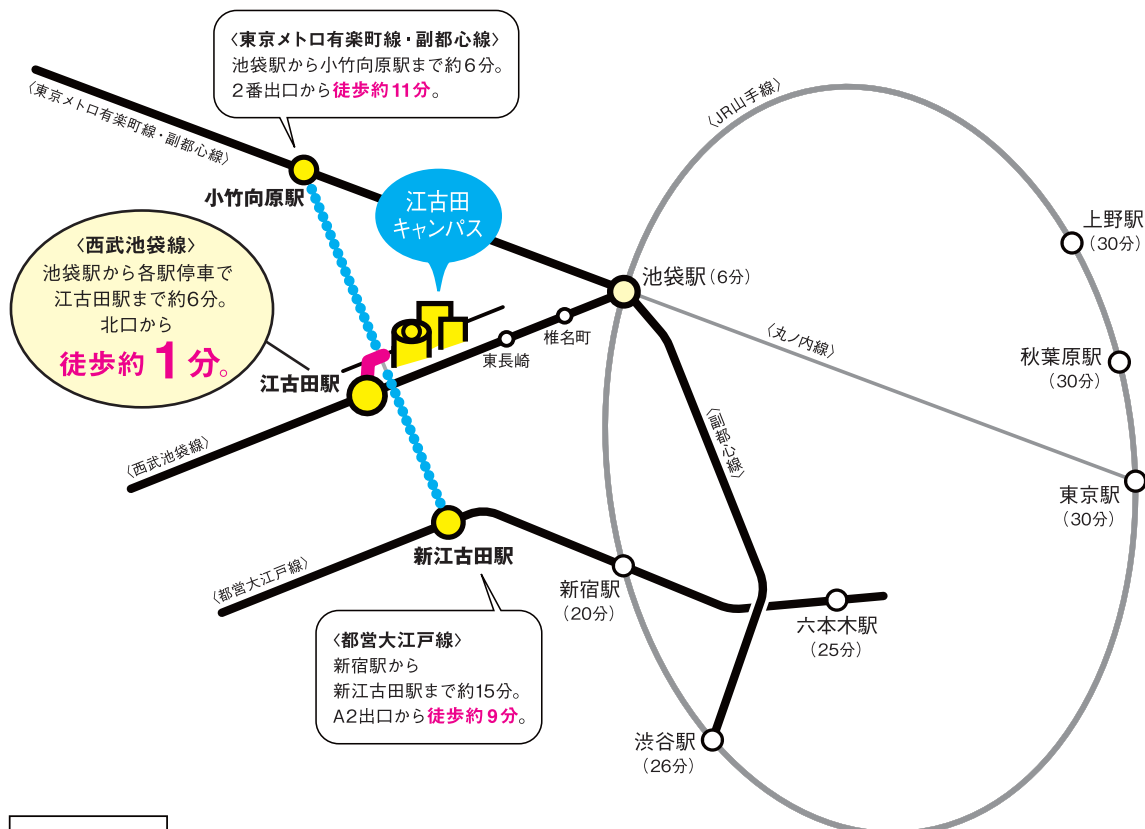
9-10月
総合型選抜

11月
学校推薦型選抜

2月/3月
一般選抜

「実技試験って難しそう」
「入試の種類がいっぱいあってわからない」…。
そんな人のために、
日藝の入試を種類別に紹介しています。

日藝を知りたい！
受験生のための
WEBサイト



()は江古田駅から各駅への所要時間
※六本木駅は新江古田駅から



〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1

TEL.03-5995-8200

www.art.nihon-u.ac.jp